埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第361集

東 松 山 市

反 町 遺 跡 Ⅰ

高坂駅東口第二特定土地区画整理事業地内
埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ
（第２分冊）

２００９

独立行政法人　都市再生機構
財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目 次

(第１分冊)

口絵
序
例言
凡例
目次

Ⅰ　発掘調査の概要
　１．発掘調査に至る経過 ……1
　２．発掘調査・報告書作成の経過 ……2
　（１）発掘調査 ……2
　（２）整理報告書の作成 ……2
　３．発掘調査・報告書作成の組織 ……4
Ⅱ　遺跡の立地と環境 ……5
　１．地理的環境 ……5
　２．歴史的環境 ……9
Ⅲ　遺跡群の概要 ……26
　１．遺跡群の概要 ……26
　２．銭塚・城敷遺跡の概要 ……26
　３．反町遺跡の概要 ……29
　４．反町遺跡Ａ・Ｂの概要 ……33
Ⅳ　Ａ区の遺構と遺物 ……39
　１．弥生時代 ……39
　（１）住居跡 ……39
　（２）方形周溝墓 ……48
　（３）土器棺墓 ……57
　（４）溝跡 ……62
　２．古墳時代 ……67
　（１）方形周溝墓 ……67
　（２）畠跡 ……71
　３．河川跡 ……79
　４．古代以降の遺構と遺物 ……90
　（１）溝跡 ……90
　（２）土壙 ……97
　（３）ピット ……99
Ⅴ　Ｂ区の遺構と遺物 ……104
　１．縄文時代 ……104
　２．古墳時代 ……105
　（１）古墳時代前期の住居跡 ……105
　（２）古墳時代中期・後期の住居跡 ……141
　（３）古墳時代の土壙 ……149
　（４）畠跡 ……154
　３．古代以降の遺構と遺物 ……155
　（１）住居跡 ……155
　（２）溝跡 ……157
　（３）土壙 ……161
　４．河川跡 ……164
　（１）第３号溝跡 ……164
　（２）第36号溝跡 ……182

(第２分冊)

　（３）第48号溝跡 ……263
　５．グリッド ……310
　（１）ピット ……310
　（２）グリッド出土の遺物 ……310
　６．表採の遺物 ……314
Ⅵ　科学分析
　１．反町遺跡出土木材の樹種 ……315
　２．反町遺跡出土木製品の樹種同定 ……346
　３．反町遺跡出土遺物の自然科学分析 ……353
　４．反町遺跡出土漆器の科学分析 ……360
　５．反町遺跡から出土した漆器の高級アルコール法による保存処理 ……369
Ⅶ　まとめ ……372

挿 図 目 次

（第２分冊）

第219図　第48号溝跡（１）……264
第220図　第48号溝跡（２）……265
第221図　第48号溝跡土器分布……266
第222図　第48号溝跡木製品分布……267
第223図　第48号溝跡遺物分布（１）……268
第224図　第48号溝跡遺物分布（２）……269
第225図　第48号溝跡遺物分布（３）……270
第226図　第48号溝跡遺物分布（４）……271
第227図　第48号溝跡遺物分布拡大図（１）…272
第228図　第48号溝跡出土遺物（１）……273
第229図　第48号溝跡出土遺物（２）……274
第230図　第48号溝跡出土遺物（３）……275
第231図　第48号溝跡出土遺物（４）……276
第232図　第48号溝跡出土遺物（５）……277
第233図　第48号溝跡出土遺物（６）……278
第234図　第48号溝跡出土遺物（７）……280
第235図　第48号溝跡出土遺物（８）……281
第236図　第48号溝跡出土遺物（９）……282
第237図　第48号溝跡出土遺物（10）……283
第238図　第48号溝跡出土遺物（11）……285
第239図　第48号溝跡出土遺物（12）……286
第240図　第48号溝跡出土遺物（13）……287
第241図　第48号溝跡出土遺物（14）……288
第242図　第48号溝跡出土遺物（15）……289
第243図　第48号溝跡出土遺物（16）……290
第244図　第48号溝跡出土遺物（17）……291
第245図　第48号溝跡出土遺物（18）……292
第246図　第48号溝跡出土遺物（19）……293
第247図　第48号溝跡出土木製品（１）……300
第248図　第48号溝跡出土木製品（２）……301
第249図　第48号溝跡出土木製品（３）……303
第250図　第48号溝跡出土木製品（４）……304
第251図　第48号溝跡出土木製品（５）……305
第252図　第48号溝跡出土木製品（６）……306
第253図　第48号溝跡出土木製品（７）……307
第254図　第48号溝跡出土木製品（８）……308
第255図　第48号溝跡出土木製品（９）……309
第256図　グリッドピット（１）……311
第257図　グリッドピット（２）……312
第258図　グリッド出土遺物……313
第259図　表採の遺物……314
第260図　第36号溝跡出土の編組製品（１）…325
第261図　第36号溝跡出土の編組製品（２）…326
第262図　分析試料実測図……355
第263図　ウマ上顎骨概念図……357
第264図　赤外線吸収スペクトル……363
第265図　赤外線吸収スペクトル……363
第266図　赤外線吸収スペクトル……363
第267図　赤外線吸収スペクトル（下地）……364
第268図　蛍光X線スペクトル（試料番号330）…364
第269図　蛍光X線スペクトル（試料番号331）…364
第270図　蛍光X線スペクトル（試料番号365）…365
第271図　岩鼻式土器と関連土器……374
第272図　岩鼻式土器を出土する遺跡……376
第273図　反町遺跡古段階の資料（１）……378
第274図　反町遺跡古段階の資料（２）……380
第275図　反町遺跡古段階の資料（３）……381
第276図　反町遺跡古段階の資料（４）……382
第277図　反町遺跡古段階の資料（５）……383
第278図　反町遺跡古段階の資料（６）……384
第279図　反町遺跡古段階の資料（７）……385
第280図　反町遺跡新段階の資料……387
第281図　第１号・第２号祭祀跡概念図……393
第282図　第１号・第２号祭祀跡出土遺物……394
第283図　参考資料１……396
第284図　県内出土雁股鏃集成図……398

表目次

(第２分冊)
第63表　第48号溝跡出土遺物観察表 ……294
第64表　第48号溝跡出土遺物観察表 ……295
第65表　第48号溝跡出土遺物観察表 ……296
第66表　第48号溝跡出土遺物観察表 ……297
第67表　第48号溝跡出土遺物観察表 ……298
第68表　第48号溝跡出土遺物観察表 ……299
第69表　ピット一覧表（B区）……310
第70表　グリッド出土遺物観察表 ……314
第71表　表採出土遺物観察表 ……314
第72表　反町遺跡出土木材の樹種 ……316
第73表　反町遺跡出土木材の樹種同定結果(1)…328
第74表　反町遺跡出土木材の樹種同定結果(2)…329
第75表　反町遺跡出土木材の樹種同定結果(3)…330
第76表　反町遺跡出土木材の樹種同定結果(4)…331
第77表　反町遺跡出土木材の樹種同定結果(5)…332
第78表　反町遺跡出土木材の樹種同定結果(6)…333
第79表　反町遺跡出土木材の樹種同定結果(7)…334
第80表　反町遺跡出土木材の樹種同定結果(8)…335
第81表　樹種同定結果 ……347
第82表　分析試料 ……353
第83表　放射性炭素年代測定結果 ……354
第84表　暦年較正結果 ……356
第85表　骨同定結果 ……358
第86表　埼玉県内出土の雁股鏃一覧表 ……399

写真図版目次

図版１　１　反町遺跡遠景（東から）
　　２　反町遺跡全景（北から）
図版２　１　A区南全景（北から）
　　２　A区南全景（中央から南）
　　３　A区南全景（中央から北）
図版３　１　A区方形周溝墓群全景（南から）
　　２　A区方形周溝墓群全景（北から）
　　３　A区南基本土層
図版４　１　A区第１号住居跡
　　２　A区第３号住居跡
　　３　A区第４号住居跡
図版５　１　A区第６号住居跡
　　２　A区第７号住居跡
　　３　A区第７号住居跡
図版６　１　A区第８号住居跡
　　２　A区第１号方形周溝墓
　　３　A区第１号方形周溝墓遺物出土状況
図版７　１　A区第１号方形周溝墓遺物出土状況
　　２　A区第３号方形周溝墓
　　３　A区第４号方形周溝墓
図版８　１　A区第４号方形周溝墓
　　２　A区第４号方形周溝墓・第１号土器棺墓
　　３　A区第５号方形周溝墓
図版９　１　A区第５号方形周溝墓南溝遺物出土状況（東から）
　　２　A区第５号方形周溝墓南溝遺物出土状況（１）
　　３　A区第５号方形周溝墓南溝遺物出土状況（２）・土層断面
図版10　１　A区第６号方形周溝墓（北から）
　　２　A区第７号方形周溝墓（北から）
　　３　A区第７号方形周溝墓西溝遺物出土状況（西から）
図版11　１　A区第７号方形周溝墓南溝遺物出土状況（北から）
　　２　A区第７号方形周溝墓遺物出土状況
　　３　A区第10号方形周溝墓（南東から）

図版12　1　A区第10号方形周溝墓遺物出土状況（北東から）
2　A区第10号方形周溝墓（No.3）遺物出土状況（北西から）
3　A区第10号方形周溝墓（No.4）遺物出土状況（北東から）
図版13　1　A区第11号方形周溝墓（南から）
2　A区第11号方形周溝墓（東から）
3　A区第11号方形周溝墓西壁断面
図版14　1　A区第11号方形周溝墓南溝遺物出土状況（北東から）
2　A区第11号方形周溝墓北溝遺物出土状況（北東から）
3　A区第11号方形周溝墓北溝（No.1）遺物出土状況
図版15　1　A区第11号方形周溝墓北溝北東隅側遺物出土状況
2　A区第11号方形周溝墓北溝（No.1）遺物出土状況
3　A区第1号土器棺墓断面（南から）
図版16　1　A区第1号土器棺墓出土状況（1）
2　A区第1号土器棺墓出土状況（2）
3　A区第2号土器棺墓検出状況
図版17　1　A区第2号土器棺墓断面（北から）
2　A区第2号土器棺墓出土状況（1）（北から）
3　A区第2号土器棺墓出土状況（2）（北から）
図版18　1　A区第2号土器棺墓（東から）
2　A区第2号土器棺墓口縁部の閉塞状況（1）
3　A区第2号土器棺墓口縁部の閉塞状況（2）
図版19　1　A区第2号溝跡（南から）
2　A区第2号溝跡遺物出土状況（東から）
3　A区第2号溝跡遺物集中状況（東から）
図版20　1　A区第2号溝跡遺物出土状況
2　A区第6・7号溝跡（東から）
3　A区第12号溝跡（北東から）
図版21　1　A区第12号溝跡遺物出土状況（No.3・4）
2　A区第47号溝跡（南西から）
3　A区第47号溝跡遺物出土状況（南西から）
図版22　1　A区第47号溝跡遺物出土状況
2　A区第47号溝跡（No.1）遺物出土状況（1）
3　A区第47号溝跡（No.1）遺物出土状況（2）
図版23　1　A区第47号溝跡（No.1）遺物出土状況（3）
2　A区第47号溝跡（No.1）遺物出土状況（4）
3　A区第1号畠跡
図版24　1　A区第1号畠跡（南東から）
2　A区第2号畠跡（東から）
3　A区第9・10号土壙（南から）
図版25　1　A区第13・14号土壙（東から）
2　A区第16・17・18・19号土壙（北東から）
3　A区AF66グリッドピット2
図版26　1　B区南半部全景（南から）
2　B区南半部全景（中央から南）
3　B区全景（北から）
図版27　1　B区全景（南から）
2　B区第10号住居跡（北東から）
3　B区第10号住居跡ピット2遺物出土状況
図版28　1　B区第10号住居跡ピット2炭化物分布状況
2　B区第10号住居跡貯蔵穴
3　B区第11号住居跡（北東から）

図版29　1　B区第12号住居跡（南から）
　　2　B区第12号住居跡掘り方（南から）
　　3　B区第12号住居跡遺物出土状況（1）
図版30　1　B区第12号住居跡遺物出土状況（2）
　　2　B区第12号住居跡遺物出土状況（3）
　　3　B区第12号住居跡遺物出土状況（4）
図版31　1　B区第12号住居跡遺物出土状況（5）
　　2　B区第12号住居跡掘り方遺物出土状況
　　3　B区第13号住居跡（東から）
図版32　1　B区第13号住居跡遺物出土状況
　　2　B区第14号住居跡（南東から）
　　3　B区第14号住居跡遺物出土状況
図版33　1　B区第15・21号住居跡（東から）
　　2　B区第15号住居跡掘り方（東から）
　　3　B区第18号住居跡（東から）
図版34　1　B区第19号住居跡（東から）
　　2　B区第19号住居跡掘り方（東から）
　　3　B区第20号住居跡遺物出土状況（1）（北西から）
図版35　1　B区第20号住居跡遺物出土状況（2）
　　2　B区第20号住居跡遺物出土状況（3）
　　3　B区第20号住居跡（№12）遺物出土状況
図版36　1　B区第23号住居跡（西から）
　　2　B区第23号住居跡遺物出土状況
　　3　B区第23号住居跡カマド
図版37　1　B区第25号住居跡
　　2　B区第29号住居跡（西から）
　　3　B区第29号住居跡カマド
図版38　1　B区第30号住居跡（東から）
　　2　B区第30号住居跡カマド
　　3　B区第33号住居跡（西から）
図版39　1　B区第38号住居跡（南から）
　　2　B区第38号住居跡北東コーナー遺物出土状況
　　3　B区第38・39・40号住居跡
図版40　1　B区第38・39・40号住居跡
　　2　B区第46号住居跡遺物出土状況
　　3　B区第３号溝跡全景（西から）
図版41　1　B区第３号溝跡全景（南から）
　　2　B区第３号溝跡全景（南東から）
　　3　B区第３号溝跡全景（北から）
図版42　1　B区第３号溝跡遺物出土状況（東から）
　　2　B区第３号溝跡北岸遺物出土状況
　　3　B区第３号溝跡北岸墨書土器出土状況
図版43　1　B区第３号溝跡墨書土器「三田万呂」出土状況（1）
　　2　B区第３号溝跡墨書土器「三田万呂」出土状況（2）
　　3　B区第３号溝跡墨書土器「三田万呂」出土状況（3）
図版44　1　B区第３号溝跡墨書土器「三田万呂」出土状況（4）
　　2　B区第３号溝跡墨書土器「飯万呂」出土状況
　　3　B区第３号溝跡**櫛**出土状況
図版45　1　B区第３号溝跡出土状況（木製品№６）
　　2　B区第３号溝跡施設２（木製品№７・８）（1）
　　3　B区第３号溝跡施設2（木製品№７・８）（2）
図版46　1　B区第３号溝跡施設２（３）
　　2　B区第３号溝跡施設１（1）
　　3　B区第３号溝跡施設１（2）
図版47　1　B区第36号溝跡全景
　　2　B区第36号溝跡完掘（南から）
　　3　B区第36号溝跡全景（中央から南）
図版48　1　B区第36号溝跡北面断面（1）
　　2　B区第36号溝跡（中央から北）
　　3　B区第36号溝跡断面

図版49　1　B区第36号溝跡西壁断面（1）
　　2　B区第36号溝跡西壁断面（2）
　　3　B区第36号溝跡北岸
　　（古墳時代前期汀線）
図版50　1　B区第36号溝跡北岸
　　（古墳時代前期汀線）（北から）
　　2　B区第36号溝跡北岸
　　（古墳時代前期汀線）遺物出土状況
　　3　B区第36号溝跡施設１・土器集中
図版51　1　B区第36号溝跡北岸（古墳時代前期）
　　遺物出土状況（1）
　　2　B区第36号溝跡北岸（古墳時代前期）
　　遺物出土状況（2）
　　3　B区第36号溝跡北岸（古墳時代前期）
　　遺物出土状況（3）
図版52　1　B区第36号溝跡北岸（古墳時代前期）
　　遺物出土状況（4）
　　2　B区第36号溝跡北岸（古墳時代前期）
　　遺物出土状況（5）
　　3　B区第36号溝跡P66G付近
　　（古墳時代前期）遺物出土状況（1）
図版53　1　B区第36号溝跡P66G付近
　　（古墳時代前期）遺物出土状況（2）
　　2　B区第36号溝跡P66G付近（古墳時
　　代前期）遺物出土状況（西から）
　　3　B区第36号溝跡P66G付近（古墳時
　　代前期）遺物出土状況（南から）
図版54　1　B区第36号溝跡P66G施設（東から）
　　（1）
　　2　B区第36号溝跡P66G施設（東から）
　　（2）
　　3　B区第36号溝跡P66G施設（東から）
　　（3）
図版55　1　B区第36号溝跡P66G付近
　　遺物出土状況（南から）
　　2　B区第36号溝跡北岸杭列
　　3　B区第36号溝跡
　　遺物集中出土状況（1）
図版56　1　B区第36号溝跡P66G付近
　　遺物出土状況
　　2　B区第36号溝跡北岸杭打設状況
　　3　B区第36号溝跡P66G南側
　　木製品出土状況
図版57　1　B区第36号溝跡施設（北から）
　　2　B区第36号溝跡P66G北側
　　遺物出土状況
　　3　B区第36号溝跡（木製品No.2）
　　出土状況
図版58　1　B区第36号溝跡P66G北側
　　木製品出土状況（1）
　　2　B区第36号溝跡P66G北側
　　木製品出土状況（2）
　　3　B区第36号溝跡（木製品No.15）
　　出土状況
図版59　1　B区第36号溝跡P66G北側
　　木製品出土状況
　　2　B区第36号溝跡（木製品No.1）
　　出土状況
　　3　B区第36号溝跡（木製品No.3）
　　出土状況
図版60　1　B区第36号溝跡木製品出土状況（1）
　　2　B区第36号溝跡木製品出土状況（2）
　　3　B区第36号溝跡P66G
　　（古墳時代前期）杭打設状況
図版61　1　B区第36号溝跡遺物出土状況（1）
　　2　B区第36号溝跡遺物出土状況（2）
　　3　B区第36号溝跡遺物出土状況（3）
図版62　1　B区第36号溝跡（No.77）遺物出土状況
　　2　B区第36号溝跡台付甕出土状況
　　3　B区第36号溝跡（No.63）遺物出土状況
図版63　1　B区第36号溝跡（No.75）遺物出土状況
　　2　B区第36号溝跡遺物出土状況
　　3　B区第36号溝跡（No.40）遺物出土状況
図版64　1　B区第36号溝跡器台出土状況

2　B区第36号溝跡遺物出土状況
3　B区第36号溝跡南側（北から）
図版65　1　B区第36号溝跡古墳前期遺物出土状況
2　B区第36号溝跡（№152）遺物出土状況
3　B区第36号溝跡遺物出土状況
図版66　1　B区第36号溝跡(№6)遺物出土状況
2　B区第36号溝跡S66G付近（西から）
3　B区第36号溝跡（№219）遺物出土状況
図版67　1　B区第36号溝跡S66G自然木出土状況（東から）
2　B区第36号溝跡T66G付近杭列出土状況（東から）
3　B区第36号溝跡加工材出土状況
図版68　1　B区第36号溝跡S66G付近古墳時代前期遺物出土状況（1）
2　B区第36号溝跡S66G付近古墳時代前期遺物出土状況（2）
3　B区第36号溝跡(№74)遺物出土状況
図版69　1　B区第36号溝跡北岸古墳時代後期汀線
2　B区第36号溝跡北岸古墳時代後期汀線
3　B区第36号溝跡北岸古墳時代後期立ち上がり断面
図版70　1　B区第36号溝跡古墳時代後期遺物出土状況
2　B区第36号溝跡土師器甕出土状況
3　B区第36号溝跡土師器坏出土状況
図版71　1　B区第36号溝跡北岸第1号祭祀跡「神矢」墨書土器出土状況（1）
2　B区第36号溝跡北岸第1号祭祀跡「神矢」墨書土器出土状況（2）
3　B区第36号溝跡第1号祭祀跡遺物出土状況（南西から）
図版72　1　B区第36号溝跡第1号祭祀跡遺物出土状況（北西から）
2　B区第36号溝跡第1号祭祀跡遺物出土状況（北西から）
3　B区第36号溝跡第1号祭祀跡遺物出土状況（北から）
図版73　1　B区第36号溝跡第1号祭祀跡遺物出土状況（南東から）
2　B区第36号溝跡第1号祭祀跡須恵器長頸瓶出土状況
3　B区第36号溝跡第1号祭祀跡須恵器坏出土状況
図版74　1　B区第36号溝跡第1号祭祀跡須恵器坏出土状況
2　B区第36号溝跡漆パレット出土状況
3　B区第36号溝跡R66G雁股鏃（№356）出土状況
図版75　1　B区第36号溝跡R66G雁股鏃（№356）矢柄装着状況
2　B区第36号溝跡付札状木製品（№21）出土状況
3　B区第36号溝跡刺し網出土状況(1)
図版76　1　B区第36号溝跡刺し網出土状況(2)
2　B区第36号溝跡刺し網出土状況アップ（1）
3　B区第36号溝跡刺し網出土状況アップ（2）
図版77　1　B区第36号溝跡刺し網出土状況アップ（3）
2　B区第36号溝跡刺し網出土状況アップ（4）
3　B区第36号溝跡Q66G籠（№72）出土状況（北東から）
図版78　1　B区第36号溝跡Q66G籠（№72）出土状況（南西から）（1）
2　B区第36号溝跡Q66G籠（№72）出土状況（南西から）（2）

3　B区第36号溝跡
籠（№72）出土状況（全体）

図版79　1　B区第36号溝跡
籠（№72）前側縁部出土状況
2　B区第36号溝跡
籠（№72）中央部分の編物部分（1）
3　B区第36号溝跡
籠（№72）中央部分の編物部分（2）

図版80　1　B区第36号溝跡墨書土器（№323）
2　B区第36号溝跡締め具（№43）出土状況
3　B区第36号溝跡締め具（№43）出土状況アップ

図版81　1　B区第36号溝跡遺物出土状況
2　B区第36号溝跡
須恵器（漆パレット）出土状況
3　B区第36号溝跡漆椀出土状況

図版82　1　B区第36号溝跡遺物出土状況
2　B区第36号溝跡
曲物底部（№34）出土状況
3　B区第36号溝跡馬の下顎出土状況

図版83　1　B区第36号溝跡樹皮巻出土状況（1）
2　B区第36号溝跡樹皮巻出土状況（2）
3　B区第36号溝跡樹皮巻出土状況（3）

図版84　1　B区第36号溝跡
短刀（№362）出土状況
2　B区第36号溝跡
鞘（№18）出土状況
3　B区第36号溝跡
曲物底部（№33）出土状況

図版85　1　B区第36号溝跡漆椀出土状況
2　B区第36号溝跡花瓶（№355）出土状況
3　B区第36号溝跡短頸壺（№354）出土状況

図版86　1　B区第36号溝跡籠出土状況
2　B区第48号溝跡全景（南から）
3　B区第48号溝跡北岸テラス遺物集中地点（西から）（1）

図版87　1　B区第48号溝跡北岸テラス遺物集中地点（西から）（2）
2　B区第48号溝跡
木樋（№16）出土状況（東から）
3　B区第48号溝跡
木樋（№16）出土状況（南から）

図版88　1　B区第48号溝跡北岸遺物出土状況（西から）
2　B区第48号溝跡北岸遺物出土状況（南から）
3　B区第48号溝跡遺物出土状況（西から）

図版89　1　B区第48号溝跡北岸と玉作工房（南から）
2　B区第48号溝跡河床（西から）
3　B区第48号溝跡北東斜面

図版90　1　B区第48号溝跡南側河床出土状況
2　B区第48号溝跡北側テラス遺物出土状況
3　B区第48号溝跡下層遺物出土状況

図版91　1　B区第48号溝跡下層（№1）遺物出土状況
2　B区第48号溝跡（№250）遺物出土状況
3　B区第48号溝跡（№9）遺物出土状況

図版92　1　B区第23号土壙遺物出土状況
2　B区第25号土壙（南から）
3　B区第26号土壙遺物出土状況

図版93　1　第10号住居跡（第80図2）
2　第10号住居跡（第80図4）
3　第10号住居跡（第80図5）
4　第10号住居跡（第80図3）
5　第11号住居跡（第82図2）
6　第11号住居跡（第82図1）

	7	第12号住居跡（第85図13）
図版94	1	第12号住居跡（第87図38）
	2	第12号住居跡（第85図14）
	3	第12号住居跡（第86図29）
	4	第12号住居跡（第87図42）
	5	第12号住居跡（第86図31）
	6	第12号住居跡（第85図３）
	7	第12号住居跡（第85図２）
図版95	1	第12号住居跡（第86図32）
	2	第12号住居跡（第87図43）
	3	第12号住居跡（第86図36）
	4	第12号住居跡（第85図18）
	5	第12号住居跡（第85図16）
	6	第12号住居跡（第85図12）
図版96	1	第12号住居跡（第87図41）
	2	第12号住居跡（第85図20）
	3	第12号住居跡（第85図11）
	4	第12号住居跡（第85図10）
	5	第12号住居跡（第85図21）
	6	第12号住居跡（第85図19）
図版97	1	第13号住居跡（第89図10）
	2	第17号住居跡（第119図１）
	3	第17号住居跡（第119図５）
	4	第18号住居跡（第97図2）
	5	第18号住居跡（第97図1）
図版98	1	第20号住居跡（第104図44）
	2	第20号住居跡（第104図45）
	3	第20号住居跡（第104図43）
	4	第20号住居跡（第102図21）
	5	第20号住居跡（第102図14）
	6	第20号住居跡（第102図13）
	7	第20号住居跡（第103図37）
図版99	1	第20号住居跡（第104図41）
	2	第20号住居跡（第104図42）
	3	第20号住居跡（第101図３）
	4	第20号住居跡（第104図39）
	5	第20号住居跡（第104図39）
	6	第20号住居跡（第104図39）
図版100	1	第20号住居跡（第101図１）
	2	第20号住居跡（第103図30）
	3	第20号住居跡（第103図33）
	4	第20号住居跡（第101図４）
	5	第20号住居跡（第103図31）
	6	第20号住居跡（第102図17）
図版101	1	第20号住居跡（第102図18）
	2	第20号住居跡（第102図20）
	3	第20号住居跡（第102図15）
	4	第20号住居跡（第101図５）
	5	第20号住居跡（第102図12）
	6	第20号住居跡（第102図19）
図版102	1	第20号住居跡（第101図２）
	2	第23号住居跡（第134図１）
	3	第25号住居跡（第121図２）
	4	第30号住居跡（第123図４）
	5	第30号住居跡（第123図７）
	6	第30号住居跡（第123図１）
図版103	1	第34号住居跡（第125図１）
	2	第38号住居跡（第115図５）
	3	第38号住居跡（第115図４）
	4	第38号住居跡（第115図６）
	5	第47号住居跡（第128図１）
	6	第１号土器棺墓（第36図１）
図版104	1	第１号土器棺墓（第36図３）
	2	第１号土器棺墓（第36図２）
	3	第２号土器棺墓（第39図３）
	4	第２号土器棺墓（第39図３）細部
	5	第２号土器棺墓（第38図２）
図版105	1	第２号土器棺墓（第38図１）
	2	第10号方形周溝墓（第32図３）
	3	第10号方形周溝墓（第32図３）細部
	4	第11号方形周溝墓（第34図１）
	5	第11号方形周溝墓（第34図１）口縁細部

	6	第11号方形周溝墓（第34図１）
		胴部細部
図版106	1	第５号方形周溝墓（第30図１）
	2	第７号方形周溝墓（第50図２）
	3	第７号方形周溝墓（第51図10）
	4	第10号方形周溝墓（第32図４）
図版107	1	第１号方形周溝墓（第45図１）
	2	第４号方形周溝墓（第29図２）
	3	第７号方形周溝墓（第51図11）
	4	第７号方形周溝墓（第51図15）
	5	第７号方形周溝墓（第50図１）
	6	第７号方形周溝墓（第50図５）
図版108	1	第７号方形周溝墓（第51図13）
	2	第７号方形周溝墓（第51図16）
	3	第10号方形周溝墓（第32図２）
	4	第11号方形周溝墓（第34図２）
	5	第23号土壙（第130図１）
	6	第23号土壙（第130図３）
	7	第24号土壙（第130図７）
図版109	1	第26号土壙（第130図10）
	2	第26号土壙（第131図12）
	3	第26号土壙（第131図11）
	4	第26号土壙（第130図９）
図版110	1	第26号土壙（第131図13）
	2	第26号土壙（第131図14）
	3	第26号土壙（第131図15）
	4	第２号溝跡（第61図23）
	5	第２号溝跡（第62図41）
図版111	1	第２号溝跡（第59図１）
	2	第２号溝跡（第60図10）
	3	第２号溝跡（第61図15）
	4	第２号溝跡（第61図15）細部
図版112	1	第２号溝跡（第59図５）
	2	第２号溝跡（第59図５）
	3	第２号溝跡（第59図５）
	4	第２号溝跡（第59図６）
	5	第２号溝跡（第60図12）
	6	第２号溝跡（第59図２）
図版113	1	第２号溝跡（第61図16）
	2	第２号溝跡（第61図17）
	3	第２号溝跡（第62図25）
	4	第２号溝跡（第60図13）
	5	第２号溝跡（第62図42）
	6	第２号溝跡（第62図24）
	7	第２号溝跡（第61図22）
図版114	1	第２号溝跡（第59図３）
	2	第２号溝跡（第61図20）
	3	第２号溝跡（第60図14）
	4	第３号溝跡（第143図１）
	5	第３号溝跡（第143図２）
	6	第３号溝跡（第143図10）
図版115	1	第３号溝跡（第143図３）
	2	第３号溝跡（第143図15）
	3	第３号溝跡（第144図19）
	4	第３号溝跡（第144図22）
	5	第３号溝跡（第144図24）
	6	第３号溝跡（第144図36）
図版116	1	第３号溝跡（第144図28）
	2	第３号溝跡（第144図34）
	3	第３号溝跡（第144図26）
	4	第３号溝跡（第144図29）
	5	第３号溝跡（第145図42）
	6	第３号溝跡（第145図50）
	7	第３号溝跡（第145図49）
図版117	1	第３号溝跡（第145図51）
	2	第３号溝跡（第145図52）
	3	第３号溝跡（第145図56）
	4	第３号溝跡（第145図53）
	5	第３号溝跡（第146図64）
	6	第３号溝跡（第147図75）
	7	第３号溝跡（第147図76）
図版118	1	第３号溝跡（第147図88）
	2	第３号溝跡（第147図88）墨書
	3	第３号溝跡（第147図88）墨書

	4	第３号溝跡（第147図98）
	5	第３号溝跡（第147図98）墨書
	6	第３号溝跡（第147図98）墨書
図版119	1	第３号溝跡（第147図89）
	2	第３号溝跡（第147図89）墨書
	3	第３号溝跡（第147図89）墨書
	4	第３号溝跡（第147図97）
	5	第３号溝跡（第147図97）墨書
	6	第３号溝跡（第147図97）墨書
図版120	1	第３号溝跡（第147図80）
	2	第３号溝跡（第147図82）
	3	第３号溝跡（第148図100）
	4	第３号溝跡（第148図99）
	5	第３号溝跡（第148図106）
	6	第３号溝跡（第148図105）
	7	第３号溝跡（第147図94）墨書
	8	第３号溝跡（第147図96）墨書
図版121	1	第３号溝跡（第147図87）墨書
	2	第３号溝跡（第147図95）墨書
	3	第３号溝跡（第147図95）墨書
	4	第３号溝跡（第147図90）墨書
	5	第３号溝跡（第147図93）墨書
	6	第３号溝跡（第148図108）見込み
	7	第３号溝跡（第148図108）底面
図版122	1	第６号溝跡（第67図１）
	2	第16号溝跡（第137図１）
	3	第16号溝跡（第137図３）
	4	第12号溝跡（第41図５）
	5	第12号溝跡（第41図３）
	6	第12号溝跡（第41図４）
図版123	1	第36号溝跡（第173図１）
	2	第36号溝跡（第173図６）
	3	第36号溝跡（第173図９）
	4	第36号溝跡（第173図２）
	5	第36号溝跡（第173図３）
	6	第36号溝跡（第173図15）
	7	第36号溝跡（第173図14）
図版124	1	第36号溝跡（第174図22）
	2	第36号溝跡（第174図19）
	3	第36号溝跡（第174図20）
	4	第36号溝跡（第174図30）
	5	第36号溝跡（第174図26）
	6	第36号溝跡（第174図26）細部
	7	第36号溝跡（第174図31）
図版125	1	第36号溝跡（第174図28）
	2	第36号溝跡（第175図32）
	3	第36号溝跡（第175図33）
	4	第36号溝跡（第175図34）
	5	第36号溝跡（第175図36）
	6	第36号溝跡（第175図38）
	7	第36号溝跡（第175図37）
	8	第36号溝跡（第175図39）
	9	第36号溝跡（第176図44）
図版126	1	第36号溝跡（第177図63）
	2	第36号溝跡（第177図64）
	3	第36号溝跡（第177図61）
	4	第36号溝跡（第177図62）
	5	第36号溝跡（第177図59）
	6	第36号溝跡（第177図60）
図版127	1	第36号溝跡（第177図71）
	2	第36号溝跡（第177図72）
	3	第36号溝跡（第177図73）
	4	第36号溝跡（第177図74）
	5	第36号溝跡（第177図75）
	6	第36号溝跡（第177図77）
図版128	1	第36号溝跡（第178図78）
	2	第36号溝跡（第178図79）
	3	第36号溝跡（第178図81）
	4	第36号溝跡（第178図82）
	5	第36号溝跡（第178図83）
	6	第36号溝跡（第178図84）
図版129	1	第36号溝跡（第178図85）
	2	第36号溝跡（第179図86）
	3	第36号溝跡（第179図87）

	4	第36号溝跡（第179図88）
	5	第36号溝跡（第179図89）
	6	第36号溝跡（第179図91）
図版130	1	第36号溝跡（第180図92）
	2	第36号溝跡（第180図93）
	3	第36号溝跡（第180図94）
	4	第36号溝跡（第180図95）
	5	第36号溝跡（第180図96）
	6	第36号溝跡（第180図97）
図版131	1	第36号溝跡（第181図108）
	2	第36号溝跡（第181図110）
	3	第36号溝跡（第181図113）
	4	第36号溝跡（第181図127）
	5	第36号溝跡（第181図130）
	6	第36号溝跡（第181図131）
図版132	1	第36号溝跡（第181図132）
	2	第36号溝跡（第181図117）
	3	第36号溝跡（第181図119）
	4	第36号溝跡（第181図120）
	5	第36号溝跡（第181図121）
	6	第36号溝跡（第181図122）
図版133	1	第36号溝跡（第182図136）
	2	第36号溝跡（第182図137）
	3	第36号溝跡（第182図138）
	4	第36号溝跡（第182図139）
	5	第36号溝跡（第182図140）
	6	第36号溝跡（第182図141）
図版134	1	第36号溝跡（第182図142）
	2	第36号溝跡（第182図145）
	3	第36号溝跡（第183図150）
	4	第36号溝跡（第186図213）
	5	第36号溝跡（第186図215）
	6	第36号溝跡（第186図219）
	7	第36号溝跡（第186図220）
図版135	1	第36号溝跡（第186図225）
	2	第36号溝跡（第186図228）
	3	第36号溝跡（第186図229）
	4	第36号溝跡（第186図230）
	5	第36号溝跡（第186図231）
	6	第36号溝跡（第187図236）
図版136	1	第36号溝跡（第187図237）
	2	第36号溝跡（第187図238）
	3	第36号溝跡（第186図224）
	4	第36号溝跡（第187図250）
	5	第36号溝跡（第187図244）
	6	第36号溝跡（第187図245）
	7	第36号溝跡（第187図246）
図版137	1	第36号溝跡（第187図248）
	2	第36号溝跡（第187図253）
	3	第36号溝跡（第188図255）
	4	第36号溝跡（第188図256）
	5	第36号溝跡（第188図257）
	6	第36号溝跡（第188図259）
	7	第36号溝跡（第188図261）
図版138	1	第36号溝跡（第188図264）
	2	第36号溝跡（第188図266）
	3	第36号溝跡（第188図267）
	4	第36号溝跡（第188図270）
	5	第36号溝跡（第188図269）
	6	第36号溝跡（第188図272）
	7	第36号溝跡（第188図274）
図版139	1	第36号溝跡（第188図275）
	2	第36号溝跡（第188図276）
	3	第36号溝跡（第188図279）
	4	第36号溝跡（第188図280）
	5	第36号溝跡（第188図281）
	6	第36号溝跡（第191図301）
図版140	1	第36号溝跡（第191図302）
	2	第36号溝跡（第191図309）
	3	第36号溝跡（第191図306）
	4	第36号溝跡（第191図303）
	5	第36号溝跡（第191図303）
	6	第36号溝跡（第191図310）
図版141	1	第36号溝跡（第203図312）

	2	第36号溝跡（第203図313）
	3	第36号溝跡（第203図314）
	4	第36号溝跡（第203図315）
	5	第36号溝跡（第203図316）
	6	第36号溝跡（第203図317）
	7	第36号溝跡（第203図319）
	8	第36号溝跡（第203図320）
図版142	1	第36号溝跡（第203図318）
	2	第36号溝跡（第203図318）墨書
	3	第36号溝跡（第203図321）
	4	第36号溝跡（第203図321）墨書
	5	第36号溝跡（第203図322）
	6	第36号溝跡（第203図322）墨書
	7	第36号溝跡（第203図322）墨書
図版143	1	第36号溝跡（第203図323）
	2	第36号溝跡（第203図323）墨書
	3	第36号溝跡（第203図323）墨書
	4	第36号溝跡（第203図332）
	5	第36号溝跡（第203図332）墨書
	6	第36号溝跡（第203図332）墨書
図版144	1	第36号溝跡（第203図330）
	2	第36号溝跡（第205図354）
	3	第36号溝跡（第205図353）
	4	第36号溝跡（第205図350）
	5	第36号溝跡（第207図363）
	6	第36号溝跡（第207図364）
	7	第36号溝跡（第206図359）
図版145	1	第36号溝跡（第205図351）
	2	第36号溝跡（第205図351）
	3	第36号溝跡（第205図355）
	4	第36号溝跡（第206図356）
図版146	1	第36号溝跡（第206図357）
	2	第36号溝跡（第206図358）
	3	第36号溝跡（第206図361）
	4	第36号溝跡（第206図356）細部
	5	第36号溝跡（第206図360）細部
	6	第36号溝跡（第206図360）
	7	第36号溝跡（第206図362）
図版147	1	第47号溝跡（第43図１）
	2	第48号溝跡（第228図２）
	3	第48号溝跡（第228図３）
	4	第48号溝跡（第228図１）
	5	第48号溝跡（第228図１）口縁細部
	6	第48号溝跡（第228図１）口縁細部
図版148	1	第48号溝跡（第228図４）口縁細部
	2	第48号溝跡（第228図４）
	3	第48号溝跡（第228図４）胴部細部
	4	第48号溝跡（第229図５）
	5	第48号溝跡（第229図６）
	6	第48号溝跡（第229図12）
	7	第48号溝跡（第229図13）
	8	第48号溝跡（第230図18）
図版149	1	第48号溝跡（第230図23）
	2	第48号溝跡（第230図28）
	3	第48号溝跡（第230図31）
	4	第48号溝跡（第230図32）
	5	第48号溝跡（第231図33）
	6	第48号溝跡（第231図34）
	7	第48号溝跡（第231図35）
	8	第48号溝跡（第234図89）
図版150	1	第48号溝跡（第234図90）
	2	第48号溝跡（第234図91）
	3	第48号溝跡（第234図93）
	4	第48号溝跡（第234図94）
	5	第48号溝跡（第234図95）
	6	第48号溝跡（第234図96）
図版151	1	第48号溝跡（第234図97）
	2	第48号溝跡（第234図98）
	3	第48号溝跡（第234図99）
	4	第48号溝跡（第234図100）
	5	第48号溝跡（第234図101）
	6	第48号溝跡（第234図101）
図版152	1	第48号溝跡（第234図102）
	2	第48号溝跡（第234図103）

	3	第48号溝跡（第234図104）
	4	第48号溝跡（第235図108）
	5	第48号溝跡（第235図109）
	6	第48号溝跡（第235図110）
図版153	1	第48号溝跡（第235図111）
	2	第48号溝跡（第235図112）
	3	第48号溝跡（第235図113）
	4	第48号溝跡（第236図114）
	5	第48号溝跡（第236図115）
	6	第48号溝跡（第236図116）
図版154	1	第48号溝跡（第236図117）
	2	第48号溝跡（第236図118）
	3	第48号溝跡（第236図119）
	4	第48号溝跡（第237図121）
	5	第48号溝跡（第237図122）
	6	第48号溝跡（第237図129）
図版155	1	第48号溝跡（第237図131）
	2	第48号溝跡（第237図132）
	3	第48号溝跡（第237図133）
	4	第48号溝跡（第237図134）
	5	第48号溝跡（第237図137）
	6	第48号溝跡（第238図158）
図版156	1	第48号溝跡（第238図161）
	2	第48号溝跡（第240図180）
	3	第48号溝跡（第240図181）
	4	第48号溝跡（第240図184）
	5	第48号溝跡（第240図190）
	6	第48号溝跡（第240図191）
図版157	1	第48号溝跡（第240図197）
	2	第48号溝跡（第240図201）
	3	第48号溝跡（第240図202）
	4	第48号溝跡（第240図203）
	5	第48号溝跡（第240図204）
	6	第48号溝跡（第240図212）
図版158	1	第48号溝跡（第241図219）
	2	第48号溝跡（第241図220）
	3	第48号溝跡（第241図221）
	4	第48号溝跡（第241図223）
	5	第48号溝跡（第242図232）
	6	第48号溝跡（第243図235）
図版159	1	第48号溝跡（第242図233）
	2	第48号溝跡（第242図233） 口縁細部
	3	第48号溝跡（第242図233） 胴部細部
	4	第48号溝跡（第243図236）
	5	第48号溝跡（第243図236）細部
図版160	1	第48号溝跡（第243図237）
	2	第48号溝跡（第243図237）墨書
	3	第48号溝跡（第246図268）
	4	第48号溝跡（第246図268）墨書
	5	第48号溝跡（第246図269）
	6	第48号溝跡（第246図269）墨書
図版161	1	第48号溝跡（第245図260）
	2	第48号溝跡（第245図261）
	3	第48号溝跡（第245図262）
	4	第48号溝跡（第245図265）
	5	第48号溝跡（第246図267）
	6	第51号溝跡（第138図１）
図版162	1	グリッド（第258図１）
	2	グリッド（第258図６）
	3	グリッド（第258図７）
	4	グリッド（第258図８）
	5	グリッド（第258図９）
	6	グリッド（第258図10）
図版163	1	第１・３・４・７・11号方形周溝墓、 第４号住居跡、第12号溝跡
	2	第２・47号溝跡
	3	第２・３・36号溝跡
図版164	1	第10・12・13・14・19号住居跡
	2	第３号溝跡
	3	第36号溝跡
図版165	1	第36号溝跡（１）
	2	第36号溝跡（２）

	3	第36号溝跡（3）
図版166	1	第36号溝跡（4）
	2	第36号溝跡（5）
	3	第36号溝跡（6）
図版167	1	第16・36号溝跡
	2	第48号溝跡（1）
	3	第48号溝跡（2）
図版168	1	第48号溝跡（3）
	2	第48号溝跡（4）
	3	板碑　表採（第259図3）
図版169	1	第2号溝跡（第63図1）
	2	第2号溝跡（第63図1）
	3	第3号溝跡（第151図1）
	4	第3号溝跡（第151図2）
図版170	1	第3号溝跡（第151図3）
	2	第3号溝跡（第152図5）
	3	第3号溝跡（第152図6）
	4	第3号溝跡（第152図7）
図版171	1	第3号溝跡（第152図8）
	2	第3号溝跡（第152図8）
	3	第3号溝跡（第152図8）
	4	第3号溝跡（第152図8）
	5	第3号溝跡（第153図9）
図版172	1	第3号溝跡（第153図10）
	2	第3号溝跡（第153図10）
	3	第3号溝跡（第154図14）
	4	第3号溝跡（第154図17）
	5	第3号溝跡（第154図18）
図版173	1	第3号溝跡（第153図12）
	2	第3号溝跡（第153図12）
	3	第3号溝跡（第154図12）
	4	第3号溝跡（第154図19）
図版174	1	第36号溝跡（第208図1）
	2	第36号溝跡（第208図1）
	3	第36号溝跡（第208図1）
	4	第36号溝跡（第208図1）
図版175	1	第36号溝跡（第209図2）
	2	第36号溝跡（第209図2）
	3	第36号溝跡（第209図2）
	4	第36号溝跡（第209図3）
	5	第36号溝跡（第209図3）
図版176	1	第36号溝跡（第209図4）
	2	第36号溝跡（第209図5）
	3	第36号溝跡（第209図6）
	4	第36号溝跡（第209図7）
図版177	1	第36号溝跡（第210図8）
	2	第36号溝跡（第210図8）
	3	第36号溝跡（第210図9）
	4	第36号溝跡（第211図27）
図版178	1	第36号溝跡（第210図2）
	2	第36号溝跡（第210図13）
	3	第36号溝跡（第210図13）
	4	第36号溝跡（第210図14）
	5	第36号溝跡（第211図15）
図版179	1	第36号溝跡（第211図16）
	2	第36号溝跡（第211図17）
	3	第36号溝跡（第211図18）
	4	第36号溝跡（第211図19）
	5	第36号溝跡（第211図20）
	6	第36号溝跡（第211図21）
図版180	1	第36号溝跡（第211図22）
	2	第36号溝跡（第211図23）
	3	第36号溝跡（第213図43）
	4	第36号溝跡（第211図25）
	5	第36号溝跡（第212図30）
	6	第36号溝跡（第212図35）
	7	第36号溝跡（第211図29）
図版181	1	第36号溝跡（第213図38）
	2	第36号溝跡（第213図39）
	3	第36号溝跡（第213図40）
	4	第36号溝跡（第213図41）
	5	第36号溝跡（第213図42）
図版182	1	第36号溝跡（第213図44）
	2	第36号溝跡（第213図45）

	3	第36号溝跡（第213図46）
	4	第36号溝跡（第213図47）
	5	第36号溝跡（第213図48）
	6	第36号溝跡（第213図49）
	7	第36号溝跡（第213図50）
図版183	1	第36号溝跡（第213図51）
	2	第36号溝跡（第213図52）
	3	第36号溝跡（第213図53）
	4	第36号溝跡（第213図54）
	5	第36号溝跡（第213図55）
	6	第36号溝跡（第214図66）
	7	第36号溝跡（第214図67）
図版184	1	第36号溝跡（第212図36）
	2	第36号溝跡（第214図63）
	3	第36号溝跡（第214図65）
	4	第36号溝跡（第214図56）
	5	第36号溝跡（第214図68）
図版185	1	第36号溝跡（第215図69）
	2	第36号溝跡（第215図70）
	3	第36号溝跡（第215図70）
	4	第36号溝跡（第215図71）
	5	第36号溝跡（第215図71）
図版186	1	第36号溝跡（第216図72）
	2	第48号溝跡（第247図２）
	3	第48号溝跡（第247図３）
図版187	1	第48号溝跡（第247図１）
	2	第48号溝跡（第247図１）
	3	第48号溝跡（第247図１）
図版188	1	第48号溝跡（第247図４）
	2	第48号溝跡（第247図４）
	3	第48号溝跡（第247図４）
図版189	1	第48号溝跡（第247図５）
	2	第48号溝跡（第247図６）
	3	第48号溝跡（第247図６）
図版190	1	第48号溝跡（第248図８）
	2	第48号溝跡（第248図９）
	3	第48号溝跡（第248図10）
図版191	1	第48号溝跡（第249図11）
	2	第48号溝跡（第250図13）
図版192	1	第48号溝跡（第247図７）
	2	第48号溝跡（第250図12）
	3	第48号溝跡（第250図14）
	4	第48号溝跡（第250図15）
図版193	1	第48号溝跡（第251図16）
	2	第48号溝跡（第251図16）
	3	第48号溝跡（第251図16）
図版194	1	第48号溝跡（第252図17）
	2	第48号溝跡（第252図17）
	3	第48号溝跡（第252図17）
	4	第48号溝跡（第252図19）
	5	第48号溝跡（第252図19）
図版195	1	第48号溝跡（第252図18）
	2	第48号溝跡（第252図20）
	3	第48号溝跡（第253図21）
	4	第48号溝跡（第253図25）
図版196	1	第48号溝跡（第253図23）
図版197	1	第48号溝跡（第253図24）
	2	第48号溝跡（第254図28）
	3	第48号溝跡（第254図29）
図版198	1	第48号溝跡（第254図26）
図版199	1	第48号溝跡（第254図27）
	2	第48号溝跡（第255図32）
	3	第48号溝跡（第255図34）
図版200	漆分析顕微鏡写真（１）	
図版201	漆分析顕微鏡写真（２）	

（３）第48号溝跡

調査区の北側、Ｇ～Ｉ－65・66グリッドに位置する。北岸に第44号住居跡、第50号溝跡が、南岸には第29・32号住居跡、第51号溝跡、第25・26号土壙が重複する。本遺構より明らかに新しいのは第29号住居跡、第50・51号溝跡のみで、その他は新旧というより、その遺構が造られた時期より後に、川岸が南側に後退したために現在のような景観が形成されたものと考えられる。第３次調査で流路の続きが検出されており、そのまま西北西側に連続することが分かっている。

規模は、幅17.6～26.4ｍ、深さ4.80ｍである。南北両岸ともテラス状の緩斜面があり、北岸から約9.3ｍ、南岸から約3.7ｍの箇所から角度を持って溝底に至る。

覆土は自然堆積である。上層は黄褐色土、下層は暗褐色土、底面は青灰色粘土であった。砂を多く含み、相当の流量があったことを窺わせる。炭化物の堆積層も複数認められ、その時点では滞水状況にあったものと思われる。第２層に平安時代、あまり判然としないが、８～11層の砂礫を含む層以下の、13～15層を中心に古墳時代の土器を包含する。

溝底や壁面からは多くの自然木が認められた。大径木が多く、一部をサンプリング用に採取した。

土器、木器は、最上層から平安時代・中世のものが、中～下層を中心に古墳時代前期のものが出土した。Ｇ－66グリッドの北岸のテラスには、北側の住居跡群から連続して、東遠江系の壺、吉ヶ谷系の甕・台付甕・小型壺・鉢・ミニチュアの集中した遺物の分布が見られる。特に全形の知れる台付甕（108・109・111・114～119）の大半がこの箇所から出土し、89の胴部穿孔の小型壺に代表されるように完形、もしくは全形を知ることのできる遺物が多いのも特徴的である。

また、底面中央は木製品類が多く、１の完形の壺等も出土している。木製品類は流路の方向と同一の方向を向いて出土し、流れの中にあったことが分かる。

古墳時代前期の土器

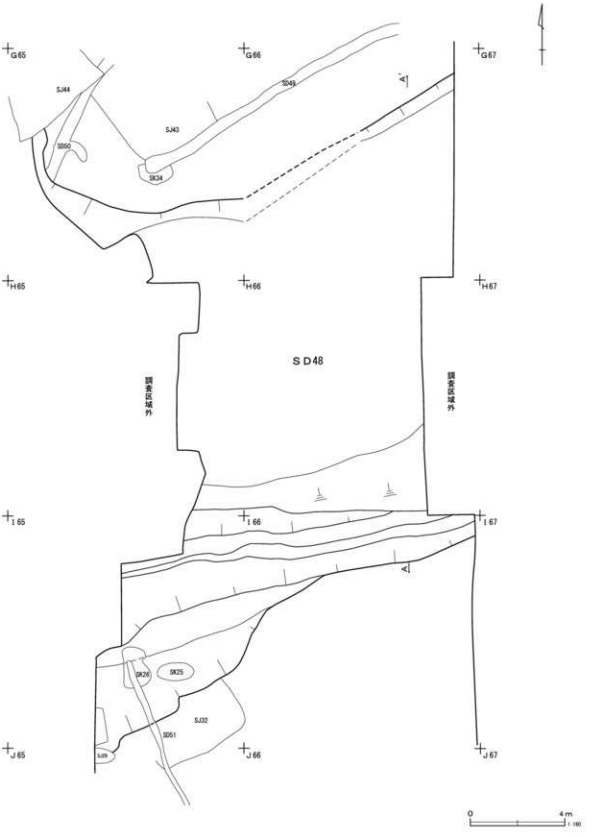
古墳時代前期の土器は壺・小型壺・坩・台付甕・甕・高坏・器台・鉢・甑・ミニチュアが大量に出土している。

１～88は壺である。１～３の壺は、球形胴に頸部から直立し、中段から外反する短めの口縁部が付くものである。１は完形で、バランスが良く、作りのいいものである。器肉が厚く、重量感がある。口縁部はあまり高さがないものである。複合部は端部の外周に粘土を貼付することにより作られ、あまり肥厚しない。４本１単位の棒状浮文が４ヶ所貼付されている。正面から摘まれ、断面が三角形になる。頸部には断面三角形の突帯が貼付され、右側からヘラ状工具による刻み目が施される。胴部は５段の粘土帯が積まれ、やや下膨らみである。外面は刷毛目後ヘラ磨きが施される。部分的に籠目が見える箇所がある。内面は見込みの部分に木ロナデが見え、その上位には段を隔ててヘラナデが施される。底面はドーナツ状でほとんど調整が施されない。

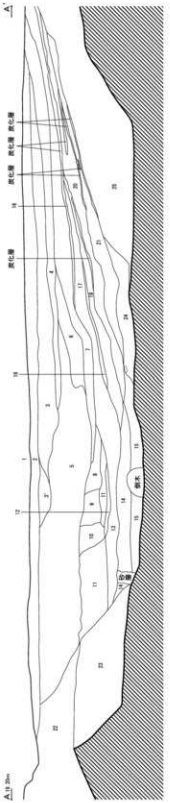
２は口縁端部を欠くものである。外面全体に刷毛目が施される。全体に粘土が一枚被せられており、胴部下位にはそれをナデつけるようにヘラナデが施される。底面には木葉痕が残る。内外面とも２次加熱により赤変し、器面の痛みが著しい。胎土には土器を粉砕した赤色粒子が含まれている。

３は底部を欠くものである。胴部に比して口縁部が小さい。口縁部は直線的で短く、端部は丸く収められている。ヘラ磨きは丁寧で、器面もよく整えられている。

４は所謂柳ケ壺である。口縁部は短く外反し、器肉が厚い。口縁部中位に粘土を継ぎ足し、更にその下端に断面が三角形になるように粘土を継ぎ足すことにより、複合部を作り出している。複合



第219図　第48号溝跡（1）



SD48
1　黄褐色土　表土
2　黒褐色土　炭化物粒子含む　平安時代の遺物混入　しまりややあり
3　青灰色土　炭化粒子含む
3'　3層よりやや暗い
4　暗青灰色土　白色粒子・炭化物粒子含む
5　青灰色土　砂粒子・粘土粒子・酸化鉄粒子含む　しまり・粘性あり
6　暗褐色土　砂粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む
7　暗褐色土　砂粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む　6層より暗い
8　暗茶褐色土　砂質土　砂礫含む
9　暗褐色土　自然木片・炭化材・腐植土含む
10　明褐色土　砂質土含む　木片多量　8層に近似する
11　暗褐色土　自然木片・炭化材・腐食土含む　9層に近似する
12　青灰色土　砂礫主体
13　暗褐色土　砂礫層を挟むように堆積　粘質強く五領の土器含む
14　暗灰色土　砂利（φ10～30mm程）主体　砂多量　五領の土器混入
15　青灰色土　砂利（φ1～5mm）と砂主体　14層より目が細かい　五領の土器混入
16　暗灰褐色土　炭化物粒子含む　粘性あり
17　灰褐色土　炭化物粒子含む
18　暗褐色土　木片・自然物多量
19　暗褐色土　粘土層と砂層が重層　木片多量
20　暗褐色土　粘土層主体　砂粒含む
21　暗褐色土　粘土層と砂層が重層　ほぼ水平になっていることから滞水していたものと考えられる
22　青灰色土　砂粒子・粘土粒子主体　しまりあり
23　灰褐色土　地山主体　自然流路の堆積層
24　砂利層　砂礫を含む　土器を混入
25　青灰色粘土層　地山の青灰色粘土主体　自然流路の堆積層

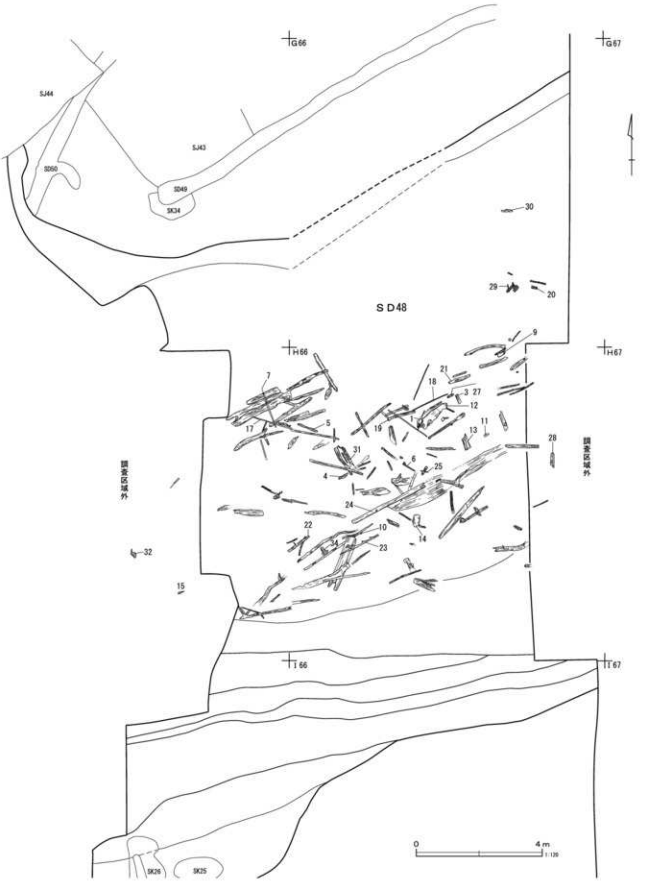
第220図　第48号溝跡（2）

部の外面は4条の凹線状になっている。4本1単位の棒状浮文が4ヶ所貼付されている。正面から摘まれ、断面が三角形になる。口縁部の内面には段があり、櫛歯状の工具により羽状の刺突文が施される。頸部には断面三角形の突帯が貼付され、右側から刷毛目工具による刻み目が施される。肩部はやはり櫛歯状の工具により羽状の刺突文が施される。

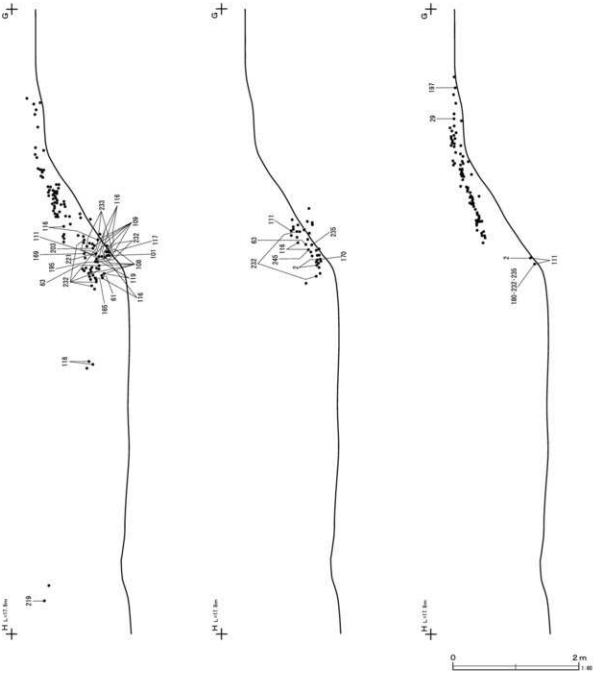
5は大型の壺である。球形胴で最大径は45.2cmにも及ぶ。複合口縁で、調整が丁寧である。焼成が良く硬質である。

6～17は単口縁のものである。6・9・15は外反するものである。口縁端部は分厚く、面を持つように作られている。各々で調整は異なるが、6は刷毛目基調、9・15は磨き基調である。15の内面のヘラ磨きは乱れている。7・10・11は内彎気味に立ち上がる口縁部の長いものである。7は口径が18cm近く、相当大型になるものと思われる。端部に面を持つ。胎土に片岩粒が含まれる。7は丁寧なつくりで良好なものである。外面には両者ともいずれもヘラ磨きが施される。12・16は直線的で、口縁部がやや長いものである。口縁端部に面を持ち、12は凹線状になっている。両者とも2

第221図　第48号溝跡土器分布



第222図　第48号溝跡木製品分布



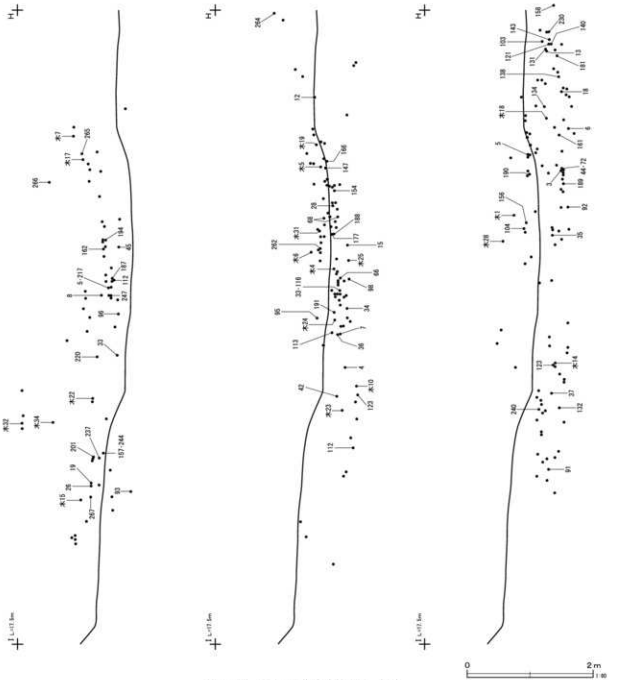
第223図　第48号溝跡遺物分布（１）

次加熱を受けている。13は口縁部が短く、外反するものである。14は口縁部は12・16同様だが、頸部以下が直立気味になり、細長い器形になるものと考えられる。17は甕形であるが、全面にヘラ磨きが施され、赤彩されることから壺としたものである。

18～25・27・28は複合口縁のものである。18は文様がないものの４とほぼ同様のものである。こちらの方が口径で10cm以上大きく、口縁部も長く、簡略化されている。複合部も薄く、外面の凹線も横位のナデによって表現されるのみである。４本１単位の棒状浮文が４ヶ所貼付されている。正面から摘まれ、断面が三角形になる。口縁部の内面には段があり、櫛歯状の工具により羽状の刺突文が施される。頸部には断面台形の突帯が貼付されている。粘土が精選され、焼成も良好である。緻

第224図　第48号溝跡遺物分布（２）

密で硬質の感が強い。19は下端部以下を欠失するが、復元口径が30cm以上に及び、かなり大きな個体になると考えられる。20は箱形になるもので、全面にヘラ磨きが施され、赤彩される。口縁部のみでは全形が窺い知れないものである。他地域の系統を引くものと思われるが、故地は判断できない。21・25は、端部に粘土を貼付することにより小さな複合部を作り出すものである。幅広の端面に、工具によるものと思われる横位のナデが施される。22・27は端部の外側に粘土帯を貼付することにより複合部を作り出すものである。22は外反の度合いが大きく、27は直線的で、複合部も幅広である。横位の刷毛目に暗文風のヘラ磨きが施される。23は口縁端部から外側に粘土帯を貼付することにより複合部を作り出すもので、内面に緩い段が見られる。24・28は二重口縁のものである。

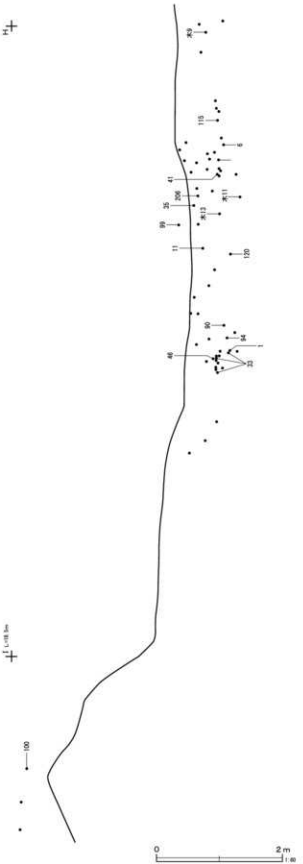


第225図　第48号溝跡遺物分布（３）

24の口縁部内面、肩部には単節ＬＲの縄文が施される。29は断面三角形の複合部のみの破片である。調整は器面の傷みが著しく不明である。

26・30・31は頸部から肩部にかけての破片である。26は分厚く、相当大型のものになると考えられる。30は頸部の屈曲が弱い。部分的にしか確認できないが、口縁部内面にヘラ状工具による刺突文が施される。肩部には同様の刺突文が２段施されている。頸部の内面には粘土積み上げの接合箇所に開裂痕が多く認められる。胎土には小礫を多く含んでいる。31は頸部に断面三角形の突帯が貼付される。

32～34は胴部である。いずれも球形胴になるものと考えられる。外面の調整はヘラ磨きである。外面の底部外周とその上位、内面の見込み部分とその上位では調整が異なり、底部成形後に調整を



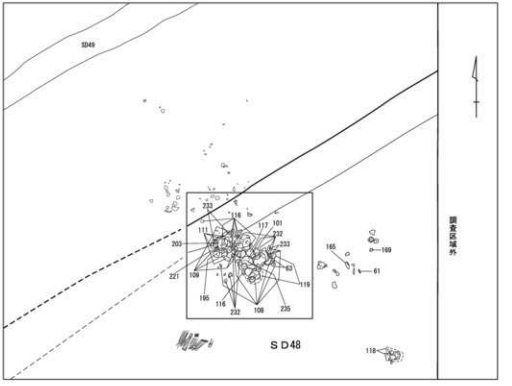
第226図　第48号溝跡遺物分布（４）

施した底部の粘土板の上に胴部の粘土帯を立ち上げていく工程が窺える。33の底面は木葉痕が残る。34の底面は無調整に近い。

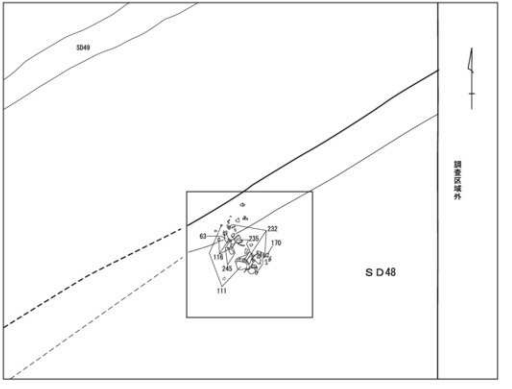
35～46は底部である。38・39を除き、突出している。外面の調整は刷毛目後ヘラ磨きが施されるものが最も多い。内面は上述の胴部でも見られた見込み部分とその上位では、調整が不連続になる様相が見受けられる。45の外面の底部外周は上位から粘土が寄せられて皺状になっている。40・41・43の底面はドーナツ状である。43は籾の圧痕が見える。42・44～46は底面に木葉痕が残るものである。35・36・38・39の底面にはヘラ磨きが施される。第36号溝跡同様に、非掲載の遺物には底部が大量にあり、おおよそ底径が３つに分けられ、規格化されている。

47～62は壺の口縁である。47は外面刷毛目後ナデが施される。48は不明瞭な複合口縁である。内面は両者とも上端にＳ字状結節、その下位に単節ＲＬの粗い縄文が２段施される。49は外面に横位の刷毛が施され、その上に幅1.5～2.0㎜の太い沈線が４～７㎜間隔に施される。内面は47・48同様に上端にＳ字状結節、その下位に単節ＲＬの粗い縄文が施される。焼成が良く、硬質で質感が異なり搬入品の可能性もある。50・51は外面刷毛目、内面に同様のＳ字状結節、粗い単節ＲＬが施される。52は端部に粘土が貼付され、短い「く」の字状になっている。53は薄く、小型の個体の可能性もある。外面に単節ＲＬの縄文が２段施される。54・55は厚い「く」の字状を呈するもので、端部外面に粗い単節ＲＬの縄文が施される。56は内外面刷毛目後横ナデが施されるものである。硬質で質感が異なる。57は二重口縁で端面、内面端部に単節ＬＲの細縄文が施される。外面は縦位の、内面は横位のヘラ磨きが施される。58は３条以上の左回りの波状文が施されるものである。59は複合口縁の端部である。60は端部外周に断面方形の粘土が貼付されるものである。61は粘土帯の積み上

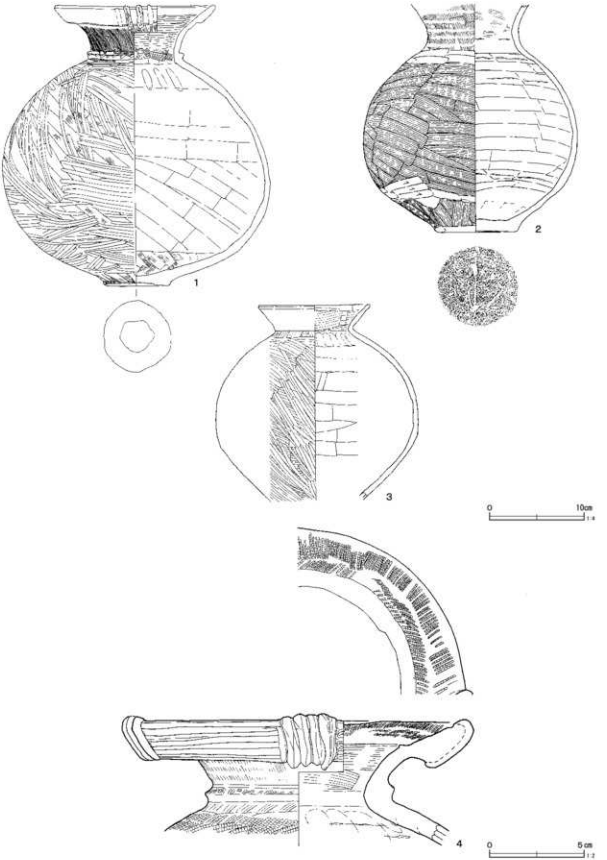
SD48出土遺物G-66G 上層



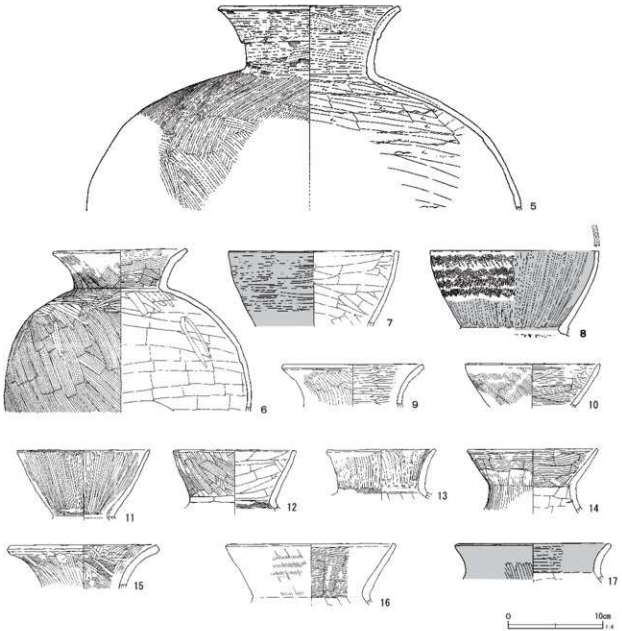
SD48出土遺物G-66G 下層



第227図　第48号溝跡遺物分布拡大図（1）



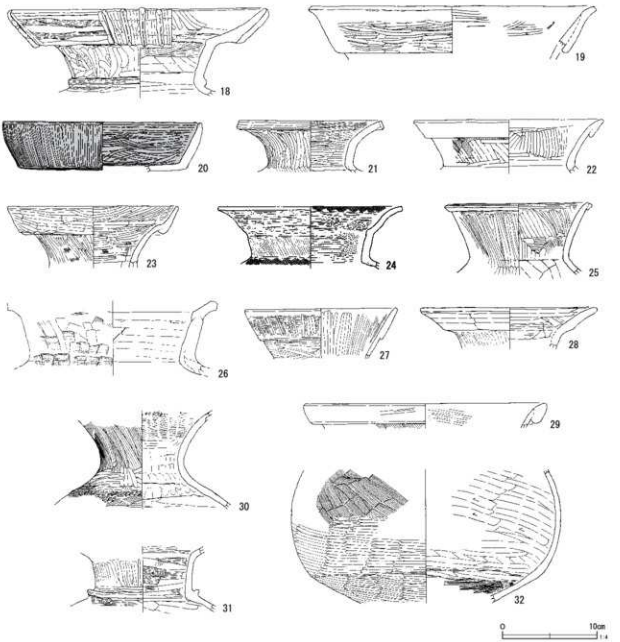
第228図　第48号溝跡出土遺物（1）



第229図　第48号溝跡出土遺物（２）

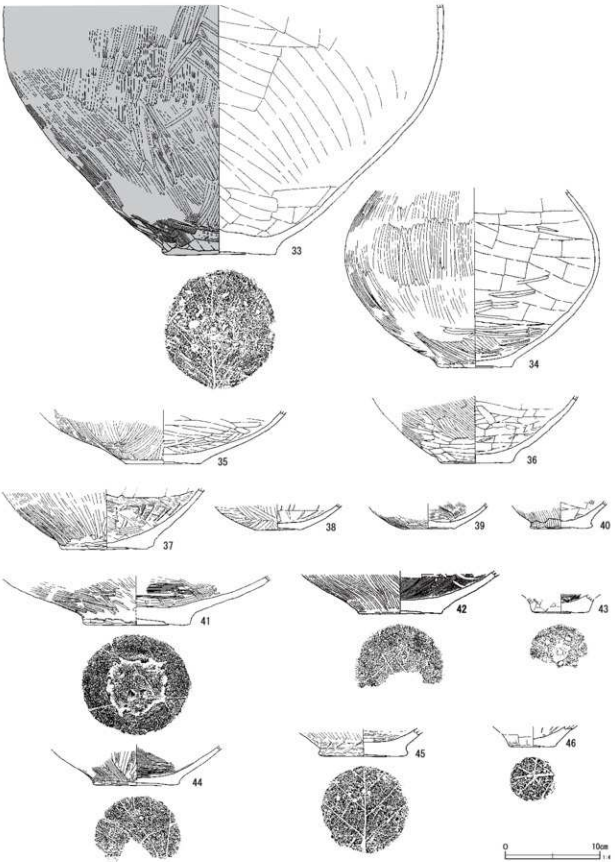
げ痕が明瞭なもので、吉ヶ谷系と考えられる。胎土には片岩が含まれる。62は複合口縁と考えられるもので、複合部の外面に３条以上の沈線が認められる。

63～87は肩部から胴部中位かけての破片である。63～71・73～76は縄文が施文される壺である。63は単節ＲＬの下端をＳ字状結節により区画するものである。64はＳ字状結節が３段施されるのみのもので、施文が乱れている。65は口縁部としては違和感があるが内面に文様が施されていることから、この形で図示した。単節ＬＲの下端をＳ字状結節２段により区画する。66はＳ字状結節風の文様１段のみのものである。縄ではなく、ヘラ状工具で描かれたものである。67は屈曲部で、外面には連続した横位のナデが施される。口縁部内面には単節ＲＬの縄文が施される。68～70は細縄文に

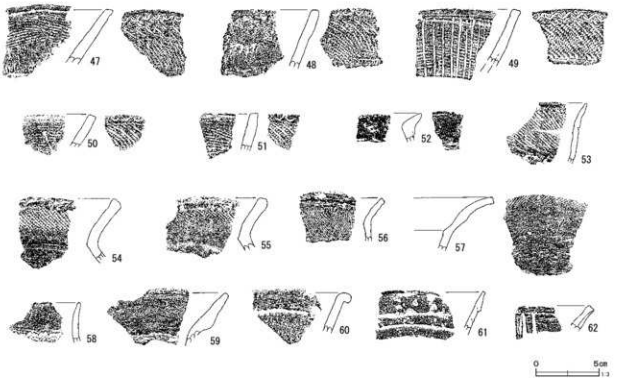


第230図　第48号溝跡出土遺物（３）

よるものである。68は単節ＬＲを２段、69・70は単節ＲＬの縄文が施される。いずれも無区画である。71は粗い縄文が施されるもので上端はＳ字状結節で区画される。粘土が精選されている。72は縄文ではなく、右下がりの刺突である。焼成が非常に良く、硬質で質感が異なる。東海地方東部系の搬入品の可能性がある。73は口縁部に縦位の刷毛目後横位のヘラナデが施され、その下位に単節ＲＬの縄文が施文される。74～76は細縄文によるものである。74は文様帯が刷毛目調整の無文の部分を挟んで２段見られるものである。上下とも単節ＲＬの細縄文で、Ｓ字状結節で区画される。75は単節ＲＬ、Ｓ字状結節による区画と考えられるものである。76は単位が３単位認められる。77は上段に単節ＬＲを２段施文し、その下位に刷毛目工具による凹線が間を置いて２段施される。79も



第231図　第48号溝跡出土遺物（4）

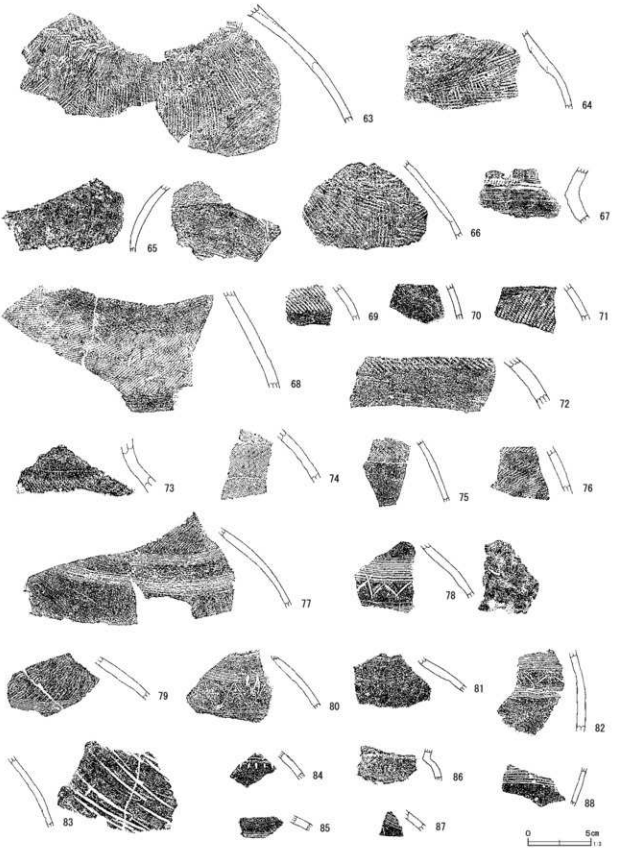


第232図　第48号溝跡出土遺物（５）

同様の構成である。78・80・81・82は所謂パレス文様が施されるものである。いずれもヘラ描きの山形文が平行沈線で区画されるものである。山形文は78・82が太く、80・81は細い。平行沈線は78・82の上段が４条１単位が３段、82の下段が４条１単位が２段、80が９条１単位が２段施される。83は内面に太い沈線が見られるものである。破片を再利用したものであろうか。84・85・87・88は平行沈線が施されるものである。いずれも破片のため、文様の全体は不明である。84は１条の下に２条、更にその下に刺突が認められる。85は４条、87は９条、88は７条の沈線が認められる。88は瓢壺の可能性がある。

89～107は小型壺である。調整は共通しており、口縁部が刷毛目後縦位のヘラ磨き、胴部が刷毛目もしくは木口ナデ後、横位もしくは斜め方向のヘラ磨きが施される。内面は口縁部が縦位もしくは横位のヘラ磨きが施され、胴部はいずれもヘラナデである。89・93・94・96は口縁部より胴部が大きいものである。このタイプのものは底部が突出している。89は口縁部が短く、内彎しながら立ち上がる。それ以外は直線的で短いものである。94はやや長めで外反する。89・93・96は口縁端部に面を持つものである。89は胴部下半に外側からの打ち欠きがある。93は胴部下半の粘土積み上げ箇所で剥離しており、胴部中位の粘土帯を積み上げる面に刷毛目を施している。94は底面にヘラ磨きが施される。90・91は口縁部と胴部の高さがほぼ同じものである。91の方が口縁部が長い。調整は、口縁部が小さいものと同様である。

92・95・98～101は、小型の一群である。95・100はやや扁平な胴部に外反する口縁部が付くもので、ほぼ同じ器形である。調整は95がヘラナデ、100がヘラ磨きである。95は内面に細かな木口ナデが施される。100は底面がドーナツ状になる。100には径４～５㎜の２個１対の穿孔が内側から施される。きれいにバリが取ってあり、蓋をつける紐穴と考えられる。101も同様に紐孔が施され



第233図　第48号溝跡出土遺物（6）

るものである。複合口縁で、頸部の屈曲が弱く、下膨れの胴部である。底面はドーナツ状である。東海地方東部の土器の模倣品と考えられる。胎土は精選され緻密である。

92は頸部の括れが弱く、口縁部の外面はヘラナデである。胴部のヘラ磨きも上半のみである。

97～99は胴部である。97・98は球形胴、99は下膨れである。97は丸底である。99はバランスが良い器形で、底面にヘラ磨きが施される。

102～104は小型のものである。102は口縁部が短く、器肉が分厚いものである。外面の調整はヘラナデである。底面は工具で一周ナデられている。

103は頸部がすぼまるもので、細頸壺の可能性がある。104は坩である。105～107は口縁部がうすく、短いもので坩に準ずるものである。

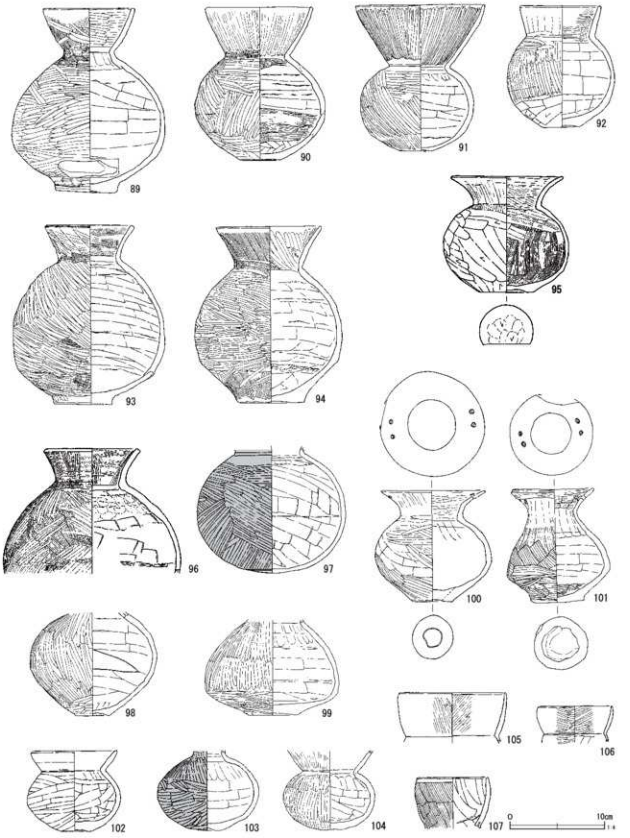
107は甕壺の口縁部と考えられる。内傾する面を持ち、焼成が良く硬質である。内外面には煤が付着する。

108～153は台付甕である。108～114・117は全形の窺えるものである。113・117・118は小型である。108～118は縦長の胴部に「く」の字状の直線的な短い口縁部が付くものである。口縁部は108・110・113・117・118は若干外反する。端部に面を持つもの（111・112）と丸く収められるものがある。110は歪みが著しい。基本的に胴部に横、もしくは斜めの刷毛目が施されるものである。胴部の刷毛目はおよそ3単位で、基本的には下、上、中の順に施される。109は下位から順に刷毛目が施される。111は刷毛目が細かいものである。114は板目がきつく出ている。116は加熱による傷みのためほとんど見えない。内面はヘラナデを基本的な調整とし、内面が滑らかなほど平滑に仕上げられている。108は単位が細いためヘラ磨き状に見えている。109・111は壺と同様に見込みの部分のみに刷毛目が施される。接合部はいずれもホゾ接合である。114は割れ口に、上部から粘土を挿入している様相がよく観察できる。脚台部は高さが低く、小さめのものである。端部は面を持ち、バリ状になるものもある。いずれも2次加熱を受け、特に110は煤が厚く付着している。108は胎土に片岩が多く含まれている。114は焼成が良く、硬質である。

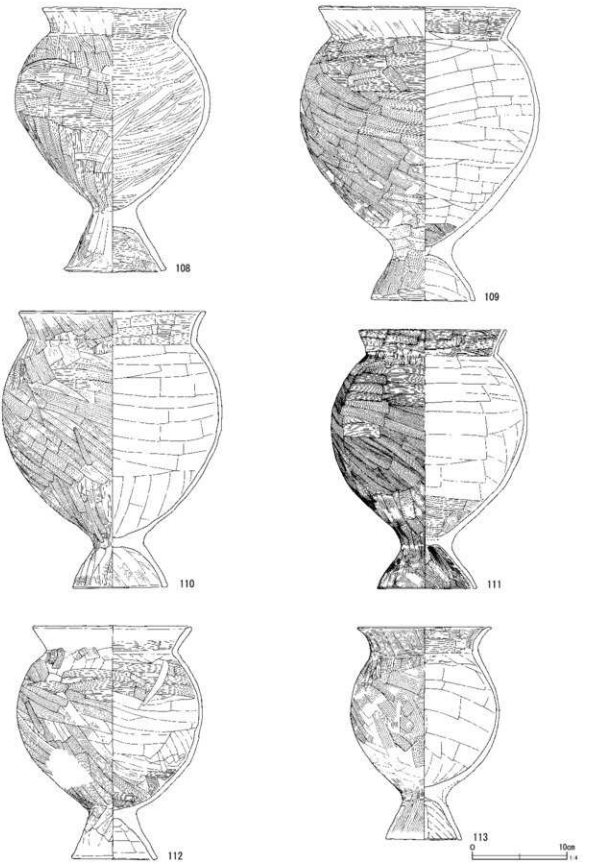
115～120は口縁部から胴部までの様相が分かるものである。115は端部を摘み上げるものである。それ以外は前述の台付甕と同様である。胴部の刷毛目は丁寧で螺旋状になっている。内外面とも煤が厚く付着している。119・120は口縁部が外反し、頸部の屈曲が弱いものである。口縁端部は若干面があり、119は左から、120は右からのヘラ状工具による刻み目が施される。119は木口ナデ後にナデられている。120の内面はヘラナデ後更に細かい工具でヘラ磨き状のヘラナデが施される。121～123は胴部から脚台部である。121・122は胴部の見込み部分に煤が付着する。122は上部から充填した粘土が脚台部側に突出している。

124～126はS字状口縁台付甕である。124・126は作りが良く、頸部内面に横位の刷毛目、もしくはヘラナデが施され、よく模倣されている。125は団子状になっており、頸部内面には指ナデが施される。124の口縁部中段にはヘラ状工具によるランダムな押捺が見られる。胴部は、125・126は縦位の刷毛目だが、124はそれに加えて斜めの刷毛目が施されている。内面はいずれもヘラナデである。126は焼成が良好で硬質である。127・128は接合部である。127はホゾ接合で、脚台部内面には一面に粘土が塗りつけられている。128は脚台部の天井部分に砂が付着しており、外面の等間隔の刷毛目のナデ消しと合わせてS字状口縁台付甕の模倣と考えられる。

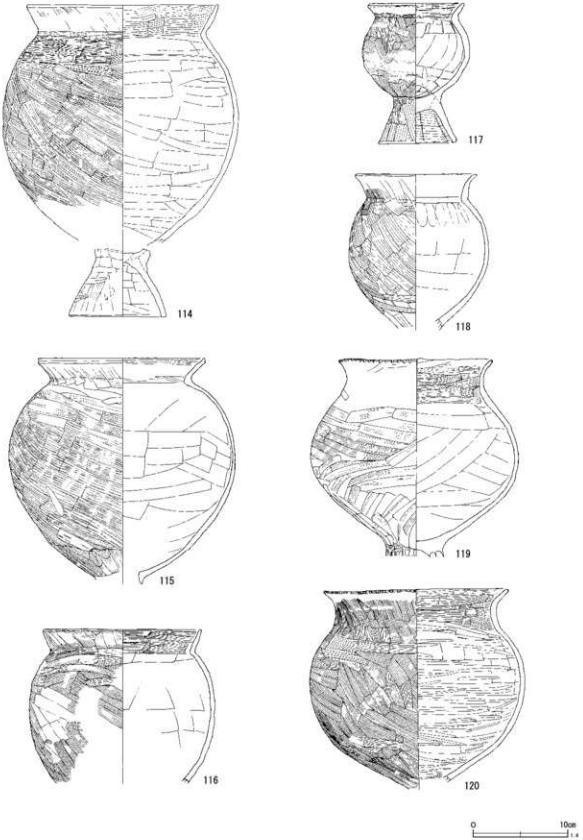
129～144は脚台部である。大小が認められるが、概ね径に対して器高が低く、器肉も薄めで、新しい様相を示している。137～140は特に小型である。141・142は大型になると考えられるものである。141は器肉が厚い。



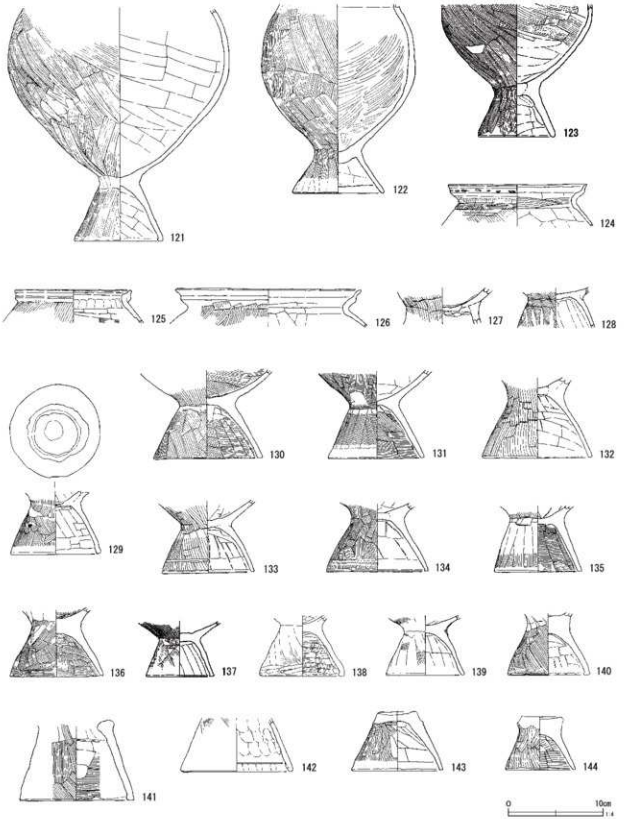
第234図　第48号溝跡出土遺物（7）



第235図　第48号溝跡出土遺物（8）



第236図　第48号溝跡出土遺物（9）



第237図　第48号溝跡出土遺物（10）

いずれもホゾ接合で、接合部に剥離が見られるものも多く見られる。外面の調整は刷毛目を基本とし、内面は刷毛目のものとヘラナデのものがある。端部はいずれも面を持つ。129は胴部側から入れた臍の粘土が剥離しており、その部分にヘラナデが認められる。132は丁寧に調整され、内面はヘラナデにより非常に平滑に仕上げられている。137は、見込みの部分の粘土が盛り上がっている。外面の刷毛目は等間隔にナデ消されている。138は端部のみヘラナデが施される。140は上位に見える刷毛目が深く櫛目に近いものである。下半には認められずナデ消されている。内面には指頭圧痕が多く見られ、端部が折り返されている。143は接合部がきれいに剥離し、剥離面全体に煤が付着する。144は全体に器面の傷みが激しく、刷毛目はかすれ気味である。

145～153はS字状口縁台付甕である。124～128に比して小破片で、欠損しているものが多い。145は頸部の内面に刷毛目が施される。146は模倣が崩れ、受け口でもS字状口縁でもない形態をしている。147・148は端部を欠損している。147は器肉が厚い。149・150は端部をS字状に強くナデつけられている。151は端部を摘まれるのみのものである。152・153は端部のみのものである。

154～159は甕の胴部上半である。口縁部はやや長く、端部が若干外反する。154～157・159は、外面は斜め方向の刷毛目、内面横位の刷毛目後横ナデが施される。端部は丸く収められている。頸部は基本的に「く」の字に屈曲し、内面に稜を持つ。胴部は球形胴、もしくはそれよりやや長いものと考えられる。外面の調整は斜位の刷毛目を基本とし、肩部に横位の刷毛目が加えられるものがある。内面はヘラナデである。158は頸部の屈曲が緩やかなものである。端部には断面形が丸い、細い工具により上から押さえたような押捺が施される。

157は端部のみが面を持つもので、他地域の土器の模倣品の可能性がある。端部に面取りがあるのみで、その他は他の甕と同様であり、系譜は不明である。

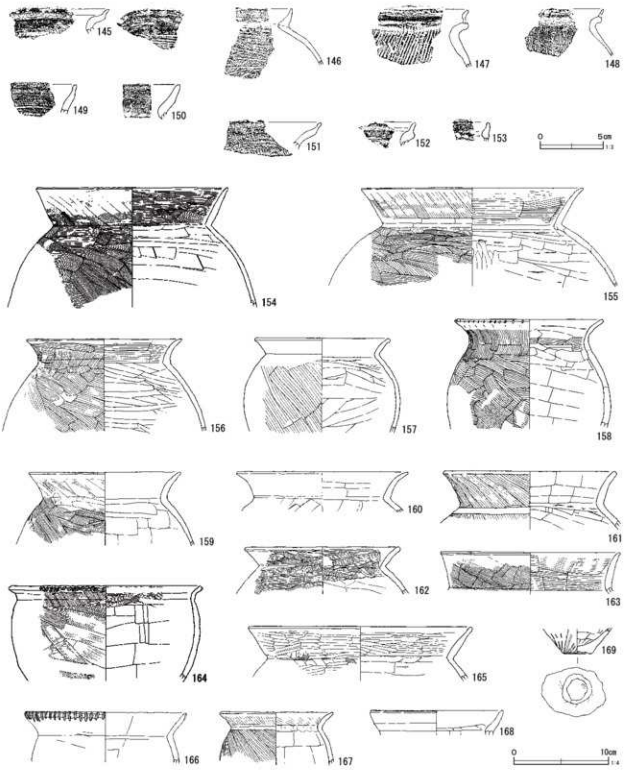
160～163・165は口縁部である。形態、調整等は胴部上位までの破片と同様だが、165は外面、口縁部内面に横位のヘラ磨きが施されており、特異である。164・166は端部に刻み目が施されるものである。164は、直立した胴部から短い口縁部が外反する。口縁端部は面を持ち、右下から刷毛目工具を立てて入れている。内面はヘラナデで平滑に整えられている。166も同様の刻み目を施すものである。167は小型のものである。胴部は細長い形態になるものと思われる。

169はタタキ甕の模倣と考えられるもので、タタキメ風の単位の太い刷毛目の後ナデを加えている。底面はドーナツ状である。

170～176は甕の口縁部である。170は左上からヘラ状工具による線状の刻み目が施される。胴部には横位の深い刷毛目が施されており、古い個体である印象を受ける。171は刷毛目工具による左方向からの刻み目が施されるもので焼成が良く、硬質である。172は口縁部が長く、端部に面を持つものである。刷毛目工具による左方向からの押捺が施される。174は外反し、刷毛目後横ナデが施されるもので、端部が摘み上げられている。胎土は在地のもので、北陸地方東北部系の模倣と考えられる。175はS字状口縁台付甕の模倣品の可能性があるが、端部が若干肥厚するのみで、刷毛目が施されている。176は端部にヘラ状工具による浅い刻み目が施されている。

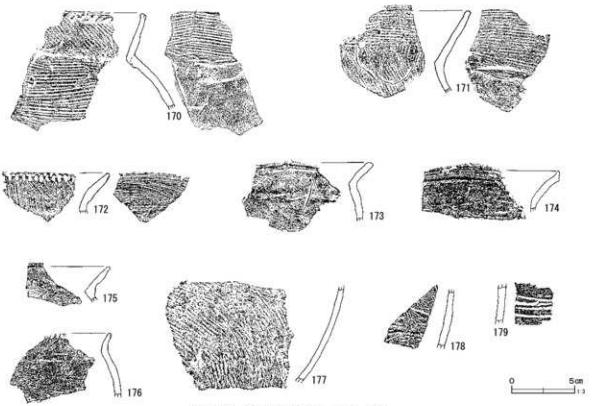
177～179は胴部の破片である。177は2次加熱により赤変しており、内面にベッタリと炭化物が付着する。178は上段の粘土が剥離し、下地のヘラナデが見えている。179は内面に太い刃物傷のような太い沈線が見られる。再利用であろうか。

180～210は高坏である。180は唯一全形の知れるものである。180は台付甕を製作途中に転用し、



第238図　第48号溝跡出土遺物（11）

高坏としたものである。181は坏部が小さく、椀状を呈し、脚部が大きく外反する。182～189は坏部で、大きく直線的に開くものである。182・184は内外面ともヘラ磨きが施される。183・185はヘラナデのみしか確認できない。186～188は小型で椀状の坏部になると考えられる。186は外面ヘラ



第239図　第48号溝跡出土遺物（12）

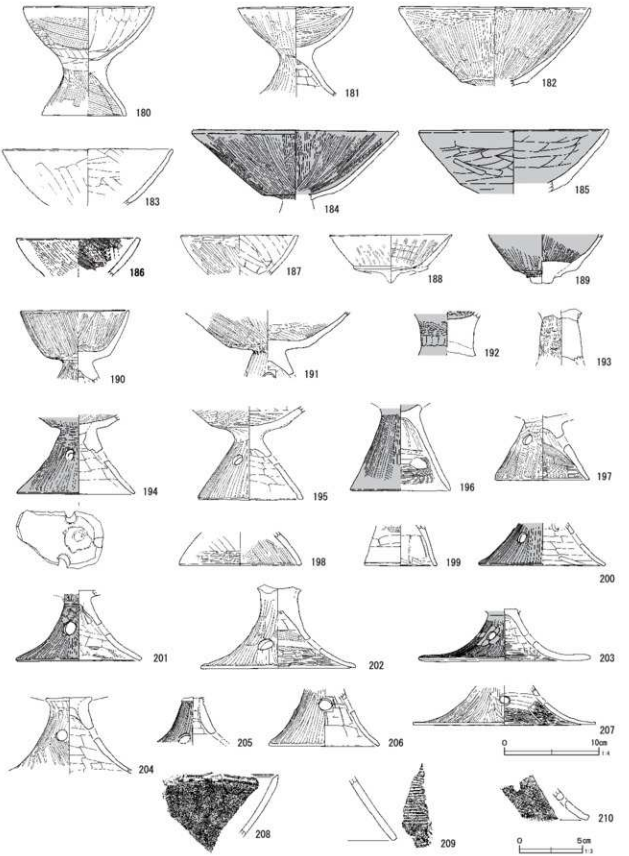
磨き、内面刷毛目が施され、粘土は精選されている。187は外面ヘラ磨き、内面ヘラナデである。188は下段に稜を有し、接合する脚の部分で剥離している。

189・191～193は接合部である。189はホゾ接合で、剥離面に工具でのオサエが明瞭である。丁寧に調整されており、仕上がりも良好である。190は小型高坏である。ホゾ接合で、丁寧に作られている。192は非常に厚くなっている。径も大きく、相当大型の個体になると考えられる。粘土は在地のものだが、異質であり、他地域の模倣であろうか。193は柱状部で、中実のものである。ヘラ磨きの上に細いヘラの当たりが見える。接合部で剥離し、その面に煤が付着する。

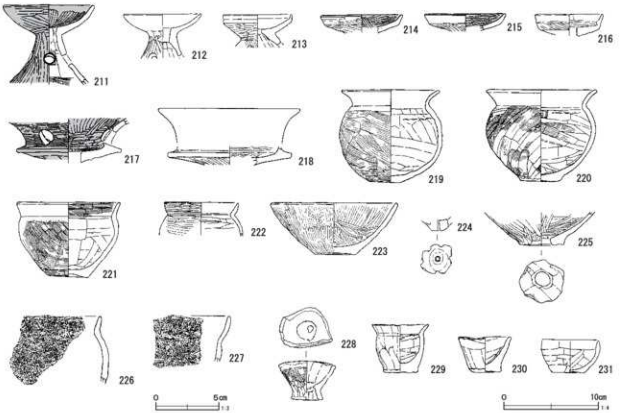
194～207・209・210は脚部である。196は穿孔がなく、206・207のみが4孔で、それ以外は3孔である。外面の調整はいずれも縦位のヘラ磨きである。内面はヘラナデのものと木口ナデのものがある。194はホゾ接合の部分に、脚部側から粘土を充填しようとしたもので、余った粘土をそのままナデつけている。209は内面に強い刷毛目が見られる。210は穿孔が5㎜ほどしかなく小さい。208は坏部の破片で、端部は内傾し、4条の凹線状になっている。

211～216は器台である。いずれもホゾ接合である。216を除いて、浅い直線的な器受部である。213～215は端部のみをつまみ上げ、外周に面を持たせるものである。216は口縁部が折り返し状に直立している。211・212は脚部がハの字に開くものである。端部は広がらない。251は大型のものである可能性が高い。244は風化が著しく調整は不明である。246は器受部の口縁部の部分は横位のヘラ磨き、それ以外は斜位のヘラ磨きが施される。247の透穴は上下に位置し、千鳥状になっている。250は口縁部と体部が明瞭なものである。254は口縁部と体部の境目の段の部分にヘラ状工具による刻み目が施されている。

217・218は大型器台である。いずれも器受部と



第240図　第48号溝跡出土遺物（13）



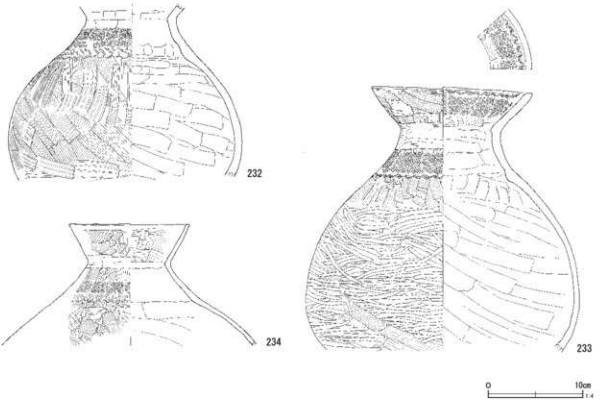
第241図　第48号溝跡出土遺物（14）

鍔の部分のみの破片である。217は器受部に円形の透穴が3ヶ所開けられる。外面は細い工具により細かく磨かれている。219～223・226・227は鉢である。219・220は球形胴で口縁部が外反する。口縁部は内外面横ナデ、胴部は外面が刷毛目、内面はヘラナデである。221はやや小振りのもので頸部の括れが弱い。底部の外周に刷毛目が施され、底面はドーナツ状になっている。222は外面全体に横位のヘラ磨きが施されるものである。口縁部は下段に稜があり、「5」の字状口縁の模倣と考えられる。223は逆ハの字状に開くもので、内外面ヘラ磨きが施される。丁寧に調整され、仕上がりも良好である。

224は多孔の甑である。尖底になっており、径5㎜の穿孔が施される。中央に1孔、1㎝ほど置いた外周に5孔が認められる。中央の孔は上下から、外周の穴は外側から穿孔される。225は単孔のものである。中から外に径2㎝の穿孔が施され、底面にそのバリがはみ出している。内外面ともヘラ磨きが施される。

228～231はミニチュアである。228は高坏形と思われるものである。歪みが著しく、底面が薄いため穴が開いている。刷毛目とヘラナデが施される。229は壺形で、内外面ともヘラナデが施される。230・231は鉢形である。内外面ともヘラナデが施される。231は端部のみを欠いている。

232～234は東海地方東部の菊川式のものである。233は底部を除いた全体が明らかなもので、下膨れの胴部に直線的な口縁部が付くものである。232も同様の個体である。口縁端部に広い面を持つ。口縁部外面は斜位の刷毛目後、頸部の外周に連続した横位のナデを施す。内面は端部にS字状結節、その下位に節の太い幅広の単節RLを施す。頸部の内面は直立しており、横位のヘラナデが施される。肩部には口縁部の内面同様の単節RLの縄文が施され、下端はS字状結節で区画される。



第242図　第48号溝跡出土遺物（15）

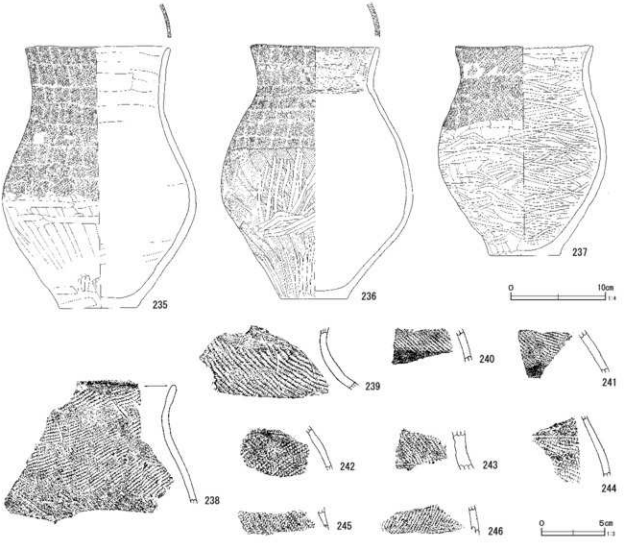
その下位は斜位の刷毛目後ヘラ磨きが施される。内面は指頭痕が多く見られ、ヘラナデが施される。234も同様のものだが、外面の横位のナデが施されず、刷毛目調整である。口縁内部にも文様が施されない。

235～246は吉ヶ谷系のものである。235～237は甕である。235・236は口縁端面に単節ＬＲが施される。237は左側からの押捺が施される。いずれも上位に縄文が施文される。235は単節ＬＲが８段施される。上４段は右から左、下４段は左から右に施文される。236はＳ字状結節を挟みながら、単節ＲＬが１段、ＲＬが２段、ＬＲが２段、ＲＬが２段施される。237は単節ＬＲが４段施される。235は縦位のヘラナデ後中位のみ横位のヘラナデが施される。236・237は、下位は縦位のヘラナデ後、粗いヘラ磨きが施される。

238は木口ナデ後、口縁部から３段の単節ＬＲが施される。各々の段の間隔が間延びしており、ムラがあるように見える。内面はナデ後横位のヘラ磨きが施される。239は単節ＲＬ、240は単節ＬＲで下位はヘラ磨き、241は単節ＲＬで下位はヘラ磨き、242は単節ＬＲ、243は単節ＲＬで下位はヘラナデ、244は単節ＲＬで下位は木口ナデ、245は単節ＲＬ、246は単節ＬＲが施される。

247～259は弥生土器である。247は口縁部に７条１単位の波状文が施される。248・251・252とともに頸部から肩部にかけて櫛描文が施される。上位に簾状文、下位に波状文が施される。247は４条１単位で３段、248は３条１単位、右回りのものが２段、下位の波状文は２段施されている。上→下の順に施文される。251は４条１単位、右回りのもので、上位と下位に波状文、それに挟まれて簾状文が施される。252は上位の簾状文は２条のみが確認でき、下位の波状文は２条１単位、右回りのものが３段施される。

249・250・253～256は波状文のみが施されるも



第243図　第48号溝跡出土遺物（16）

のである。いずれも右回りで、249は４条１単位、250は５条以上１単位、253は５条１単位のものを２段以上、254は不明瞭な３条１単位のものを１段、255は振幅の大きいもので１段以上、256は太くて浅くピッチも乱れている４条１単位のものが３段以上施文されている。250は下端を太目の沈線により区画される。255は波状文の上位に横位の沈線が認められ、簾状文の可能性がある。振幅、スパンの長いもので１条のみしか確認できない。

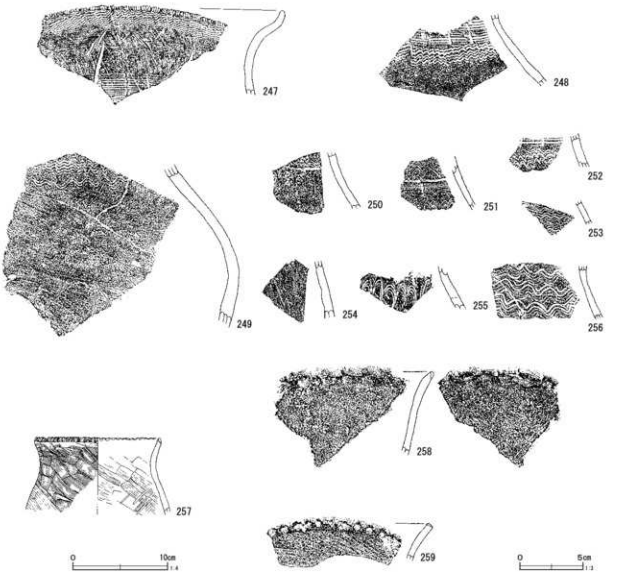
257は無文のもので、岩鼻式・吉ヶ谷式特有の器形である。端部には右方向からの刷毛目工具による押捺が施される。上位は細かな刷毛目、中位は木口ナデが施される。内面は木口ナデで所々にヘラ磨きが施される。胎土は粒子が粗く、石英、白色粒子が多く含まれる。

258・259は甕である。いずれも砲弾形の器形になるものと考えられる。

258は交互押捺が施される。259は口縁端部に対して垂直に、右上から棒状工具による押捺が施される。内外面とも木口ナデが施される。断面に煤が付着している。

古墳時代中・後期の土器

260～265は古墳時代中・後期の和泉式、鬼高式土器である。概ね高坏は和泉式の前半、坩、椀は後半、甕類は鬼高式に当たるものと思われる。いずれも上層からの出土である。



第244図　第48号溝跡出土遺物（17）

260は坩である。体部は球形で、頸部の括れは弱く、直線的な口縁部である。底部はほぼ丸底である。外面は刷毛目後ナデ、内面は指ナデで凹凸が激しい。

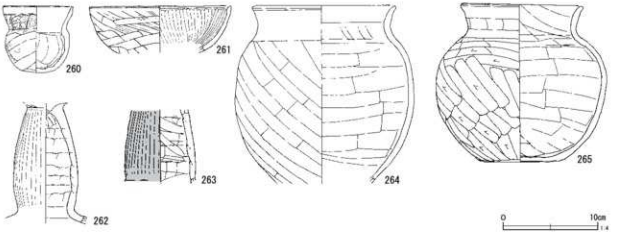
261は椀である。内彎するもので、口縁端部は内傾する面を持つ。外面は木口ナデ、内面は縦位のヘラ磨きである。

262・263は高坏である。262は大型で、中膨らみのものである。ホゾ接合で、坏部との接合面から剥離している。外面はヘラ磨きである。内面は粘土の積み上げ痕が明瞭で、その上を布状のものでナデられている。263も相当大型のものになると考えられる。調整も同様だが、内面の調整はヘラナデである。

264は鬼高式の長甕である。口縁部は横ナデ、胴部内外面にはヘラナデが施される。外面の調整等から和泉式の可能性がある。

265は鬼高式の丸甕である。胴部外面、底面にはヘラケズリが施されている。

266・267は８世紀のものである。肩部に最大径のあるやや長めの胴部のもので、口縁部は直立する。胴部外面はヘラケズリ、内面にはヘラナデが施される。底面には木葉痕が見られる。267は相当大型のものになると考えられる。器肉が厚く、



第245図　第48号溝跡出土遺物（18）

胴部外面はヘラケズリ、内面にはヘラナデが施される。

268～270は第48号溝跡上層から出土した須恵器坏である。3点ともほぼ同様の器形である。1・2は底部回転糸切り後、周辺部は回転ヘラケズリ調整され、体部側面には墨書が記されている。明確ではないが、「土」の異体字の可能性がある。時期的には8世紀後半（HⅣ期相当）と推定される。

木製品

第48号溝跡からは自然木、流木とともに多くの木製品が出土している。調査では、基本的に製品について取り上げ、一部自然木をサンプリングした。その点数は78点に上る。大きく、下層（古墳時代前・中期）、上層（古代・中世）に分けて掲載した。

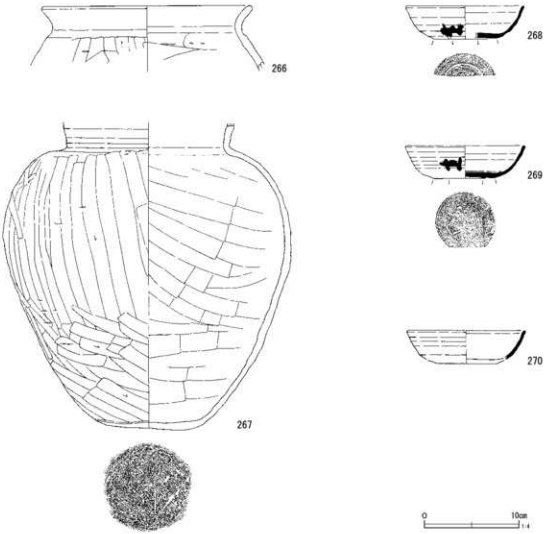
古墳時代前期のものは農具、木錘、樹皮巻き、建築材がある。

1は多又鋤である。一木で四本刃である。平面形は長方形である。割れやそれぞれの部品の周縁の欠損が多い。特に肩部と刃部の先端は大きく欠損している。残存長45.2㎝、軸部の長さ10.0㎝、幅3.3㎝、厚さ2.3㎝、肩部の推定幅14.6㎝、厚さ2.0㎝、刃部は半分以上欠損しているが、肩部と同様の幅になると考えられる。軸部は上端が欠損している。断面形は楕円形である。軸部と肩部の境は明瞭である。肩部はなで肩である。肩部から刃部先端にかけて厚みを減じていく。刃の一つ一つは幅1.6～2.0㎝、肩部側が厚さ1.5㎝、刃先側が0.5㎝である。刃は中央が方形、両側縁は丸みを帯びている。工具痕は観察できなかった。木取りは柾目、樹種はコナラ属クヌギ節である。

2・3は竪杵である。2は握り部から搗き部にかけての破片である。特に搗き部は不規則に割れている。残存長20.4㎝、握り部の径3.3㎝、搗き部の径6.7㎝である。両端を欠損する。握り部には幅8㎜の工具痕が見られる。木取りは芯持丸木、樹種はコナラ属アカガシ亜属である。

3は搗き部のみの破片である。残存長23.5㎝、搗き部の径5.8～7.1㎝である。握り部側は折れた後再利用されている。搗き部の先端は相当使用されたようで磨耗して丸くなっている。分割材でみかん割りの削り出しである。樹種はコナラ属アカガシ亜属である。

4は広鍬の未成品である。側縁部の片側は傷みが著しく、欠損が多い。両端が刃部、中央が軸部になる。どの部分も加工中であり、下部の側縁には樹皮が残っている部分がある。片側のみに幅3～4㎝の加工痕が見られる。製品の平面形は肩がなで肩に近いものであろうか。残存長117.6㎝、



第246図　第48号溝跡出土遺物（19）

軸部の長さ45.0㎝、幅5.9㎝、厚さ4.8㎝、刃部の幅12.5㎝、厚さ4.7㎝である。みかん割り材で、樹種は次回報告とする。

5は用途不明の板材である。掘り棒のような性格を持つものなのであろうか。中央部を握り部のように断面円形に削っている。平面形は長方形である。割れやそれぞれの部品の側縁の欠損が多いが、特に下側は大きく割れている。先端も欠けており、本来両側が尖るものなのであろうか。残存長67.8㎝、軸部の長さ10.5㎝、幅3.0㎝、厚さ2.4㎝、板状の部分の幅5.2㎝、厚さ0.4～2.0㎝である。軸部からなだらかに板状の部分に移行し、先端部になるほど厚みを減じている。側縁部は両側丸く削られている。

6は建築部材と考えられる。大きく幅広の下端部と幅の狭い上部に分けられる。板状で、端部は長方形、なだらかに幅を減じて中央部になる。厚さは均一である。残存長38.7㎝、下端部の長さ9.3㎝、幅4.2㎝、厚さ1.6㎝、上部の幅2.7㎝、厚さ1.6㎝である。表面に幅1.2～2.0㎝の工具痕が認められる。側縁は両側丸く削られている。大小の臍孔が開けられている。大きなものは2.5×1.7㎝で下部に1箇所、3.3×1.1㎝で欠損した上端部に1箇所、中サイズのものは端部から14㎝の位置に、

第63表　第48号溝跡出土遺物観察表（第228～232図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	壺	17.0	29.8	7.0	ADEH	100	良好	にぶい黄橙	№353	147-4
2	土師器	壺	—	24.2	8.4	ACEGHIL	80	良好	にぶい橙～にぶい黄橙	底部木葉痕　№520	147-2
3	土師器	壺	11.5	20.6	—	AEHI	30	良好	橙	外面煤付着　№155・308他	147-3
4	土師器	壺	17.8	6.9	—	ACEHI	80	普通	橙	№81	148-1・2・3
5	土師器	壺	18.8	21.6	—	ACEGHI	25	普通	にぶい黄橙	№14・152他	148-4
6	土師器	壺	14.0	17.1	—	AEHIK	80	普通	にぶい橙	№160・383	148-5
7	土師器	壺	(17.6)	7.9	—	AEIK	25	普通	にぶい橙	外面赤彩　№78	
8	土師器	壺	(17.8)	9.0	—	ACEIK	20	良好	にぶい黄橙	赤彩	168-1
9	土師器	壺	14.6	4.5	—	ACEHIK	20	普通	にぶい橙		
10	土師器	壺	14.2	4.6	—	ACHIK	20	普通	灰黄	テラス	
11	土師器	壺	(14.0)	7.4	—	ACEHIK	25	良好	にぶい橙	№360	
12	土師器	壺	12.5	6.5	—	AEIK	80	良好	灰黄	№57	148-6
13	土師器	壺	11.1	5.3	—	ACDEHIK	90	普通	灰黄褐	№171	148-7
14	土師器	壺	(13.4)	6.8	—	AEHIK	25	普通	にぶい黄橙		
15	土師器	壺	15.3	4.7	—	ABEHIJL	20	普通	にぶい黄褐	№94	
16	土師器	壺	(17.4)	6.5	—	CEHIK	10	普通	灰褐	内外面煤付着　H66G	
17	土師器	壺	(15.9)	4.2	—	ABEI	5	普通	灰黄	赤彩　G65G　テラス	
18	土師器	壺	26.8	9.3	—	AEIJK	95	良好	灰黄	№166	148-8
19	土師器	壺	(30.0)	4.9	—	ADHJK	20	良好	にぶい黄橙	内面煤付着　№21	
20	土師器	壺	20.6	5.2	—	ACEHIKL	30	普通	赤	赤彩　№263・310　G65G	
21	土師器	壺	(15.0)	5.4	—	GHIJL	30	普通	にぶい褐		
22	土師器	壺	(19.8)	5.7	—	AEHIK	15	普通	にぶい橙	内面煤付着	
23	土師器	壺	(17.8)	6.5	—	ACEHIK	40	普通	にぶい黄橙	G65G	149-1
24	土師器	壺	(19.4)	6.5	—	ACEHIK	20	普通	灰黄	№311	
25	土師器	壺	(14.5)	7.6	—	AIJK	20	普通	にぶい黄褐	H65G	
26	土師器	壺	—	7.8	—	ABCEHIK	20	普通	灰黄褐	№24	
27	土師器	壺	(15.9)	5.3	—	ACEHIK	25	普通	灰褐	テラス	
28	土師器	壺	18.4	4.4	—	AHIJK	60	良好	暗灰褐	№106	149-2
29	土師器	壺	(25.5)	2.6	—	EGHIK	15	普通	橙	内外面煤付着　№11・609　北　テラス	
30	土師器	壺	—	10.3	—	ACEHIJKL	70	良好	明赤褐	№451～455	
31	土師器	壺	—	6.9	—	EHIK	70	普通	灰褐	№231	149-3
32	土師器	壺	—	14.1	—	DEGHIK	30	普通	褐灰	№33・407他　テラス	149-4
33	土師器	壺	—	26.5	11.5	ACDHJL	60	良好	灰白	外面赤彩　木葉痕あり	149-5
34	土師器	壺	—	18.9	7.7	AEHIK	60	普通	にぶい橙	№89	149-6
35	土師器	壺	—	5.6	8.0	ABCEHJK	30	良好	にぶい褐	№139・367	149-7
36	土師器	壺	—	7.0	7.0	ACEHIK	60	普通	にぶい黄橙	№87	
37	土師器	壺	—	6.4	8.5	AEHIJK	90	良好	にぶい橙	№122	
38	土師器	壺	—	2.7	4.8	ACEHIJK	80	普通	橙	№305	
39	土師器	壺	—	2.7	5.5	ACHIK	5	良好	にぶい赤褐		
40	土師器	壺	—	2.8	6.1	ACEHIJK	90	良好	灰黄褐	H66G	
41	土師器	壺	—	5.2	10.3	AEHIJK	50	普通	灰黄	外面煤付着　№379・472	
42	土師器	壺	—	4.5	8.8	AEIJK	60	普通	にぶい黄橙	№82	
43	土師器	壺	—	1.9	5.2	AEHIK	60	普通	にぶい黄橙	№310	
44	土師器	壺	—	4.2	8.1	ACEHIJ	60	普通	にぶい黄橙	H66G　№154	
45	土師器	壺	—	3.0	8.2	ACEHIJ	90	良好	にぶい黄橙	№11	
46	土師器	壺	—	2.2	4.7	ACDEHIK	80	普通	にぶい橙	№338	
47	土師器	壺	—	4.3	—	AEHIL	5	良好	にぶい橙		167-3
48	土師器	壺	—	4.6	—	BEGHIK	5	普通	橙	北	
49	土師器	壺	—	4.5	—	AEHK	5	良好	灰褐		167-3

第64表　第48号溝跡出土遺物観察表（第232～234図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
50	土師器	壺	－	2.5	－	ABEHIJK	5	普通	にぶい褐	№122・139　と同一個体か	
51	土師器	壺	－	3.0	－	EHIK	5	良好	灰白		
52	土師器	壺	－	2.3	－	ACEHJK	5	普通	にぶい黄橙	H65G	
53	土師器	壺	－	4.8	－	AHIJK	5	普通	にぶい橙	中央下層	168-1
54	土師器	壺	－	5.1	－	BEHIKL	5	良好	にぶい黄橙		167-3
55	土師器	壺	－	4.2	－	AEHIK	5	普通	にぶい黄橙		
56	土師器	甕	－	3.3	－	ABHIK	10	良好	暗灰黄	テラス	
57	土師器	壺	－	4.3	－	ABEJK	5	良好	灰黄褐	№478	
58	土師器	壺	－	－	－	EGHIK	20	普通	褐灰	内面煤付着	
59	土師器	壺	－	4.3	－	ACEIK	5	普通	灰黄褐		
60	土師器	壺	－	3.3	－	AEIJK	5	普通	にぶい黄橙		
61	土師器	壺	－	3.4	－	ABCEK	5	普通	にぶい橙	赤彩　№646	168-2
62	土師器	壺	－	2.0	－	AEHIK	5	普通	にぶい橙	H66G	
63	土師器	壺	－	9.5	－	AEGI	5	良好	オリーブ黒	№655・761	
64	土師器	壺	－	6.2	－	ACEHIL	5	普通	にぶい黄		168-2
65	土師器	壺	－	5.3	－	AEHIK	5	普通	にぶい黄橙	内外面赤彩　H66G　下層	
66	土師器	壺	－	6.2	－	ABCHIJKL	5	普通	明黄褐	外面赤彩　№37	
67	土師器	壺	－	4.5	－	AEIJK	5	普通	にぶい橙	東遠江系	
68	土師器	大型土器	－	7.7	－	ACEHIK	20	普通	にぶい黄橙	H65G　№98	168-1
69	土師器	壺	－	2.8	－	HJK	5	普通	灰黄褐	赤彩	168-1
70	土師器	壺	－	2.8	－	AEHIK	5	普通	浅黄橙	外面赤彩　C65G　テラス	
71	土師器	壺	－	3.0	－	AEHIK	5	普通	灰黄褐	G68G	
72	土師器	壺	－	4.2	－	CEJK	5	普通	にぶい黄橙	№154　東遠江系か？	168-1
73	土師器	壺	－	4.4	－	EGHIJK	5	良好	にぶい橙		167-3
74	弥生	壺	－	4.3	－	AEHIK	5	普通	にぶい黄橙		
75	土師器	壺	－	5.0	－	AEIK	5	良好	灰白	赤彩	168-1
76	土師器	壺	－	3.7	－	CEHI	5	普通	灰褐	№517	168-1
77	土師器	壺	－	6.3	－	ABCEHIK	5	普通	にぶい黄	№311	167-3
78	弥生	壺	－	4.4	－	ABEHI	5	普通	にぶい橙	赤彩わずかに残る　G65G	167-3
79	土師器	壺	－	3.4	－	AEHK	5	普通	灰黄	テラス	167-3
80	土師器	壺	－	4.3	－	AEHIK	5	良好	にぶい橙		167-3
81	土師器	壺	－	2.8	－	ABCEHK	10	普通	にぶい橙	北	
82	土師器	壺	－	4.1	－	ACE	5	普通	褐灰	赤彩　G65G	
83	土師器	壺	－	5.6	－	AEGHIK	5	普通	にぶい橙	外面赤彩か　テラス	
84	土師器	壺	－	2.2	－	AEHIK	5	普通	明褐灰		
85	土師器	壺	－	1.2	－	AEIK	5	普通	灰白	№308	
86	土師器	小型壺	－	2.6	－	AEHIK	15	良好	灰黄	テラス	
87	土師器	壺	－	1.6	－	AEHIK	5	普通	にぶい黄橙	パレス	
88	土師器	小型壺	－	3.3	－	AEHIK	5	普通	灰黄	№313	167-3
89	土師器	小型壺	9.3	19.5	6.0	EHIKL	90	普通	浅黄橙	№415	149-8
90	土師器	小型壺	(11.0)	16.2	4.0	ACEHI	85	普通	にぶい橙	№336	150-1
91	土師器	小型壺	13.6	15.5	3.4	AEHIK	95	普通	にぶい橙	胴部黒斑あり　№116	150-2
92	土師器	小型壺	(8.3)	12.9	3.7	AEHIK	80	普通	明褐灰	№137	
93	土師器	小型壺	8.8	18.9	(6.1)	EGH	80	良好	にぶい橙	№31	150-3
94	土師器	小型壺	(11.0)	18.6	6.6	EGHIJL	90	良好	にぶい黄橙	№337	150-4
95	土師器	小型壺	11.5	12.2	5.6	CEIK	50	良好	橙	№92	150-5
96	土師器	小型壺	9.5	13.2	－	CEGHIL	45	良好	にぶい橙	№39	150-6
97	土師器	小型壺	－	13.3	－	ABCEHIK	80	普通	橙	赤彩　№271	151-1
98	土師器	小型壺	－	10.9	3.6	ACHIK	100	良好	明褐	№91	151-2

第65表　第48号溝跡出土遺物観察表（第234～238図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
99	土師器	小型壺	－	10.1	5.2	ＡＣＥＩＫ	95	良好	暗灰黄	№370	151-3
100	土師器	小型壺	10.9	11.7	4.0	ＡＣＤＥＨ	95	普通	橙	№332	151-4
101	土師器	小型壺	8.5	12.0	5.6	ＡＣＥＨＩ	100	良好	灰白	№661	151-5・6
102	土師器	小型壺	(8.8)	8.4	3.2	ＡＩＫ	70	良好	灰褐	№286	152-1
103	土師器	小型壺	－	8.5	1.9	ＡＣＥＨＩＫ	95	良好	にぶい黄橙	赤彩　№196	152-2
104	土師器	坩	－	8.3	2.3	ＡＥＩＫ	80	普通	にぶい橙	外面赤色化　№135	152-3
105	土師器	坩	(11.1)	5.3	－	ＡＣＥＨＩＫ	15	普通	橙　赤彩－赤	№331	
106	土師器	坩	7.7	3.7	－	ＡＣＥＨＩＫ	15	普通	にぶい赤褐	H66G　下層	
107	土師器	小型壺	(7.4)	5.4	－	ＡＥＨＩＫ	20	良好	にぶい赤褐	内外面煤付着　H65G	
108	土師器	台付甕	14.9	28.0	9.7	ＢＣＨＩ	80	良好	橙	煤付着　№457他	152-4
109	土師器	台付甕	21.2	31.2	11.0	ＡＣＥＨＩＪ	70	良好	浅黄橙	外面煤付着　№423・446他	152-5
110	土師器	台付甕	19.4	29.3	9.8	ＡＥＨＩＫ	70	普通	灰白	外面煤付着　№279	152-6
111	土師器	台付甕	(15.0)	27.4	10.4	ＡＥＧＩＪＫ	70	良好	褐灰	外面煤付着　№454・520他	153-1
112	土師器	台付甕	16.5	24.5	8.6	ＣＥＨＩＪ	80	良好	にぶい黄橙	内外面口縁以外煤付着　№46・83	153-2
113	土師器	台付甕	13.6	22.3	8.1	ＡＢＣＥＩＫ	90	普通	にぶい橙	外面煤付着　ＳＤ48　№77	153-3
114	土師器	台付甕	19.9	32.7	10.2	ＡＣＥＨＩＪＫＬ	85	良好	にぶい橙	内外面煤付着　外面一部赤変　№451・455他	153-4
115	土師器	台付甕	17.4	23.8	－	ＡＣＥＨＩＫＬ	90	良好	にぶい黄橙	外面煤付着　№402	153-5
116	土師器	台付甕	16.4	16.2	－	ＡＥＩＪＫ	80	良好	黒褐	外面煤付着　№657・659他	153-6
117	土師器	小型台付甕	9.8	14.7	8.1	ＡＣＥＨＩＪ	100	普通	灰白	ＳＤ48　№660	154-1
118	土師器	台付甕	12.8	16.5	－	ＡＢＥＨＩＫ	70	普通	にぶい黄橙	外面煤付着　№782・783	154-2
119	土師器	台付甕	16.0	20.9	－	ＡＣＥＨＩＪＫＬ	80	良好	灰白	内外面煤付着　№455・656・658	154-3
120	土師器	台付甕	19.1	21.1	－	ＡＣＥＩＫ	50	良好	灰黄褐	№363　H66G　G66G	
121	土師器	台付甕	－	24.8	9.3	ＡＥＨＩＫ	30	普通	明褐灰		154-4
122	土師器	台付甕	－	20.0	9.5	ＡＩＪＫ	30	良好	にぶい橙	№262　G65G　テラス	154-5
123	土師器	台付甕	－	14.0	8.0	ＡＣＥＨＩＪＫ	85	普通	にぶい褐	外面煤付着　内面炭化物付着　№86・126	
124	土師器	台付甕	(14.6)	4.5	－	ＡＥＩＫ	10	普通	黒褐	外面煤付着	167-2
125	土師器	小型台付甕	(12.1)	3.5	－	ＡＥＨＩＫ	50	普通	灰褐	外面煤付着　№270・287・288	167-2
126	土師器	台付甕	(19.5)	4.0	－	ＡＥＨＩＫＬ	20	良好	褐灰	内面煤付着　№290・294	167-2
127	土師器	台付甕	－	3.9	－	ＥＨＩＫ	70	普通	褐灰	内面煤付着　中央部下層	
128	土師器	台付甕	－	4.3	－	ＡＣＥＨＩＫ	70	普通	淡赤橙	Ｓ字模倣　№319	
129	土師器	台付甕	－	6.6	9.2	ＥＨＩＫ	95	普通	にぶい赤褐		154-6
130	土師器	台付甕	－	9.2	11.1	ＡＣＥＨＩＫ	80	普通	にぶい橙	外面煤付着	
131	土師器	台付甕	－	9.2	10.0	ＡＣＥＨＩ	85	良好	赤褐	内外面煤付着　赤変　№174	155-1
132	土師器	台付甕	－	8.4	11.5	ＡＥＨＪＫ	100	良好	明赤褐	内面煤付着　№125	155-2
133	土師器	台付甕	－	7.6	9.6	ＡＢＣＥＩＫ	80	普通	にぶい橙	内面煤付着　H66G	155-3
134	土師器	台付甕	－	7.2	10.6	ＡＣＥＨＩＫ	85	普通	明赤褐	内外面煤付着　№181	155-4
135	土師器	台付甕	－	7.0	9.1	ＡＣＥＨＩＪ	95	普通	にぶい黄橙	№7　北テラス	
136	土師器	台付甕	－	7.3	10.0	ＡＣＥＨＩＪＫ	70	良好	灰褐	№290	
137	土師器	台付甕	－	5.8	7.0	ＡＣＥＨＩＫ	70	普通	灰褐	Ｓ字台付甕の模倣か？	155-5
138	土師器	台付甕	－	6.4	8.7	ＢＣＥＩＫ	90	普通	橙	№169	
139	土師器	台付甕	－	6.3	8.1	ＣＥＨＩＫ	95	普通	橙	内外面煤付着	
140	土師器	台付甕	－	6.6	8.3	ＡＣＥＨＩＪＫＬ	95	普通	にぶい褐	№179	
141	土師器	台付甕	－	7.9	11.9	ＡＣＥＨＩＫ	10	普通	にぶい黄橙	H66G	
142	土師器	台付甕	－	5.6	(11.5)	ＡＣＥＩＫ	25	普通	灰黄褐	テラス　№310	
143	土師器	台付甕	－	6.1	9.5	ＢＥＨＩＪＫ	90	普通	にぶい赤褐	内外面煤付着　№175	
144	土師器	台付甕	－	5.6	7.2	ＡＣＥＩＫ	95	普通	にぶい赤褐	H66G	
145	土師器	台付甕	－	2.0	－	ＡＥＨＩＫ	5	普通	灰褐	外面煤付着　Ｓ字	167-2
146	土師器	台付甕	－	4.5	－	ＡＥＩＫ	5	普通	にぶい橙	外面煤付着　テラス	
147	土師器	台付甕	－	3.5	－	ＡＨＩＪＫ	5	普通	灰黄褐	外面煤付着　Ｓ字模倣　№102	167-2

第66表　第48号溝跡出土遺物観察表（第238～240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
148	土師器	台付甕	－	3.3	－	A I	5	普通	黒	内外面煤付着　H66G　S字模倣	
149	土師器	台付甕	－	2.3	－	C E H	5	普通	灰褐	№309　S字模倣か	
150	土師器	台付甕	－	2.8	－	A E H I K	5	普通	褐灰	内外面煤付着　S字模倣　テラス	
151	土師器	S字甕	－	2.1	－	A E G H I K	5	良好	にぶい橙	№310	
152	土師器	台付甕	－	1.9	－	C E I K	5	普通	にぶい黄橙	№291	
153	土師器	台付甕	－	1.6	－	C I	5	普通	黒褐	S字模倣　テラス	
154	土師器	甕	(20.0)	12.6	－	E H J K	30	普通	灰黄褐	№104	
155	土師器	甕	(23.2)	10.4	－	A C E H I K	25	普通	にぶい橙	№325	
156	土師器	台付甕	(16.2)	9.7	－	E H I J K	20	普通	灰黄褐	外面煤付着　№10・143	
157	土師器	甕	13.9	9.9	－	A C E H I K	25	普通	にぶい褐	№34	
158	土師器	甕	(15.3)	11.5	－	A C E H I J K	25	良好	にぶい黄	内外面煤付着　№178	155-6
159	土師器	甕	(15.6)	7.7	－	E H I J K	25	普通	にぶい赤褐	内外面煤付着　№450	
160	土師器	甕	(18.0)	4.3	－	C E H I K	10	普通	灰褐	外面煤付着	
161	土師器	甕	17.9	6.1	－	A C E H I K	85	普通	灰黄	外面煤付着　№159	156-1
162	土師器	甕	(16.1)	5.0	－	A E H I K	25	良好	にぶい黄橙	№8	
163	土師器	甕	(18.9)	4.4	－	A C E I K	10	普通	にぶい赤褐	外面煤付着　テラス	
164	土師器	甕	(19.8)	10.1	－	A H I J K	10	良好	黒褐	外面煤付着　H66G	
165	土師器	甕	(23.3)	5.7	－	A B E H I K L	15	普通	にぶい褐	№644	
166	土師器	甕	(16.8)	5.3	－	B I	15	普通	黄灰	№62	
167	土師器	甕	(11.8)	5.6	－	A B E I K	30	普通	にぶい黄橙	煤付着　最下層	
168	土師器	甕	(13.8)	2.6	－	A C E H I K	5	普通	灰黄褐	外面煤付着　北東テラス	167-2
169	土師器	甕	－	2.7	3.0	G H I J K	80	普通	にぶい褐	タタキ甕の模倣　№642	167-2
170	土師器	甕	－	7.6	－	A E H I K L	10	良好	灰	№754	
171	土師器	甕	－	6.5	－	A E H I J K	10	良好	黄灰		
172	土師器	甕	－	3.1	－	A I J K	5	良好	にぶい褐		
173	土師器	甕	－	4.7	－	A E I K	5	普通	にぶい黄褐		
174	土師器	甕	－	3.3	－	A E H I J	10	普通	暗灰黄		167-3
175	土師器	甕	－	2.8	－	A H I K	5	良好	褐灰	S字模倣　G65G　テラス	
176	土師器	甕	－	5.0	－	A C I J K	5	普通	黄灰		
177	土師器	甕	－	7.6	－	A C E I J	5	普通	灰褐	外面煤付着　№107	
178	土師器	甕	－	4.7	－	A I J K	5	普通	にぶい褐	外面煤付着　テラス	
179	土師器	甕	－	3.3	－	A E H I K	5	良好	明赤褐	テラス	
180	土師器	高坏	13.6	11.5	9.0	A C E J K	90	普通	褐灰	内外面煤付着　S D48　№521・744	156-2
181	土師器	高坏	12.0	9.3	－	A E H I J K L	95	良好	黒褐	№170	156-3
182	土師器	高坏	(20.0)	8.3	－	E H I K	40	普通	にぶい黄橙		
183	土師器	高坏	(17.6)	5.9	－	A E I J K	10	普通	灰黄		
184	土師器	高坏	21.5	7.3	－	A B C E H I J K	50	普通	にぶい黄橙	赤彩　№288	156-4
185	土師器	高坏	(19.7)	6.7	－	A E H I K	20	普通	にぶい黄橙	赤彩	
186	土師器	高坏	(12.6)	4.1	－	A H I K	10	良好	にぶい橙	テラス	
187	土師器	高坏	12.3	4.2	－	A E H I K	15	良好	にぶい橙	№44	
188	土師器	高坏	13.0	5.1	－	A H I J K	90	普通	にぶい橙	№95	
189	土師器	高坏	－	5.2	－	A H I	60	良好	にぶい黄橙	赤彩　№146	
190	土師器	高坏	11.3	7.6	－	C E H I K	95	良好	灰黄褐	№156	156-5
191	土師器	高坏	－	6.9	－	A E H I K	80	良好	にぶい橙	№88	156-6
192	土師器	高坏	－	4.7	－	A B E G H I K	50	普通	にぶい赤褐	内外面赤彩	167-2
193	土師器	高坏	－	5.5	－	A C H I K	80	普通	にぶい赤褐	外面煤付着　№322	
194	土師器	高坏	－	8.3	(12.3)	A C E H I J K	30	良好	にぶい赤褐	赤彩　№51	
195	土師器	高坏	－	9.8	10.9	A E H I J K	60	普通	にぶい褐	脚外面煤付着　№672	
196	土師器	高坏	－	9.1	(10.4)	A C E H I J K	30	普通	にぶい赤褐	赤彩　北	

第67表　第48号溝跡出土遺物観察表（第240～243図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
197	土師器	高坏	－	6.9	9.8	ＣＥＨＩＪＫ	90	普通	にぶい橙	№604	157-1
198	土師器	高坏	－	3.5	(12.8)	ＡＥＨＩＫ	15	普通	にぶい橙		
199	土師器	高坏	－	4.3	(7.5)	ＡＥＨＩＪＫ	50	普通	にぶい赤褐	№483　テラス	
200	土師器	高坏	－	4.5	(13.2)	ＡＣＥＨＩＫ	25	良好	にぶい橙	赤彩	
201	土師器	高坏	－	7.3	(12.9)	ＡＨＩＪＫ	40	普通	にぶい褐	内外面赤彩　№28	157-2
202	土師器	高坏	－	8.6	16.2	ＡＢＣＥＨＩＫ	80	普通	にぶい黄橙		157-3
203	土師器	高坏	－	5.5	16.2	ＡＥＨＩＫ	95	普通	にぶい黄橙	赤彩　№677	157-4
204	土師器	高坏	－	8.1	－	ＡＥＨＩＫ	80	普通	にぶい黄橙	№369	157-5
205	土師器	高坏	－	5.1	－	ＡＥＨＩＫ	80	普通	灰黄褐	赤彩　テラス	
206	土師器	高坏	－	6.1	(11.4)	ＡＣＥＨＩＪ	40	良好	にぶい黄	№380	
207	土師器	高坏	－	4.2	(19.1)	ＡＥＩＪＫ	25	普通	黒褐	内外面煤付着　H66G　下層　№242	
208	土師器	高坏	－	4.9	－	ＡＥＩＫ	5	普通	灰褐	赤彩　テラス	
209	土師器	高坏	－	5.0	－	ＡＥＨＩＫＬ	5	普通	にぶい橙		
210	土師器	高坏	－	2.3	－	ＡＣＤＥＫ	5	普通	灰黄褐	H66G	
211	土師器	器台	(9.4)	8.4	－	ＡＣＨＩＫ	30	良好	にぶい褐	赤彩	
212	土師器	器台	8.1	4.7	－	ＡＣＥＨＩＫ	70	普通	橙		157-6
213	土師器	器台	7.1	3.5	－	ＡＣＥＨＩＪＫ	90	普通	にぶい黄橙	№298	
214	土師器	器台	(8.4)	1.9	－	ＡＥＩＪ	20	良好	赤	赤彩　№245	
215	土師器	器台	(8.4)	1.8	－	ＣＨＩＪＫ	20	良好	にぶい黄橙	赤彩　テラス	
216	土師器	器台	(7.0)	2.3	－	ＡＥＨＩＫ	20	普通	灰黄褐	テラス	
217	土師器	大型器台	－	4.7	－	ＡＣＥＨＩＫ	30	良好	にぶい黄橙	赤彩　№14	167-2
218	土師器	大型器台	－	2.0	－	ＡＥＧＨＩＫ	25	普通	にぶい橙	G65G	
219	土師器	小型壺	10.4	9.8	3.2	ＣＥＨＩＫ	70	良好	にぶい橙	ＳＪ48　№523	158-1
220	土師器	鉢	(11.2)	9.7	3.8	ＡＣＥＨＩＫ	50	普通	にぶい橙	外面黒斑　№15	158-2
221	土師器	鉢	10.6	7.8	4.0	ＡＥＨＩＫ	50	普通	灰白	№679・953	158-3
222	土師器	鉢	(7.7)	3.5	－	ＡＣＩＪＫ	20	普通	明赤褐	Ｓの字甕の模倣品　№505	
223	土師器	鉢	(13.2)	5.4	4.3	ＢＣＥＨＩＪＫ	100	普通	にぶい橙	ＳＤ48　最下層	158-4
224	土師器	甑	－	1.2	－	ＡＣＨＩＫ	80	普通	灰褐	北側テラス	167-2
225	土師器	甑	－	3.5	4.6	ＡＣＥＨＩＫ	70	普通	にぶい黄橙	№517	
226	土師器	鉢	－	5.3	－	ＡＥＨＩＫ	5	良好	にぶい褐	外面煤付着	
227	土師器	鉢	－	3.7	－	ＡＥＨＩＪＫ	10	普通	明赤褐	テラス	
228	土師器	ミニチュア	(6.0)	4.1	(3.4)	ＡＥＨＩＪＫ	70	良好	灰黄褐	№476	
229	土師器	ミニチュア	(5.9)	5.1	3.2	ＡＨＩＫ	80	良好	灰褐		
230	土師器	ミニチュア	5.2	3.7	2.6	ＡＥＨＩＪＫ	90	良好	灰黄褐	№172	
231	土師器	ミニチュア	－	3.4	3.4	ＡＧＨＩＪ	70	普通	にぶい赤褐	№307	
232	弥生	壺	－	18.6	－	ＫＬ	50	普通	にぶい黄橙	№447・448・662・663・685・771	158-5
233	土師器	壺	17.0	28.1	－	ＡＥＧ	40	良好	にぶい橙	№449・635・678	159-1～3
234	土師器	壺	(12.8)	12.9	－	ＡＧＬ	5	良好	にぶい橙	№433　北側テラス	
235	弥生	甕	14.9	27.7	8.2	ＡＥＬ	90	良好	褐灰	№451・521	158-6
236	弥生	壺	13.2	26.8	7.0	ＫＬ	100	良好	灰褐	№419	159-4・5
237	弥生	壺	14.6	22.1	7.4	ＡＥＨＬ	98	良好	灰黄褐	№33	160-1・2
238	弥生	甕	－	9.3	－	ＡＤＥＧ	15	良好	黒褐		
239	土師器	甕	－	5.0	－	ＡＥＨＩ	10	普通	にぶい橙		
240	弥生	壺	－	2.7	－	ＡＣＥＨＩＪＫ	5	普通	にぶい褐	赤彩　№119	
241	弥生	壺	－	3.4	－	ＡＣＥＨＩＪＫ	5	良好	にぶい褐	赤彩　H66G　下層	168-1
242	弥生	壺	－	3.5	－	ＥＨＩＪＫ	5	普通	黒褐	外面煤付着	
243	土師器	壺	－	3.1	－	ＥＧＨＩＫ	5	良好	にぶい橙	H66G	
244	土師器	壺	－	4.7	－	ＡＥＨＩＫ	5	良好	灰黄褐		
245	弥生	甕	－	1.7	－	ＡＥＨＩＫ	5	普通	灰黄褐	№760	

第68表　第48号溝跡出土遺物観察表（第243～246図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
246	弥生	甕	－	2.4	－	ＡＣＨＩＪ	5	普通	灰黄褐	外面煤付着　テラス	
247	土師器	壺	(17.0)	6.8	－	ＧＩ	5	良好	灰褐		168-2
248	土師器	壺	－	6.0	－	ＡＢＥＨＩＪ	5	良好	黄褐	H65G	168-2
249	土師器	壺	－	13.0	－	ＡＢＣＥＨＩＫ	25	普通	灰黄褐	H65G	168-2
250	土師器	壺	－	4.5	－	ＥＨＩＬ	5	良好	灰黄褐		
251	弥生	甕	－	4.3	－	ＨＩＫ	5	普通	にぶい橙	表採	168-2
252	弥生	壺	－	2.6	－	ＡＩＫ	5	普通	褐灰	G65G	168-2
253	弥生	壺	－	2.0	－	ＡＨＩＪＫ	5	普通	褐灰	外面煤付着	
254	土師器	小型壺	－	4.6	－	ＥＨＩＫ	5	普通	褐灰	テラス	
255	土師器	壺	－	3.5	－	ＡＥＨＩＪＫ	5	良好	暗灰黄	H66G	
256	土師器	壺	－	4.2	－	ＡＣＥＨＩ	10	良好	黒褐	H66G　下層	168-2
257	弥生	甕	(13.0)	8.1	－	ＡＢＣＤＥＨＩＪ	25	普通	橙	G65G	
258	弥生	甕	－	6.6	－	ＡＥＩＪＫ	10	普通	灰黄褐	内外面煤付着　H66G	168-2
259	弥生	甕	－	2.9	－	ＡＥＨＩＫ	15	普通	にぶい黄褐	H66G　下層	
260	土師器	坩	7.2	7.0	2.5	ＡＥＨＩＪＫ	100	良好	にぶい黄橙	№269・271	161-1
261	土師器	坏	14.7	4.9	－	ＡＣＨＩＪＫ	55	普通	橙		161-2
262	土師器	高坏	－	12.8	－	ＡＣＨＩＫ	90	普通	にぶい橙	№93	161-3
263	土師器	高坏	－	7.8	－	ＡＣＥＨＩ	25	普通	灰黄	赤彩　G65G	
264	土師器	甕	14.1	18.9	－	ＡＣＥＨＩＪＫ	60	良好	にぶい黄橙	外面煤付着　№61	
265	土師器	壺	12.5	16.6	7.7	ＡＣＥＧＨＩＬ	75	普通	灰黄褐	№5	161-4
266	土師器	甕(古代)	(21.7)	7.0	－	ＡＥＨＩＫＬ	15	普通	灰黄	№22	
267	土師器	壺	－	32.5	8.6	ＡＣＥＨＩＪＫ	95	良好	にぶい褐	底部木葉痕あり　№1	161-5
268	須恵器	坏	(12.3)	3.5	(6.6)	ＩＪ	30	普通	青灰	№17　南比企産　体部側面に墨書「土」	160-3・4
269	須恵器	坏	12.3	3.5	6.4	ＩＪ	80	普通	青灰	№16　南比企産　体部側面に墨書「土」使用痕なし	160-5・6
270	須恵器	坏	(12.3)	3.1	－	ＩＪ	10	普通	青灰	№16　南比企産	

1.7×1.2㎝、12.0㎝隔てて1.9×1.2㎝のものが２箇所開けられている。小型のものは端部から６㎝の位置に、1.0×0.8㎝、23.0㎝隔てて1.2×0.7㎝のものが２箇所開けられている。木取りは板目、樹種はコナラ属クヌギ節である。

７は棒状の木製品である。垂木の可能性もある。上端を欠損している。下端は先端２㎝ほどを落として整えられている。所々に幅0.8㎝ほどの工具痕が認められる。残存長109.6㎝、径2.5～3.0㎝である。芯持丸木で、樹種はモミ属である。

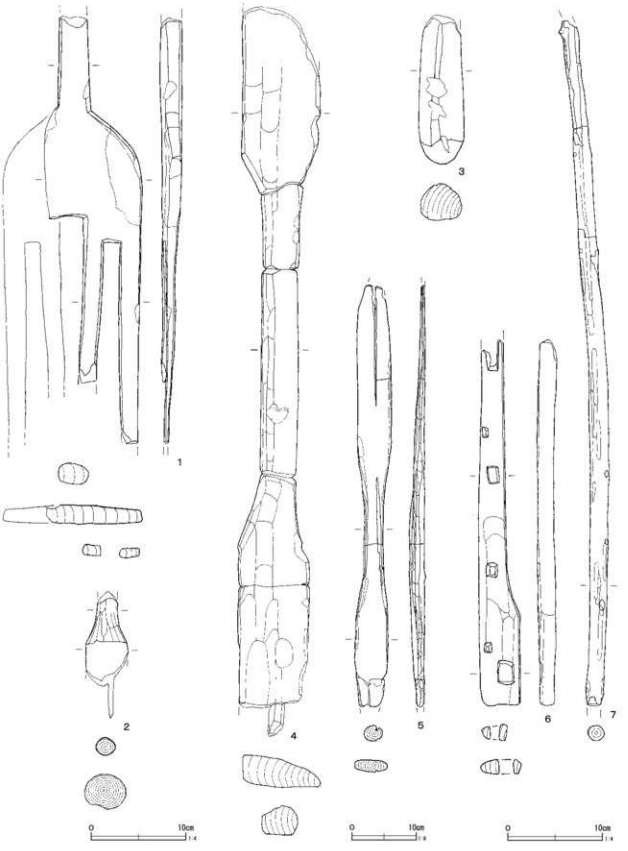
８は指物腰掛の脚部である。乾燥が進み、歪んでいる。高さ19.2㎝、幅22.6㎝、厚さ1.2㎝である。方形で座板に取り付ける幅8.5㎝、高さ3.0㎝の臍が出ている。表面に刃の当たりと考えられる痕跡が多く見られる。木取りは追柾目、樹種はキハダである。

９は指物腰掛である。おおよそ半分に割れている。座板は隅丸方形になると推定される。座板側面が38.8㎝、座板端面が10.3㎝、座板の厚さは5.2㎝である。脚部は高さ11.3㎝、幅24.2㎝、厚さ3.8㎝である。外面には横位の幅2.0～2.5㎝の工具痕が全体に認められる。芯なし削り出しで樹種はコナラ属アカガシ亜属である。

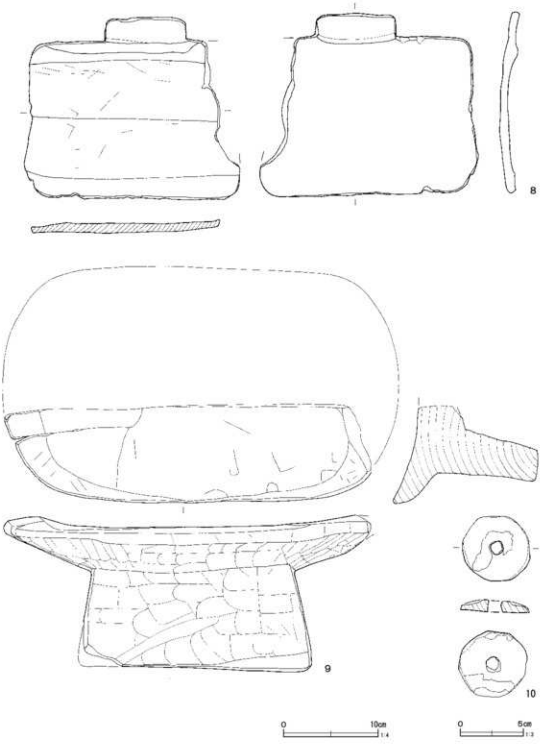
10は紡錘車と考えられるものである。全体的に剥離が著しい。側縁は表側は丸みがあり、裏側が平坦である。径5.2㎝、厚さ1.0㎝を測る。工具痕は認められない。木取りは柾目、樹種はイチイガシである。

11・12は槽である。相当大型のものだが、全体の半分以下しか残存していない。

11は四脚と考えられるが、脚部は２箇所のみが残存していたに過ぎない。側縁は幅４㎝前後の平坦面になっている。把手と考えられる突起が幅7.5㎝、長さ2.5㎝残存していた。内面に幅３～４



第247図　第48号溝跡出土木製品（1）



第248図　第48号溝跡出土木製品（2）

cmの工具痕が認められる。脚台は長さ12.3cm、幅3.4cm、高さ3.0cmである。全体の平面形は長方形、断面形は台形である。残存長97.8cm、幅38.8cm、厚さは側面が厚く3.8cm、底面が1.2～1.5cmである。高さは16.7cmである。木取りは横木取り、樹種はモクレン属である。

12は脚のないものである。全体の平面形は楕円形、断面形は台形である。残存長は53.4cm、残存幅は20.6cmである。厚さは側面、特に短辺側の端部が厚く2.5cm、底面にかけて徐々に薄くなり1.2cm、長辺側は1.5cmである。底面は1.0～1.2cmである。高さ6.3cmである。木取りは横木取り、樹種はクスノキである。

13は小型の脚付容器である。先端が尖った楕円形の剜物容器の一部で、四箇所の台脚があるものと考えられる。先端幅３cm、側面幅１cmほどの側縁部がある。脚台は長さ4.0cm、幅1.3cmほどの長方形である。器面の傷みが激しいが内面と裏面の一部に赤漆の痕跡が残る。残存長16.3cm、残存幅8.1cm、厚さ0.8～1.2cm、高さ4.8cmである。木取りは横木取り、樹種はサクラ属である。

14は容器と考えられるものである。残存している形状はやや丸みのある長方形である。断面形もやや丸みを帯びている。側縁の大部分が欠損しているものの、長辺と短辺の側縁に近い部分までが確認できる。幅１～２cmの平坦面が作り出されているようである。10×４cmの範囲に2.5～3.3cm×1.3～1.8cmの方形の四孔が穿たれている。脚台部を装着した可能性がある。中央付近には0.8×0.3cmの３箇所の凹みが認められる。内面には幅2.0～2.5cmの工具痕が認められる。残存長35.8cm、残存幅20.6cm、厚さは長辺側が厚く3.0cm、短辺側は1.3cmである。高さは残存している部分で5.5cmになる。木取りは縦木取り、樹種は次回報告する。

15は樹皮である。残存長11.8cm、残存幅4.0cm、厚さ0.5cmである。内面に側縁状の加工が見られ、容器として使用された可能性がある。幅1.3～1.5cmの工具痕が認められる。

16は木槌状のものである。半割にした丸木を刳りぬいたもので他の機能も考えられる。残存長178.1cm、残存幅31.6～31.8cm、高さ13.0cm、厚さは側縁が2.8cm、底部が5.0cmである。表裏に幅1.5～2.0cmの工具痕が認められる。側縁は磨耗している部分が多い。芯持ち丸木で、樹種はイチイガシである。

17～19は垂木である。17は屋根材、19は横架材である。

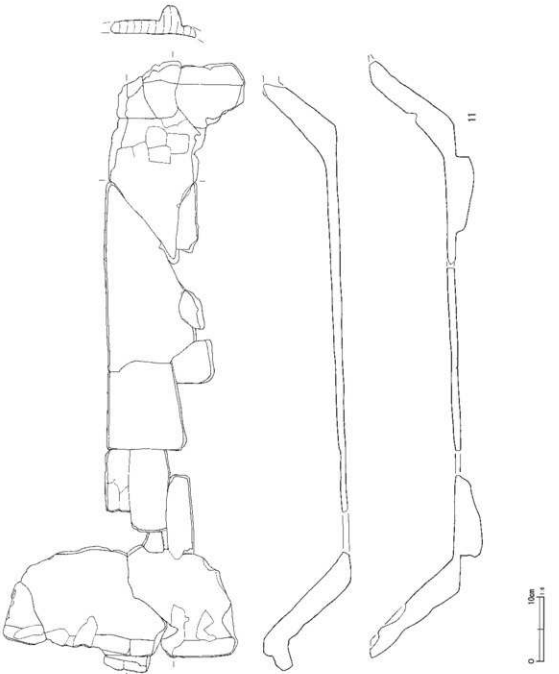
17は完形である。整えられた先端から3.5cmの部分に抉りが入る。末端は先端を落として整えられている。幅1.0cm前後の工具痕が認められる。長さ281.2cm、径3.7cm、抉りの部分の径は2.0cmである。芯持丸木で、樹種はカヤである。

18は両端を欠損している。全面を幅0.8cmほどの工具できれいに削られている。残存長121.7cm、径2.6～3.1cmである。芯持丸木で、樹種はモミ属である。

19は下半を欠損している。前二者に比して径が太く、構造材と考えられる。先端は球形に整えられている。先端から7.0cmの部分に長さ17cmの範囲で抉りが入る。柱との組み合わせのためと考えられる。工具の幅は2.0cm前後である。残存長83.0cm、径7.9cm、抉りの部分の径は6.5cmである。芯持丸木で、樹種はアサダである。

20・21は柱状の建築材である。20は柱材を分割したもので、両端を欠損する。全面を幅3.5cmほどの工具で削られている。裏側にも加工痕が認められることから、分割材と考えられる。残存長118.9cm、残存幅12.3cm、厚さ6.4cm、分割材で、樹種はスダジイである。

21は上端の二股の部分を臍状に加工したものである。上端は欠損している。下端の21cmは杭状に加工されている。全面を幅2.5～4.0cmほどの工具で削られている。先端は片側のみからの加工である。残存長88.2cm、残存幅は上端16.6cm、下端6.5

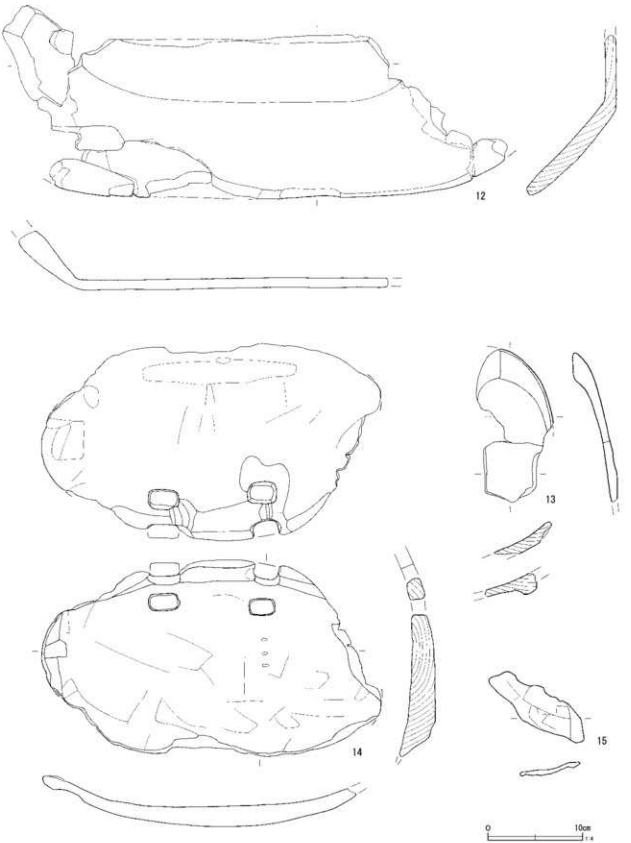


第249図　第48号溝跡出土木製品（3）

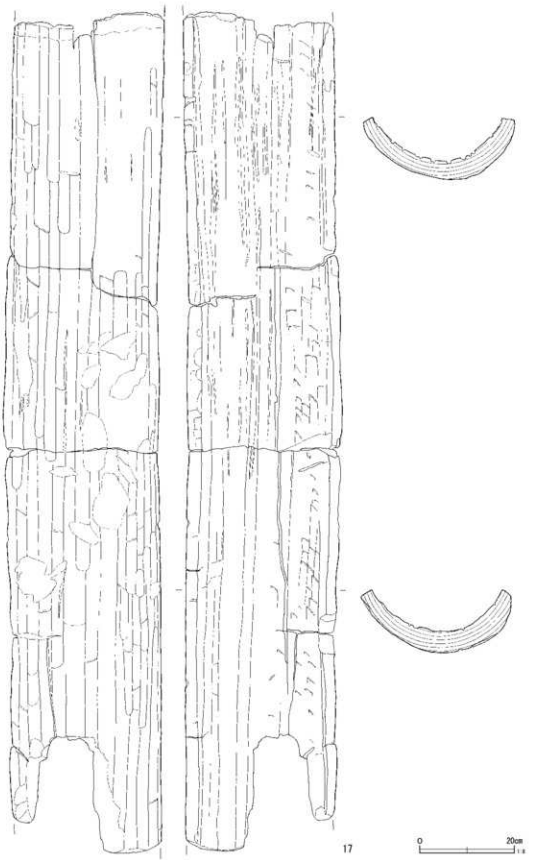
cm、厚さ8.5cm、芯持丸木で、樹種は次回報告する。

22は板材である。上下端は欠損している。左側に約20cm間隔、右側に15cm、32cm間隔に幅0.5cmの抉りが入れられている。中央が最も厚く、両側縁は薄く作られている。幅1.0cm、長さ３～４cmの工具痕が認められる。残存長78.7cm、幅5.1cm、厚さ2.0cm、木取りは柾目で、樹種はコナラ属クヌギ節である。

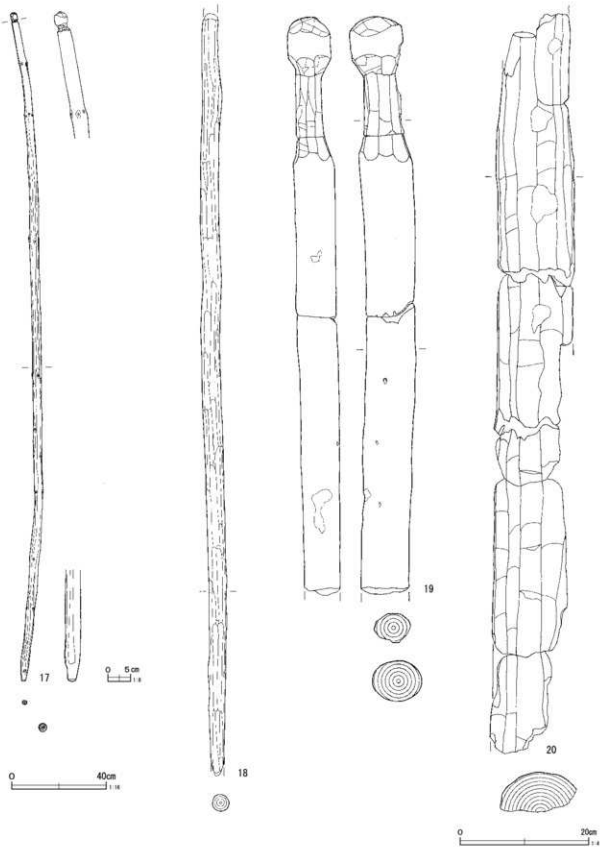
23は梯子である。上下端は欠損している。足掛けが４ヶ所認められる。間隔は下から25.0cm、28.5cm、28.0cmである。段の高さは下２段が3.5cm、３段目が3.0cm、４段目が1.5cmである。幅2.5～3.0cm前後の工具痕が認められる。残存長129.3cm、最大幅12.3cm、下段の部分が最も厚く、厚さ7.5cmを測る。段ではない部分は下部の方が厚く、厚さ



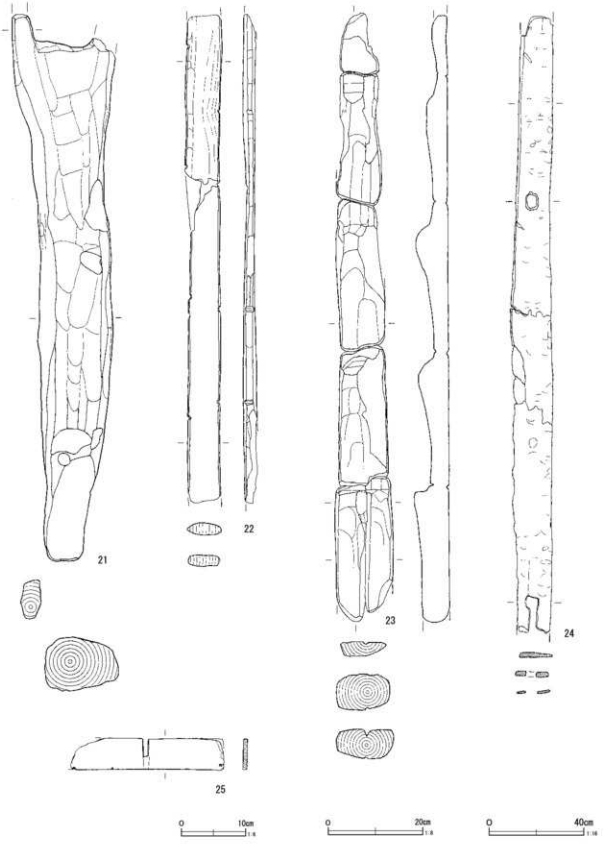
第250図　第48号溝跡出土木製品（4）



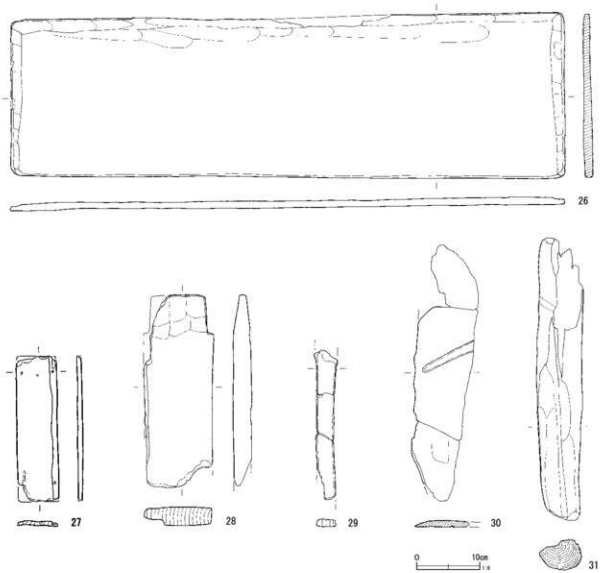
第251図　第48号溝跡出土木製品（5）



第252図　第48号溝跡出土木製品（6）



第253図　第48号溝跡出土木製品（7）

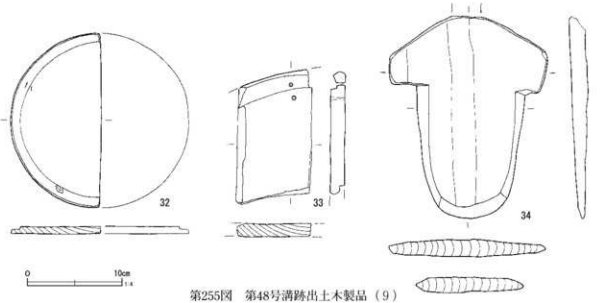


第254図　第48号溝跡出土木製品（8）

6.0㎝、上部は厚さ3.0㎝である。芯持丸木で、樹種はコナラ属アカガシ亜属である。

24は水平構造材である。上下端、側縁の一部が欠損している。上方に6.3×4.4㎝、下方に4.0×5.0㎝の方形の臍孔が開けられている。孔は傷みが著しい。残存長262.2㎝、最大幅17.4㎝、厚さ2.2㎝である。幅2.0㎝前後の工具痕が認められる。木取りは板目、樹種はモミ属である。

25～30は材である。25・27は側縁に綴じ孔が開けられるものである。箱などの部材の可能性が高い。25は両端部を欠損するが、本来は長方形と考えられる。中央に幅1.0㎝、長さ3.0㎝の臍が切られ、その下部には同じ幅の圧痕が見られることから、実際に組んで使用されていたことが分かる。厚さは均一で、下長辺側に径3㎜の楕円形の綴じ孔が4ヶ所見られる。小口のものはやや中央に寄っている。残存長24.6㎝、幅5.0㎝、厚さ0.7㎝、木取りは柾目、樹種はスギである。27は両端部を欠損するが、本来は長方形と考えられる。厚さは均一で、両短辺の小口寄りに片側は3ヶ所、もう片方は2ヶ所の、径2㎜の綴じ孔が見られる。3ヶ所の真ん中のものは貫通していない。いずれも位置が直線状に並ばず、やや不規則である。残存長23.0㎝、幅6.3㎝、厚さ0.8㎝、木取りは追柾目、樹



第255図　第48号溝跡出土木製品（9）

種はヒノキである。

26は、側縁部が薄く仕上げられており、何らかの部材や枠等と組み合わせられるものである。壁板や棚板もしくは机の天板と考えられる。幅2.0㎝前後の工具痕が認められる。木取りは追柾目、樹種はヒノキである。

28は片側が雄臍状に削られているものである。片側は欠損している。先端は、端部から6㎝の部分に段があり、そこまで表裏両側から斜めに削られているが、このままでは臍孔に組めないことから未成品の可能性がある。幅3.0～3.5㎝の工具痕が明瞭に認められる。残存長30.3㎝、幅10.7㎝、厚さ2.9㎝、木取りは柾目、樹種は次回報告する。

29は幅の狭いものである。上下端を欠損している。残存長23.5㎝、幅3.1㎝、厚さ1.3㎝である。木取りは柾目、樹種はイチイガシである。

30は外周全体を欠損している。側縁部が薄く仕上げられている。あるいは板材ではなく、鍬等の他の性格を持つものの可能性もある。中央部の幅1.2㎝の凹みは加工痕ではなく、何かの圧痕と考えられる。幅2.5㎝前後の工具痕が認められる。木取りは柾目、樹種はイチイガシである。

31は杭である。上下端を欠損している。特に上端は痛みが激しい。先端を斜めに削られている。幅は2.5㎝の工具痕がみられる。端部は欠損している。残存長45.4㎝、径7.2㎝、芯持ち丸木で、樹種はエノキである。

32～34は上層から出土したものである。

32・33は曲物の底板である。32は約半分を欠失し、33は相当大型のもので、全体のごく一部の破片と考えられる。32の側縁には幅1.0㎝の段が作り出されている。復元推定径は18.5㎝である。33には幅1.5㎝の段が作り出されている。段の上と中ほどに径4㎜の綴じ孔が2箇所見られる。32は残存幅9.5㎝、厚さ0.8㎝、木取りは板目、樹種はサワラである。33は残存長14.3㎝、残存幅7.8㎝、厚さ1.4㎝、木取りは板目、樹種はスギである。

34は一木鋤の身の部分である。柄は欠損している。鉄刃の着装部があるものである。幅に対して長さが短く、新しい特徴を示している。肩部はなで肩である。上端から8㎝の部分で段を作り出し、着装部にしている。上半の中央部分が最も厚く、刃の着装部分は薄くなっている。残存長21.3㎝、肩部の幅16.7㎝、着装部の幅8.0～11.5㎝、上半の厚さ1.9㎝、着装部は厚さ0.8㎝まで徐々に幅を減じ、先端は尖る。木取りは柾目、樹種はイチイガシである。

5．グリッド

（1）ピット（第256・257図）

B区からは、単独のピットが50基検出された。本報告では、そのうち37基について報告する。調査区北側の第48号溝跡南岸のⅠ－65グリッド、第3号溝跡北岸のJ－66グリッド付近、調査区南側の西側法面沿いのX・Y・Z－65・66グリッド付近に分布が集中している。第48号溝跡南岸のものは規模等がまちまちだが、ある程度規則的な配置が見られ柵列等の可能性がある。

規模は径0.12～0.52mほどで幅があり、深さは9～87cmで、深浅がある。Y－66グリッドP1は柱掘り方が認められるものである。

遺物は、土師器の小破片が出土したのみで、時期の特定は困難である。

（2）グリッド出土遺物（第258図）

遺構に帰属させることのできない遺物をグリッド出土遺物として取り上げた。

量的に多いものは古墳時代前期のものである。1・4は小型壺である。1は球形胴で、短く外反する口縁部が付くものである。端部を横ナデで複合口縁風に仕上げている。底部は薄い。3は甕である。復元される口径が大きく、相当大型のものになる可能性がある。5は台付甕の接合部である。接合部が太く、相当大型の個体になると考えられる。2は鉢である。無頸壺に近いものだが、端部は短く、横ナデが施され、S字状になっている。6は器台である。接合部から大きく開くもので、端部に横ナデを加え、器受部を表現している。

7～10は古墳時代中期のものである。坏は和泉式の後半から鬼高式にかけてのものである。7は平底で、坏身は浅く、体部上半のヘラケズリはナデ消されている。8は坏身模倣坏である。やはり体部上半のヘラケズリはナデ消されている。内面には放射状のヘラ磨きが施される。9は径14cmのやや大型のものである。10は高坏の脚部で中膨らみのものである。相当大型のものになると考えられる。ホゾ接合で、粘土を挿入した部分が脱落している。和泉式の前半のものである。

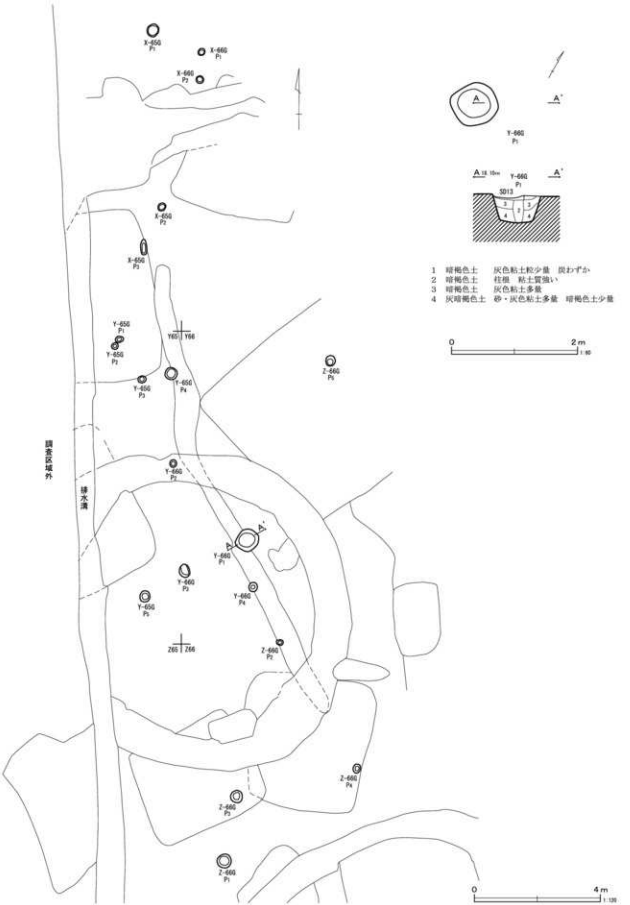
11は瀬戸美濃の徳利、12は香炉である。11は18世紀後半、12は17世紀後半である。

13・14は古墳時代前期のものである。13は外面に粘土積上痕を残すもので、吉ケ谷系と考えられる。下端は赤彩される。14は受口状を呈するものである。端部には面を持つ。

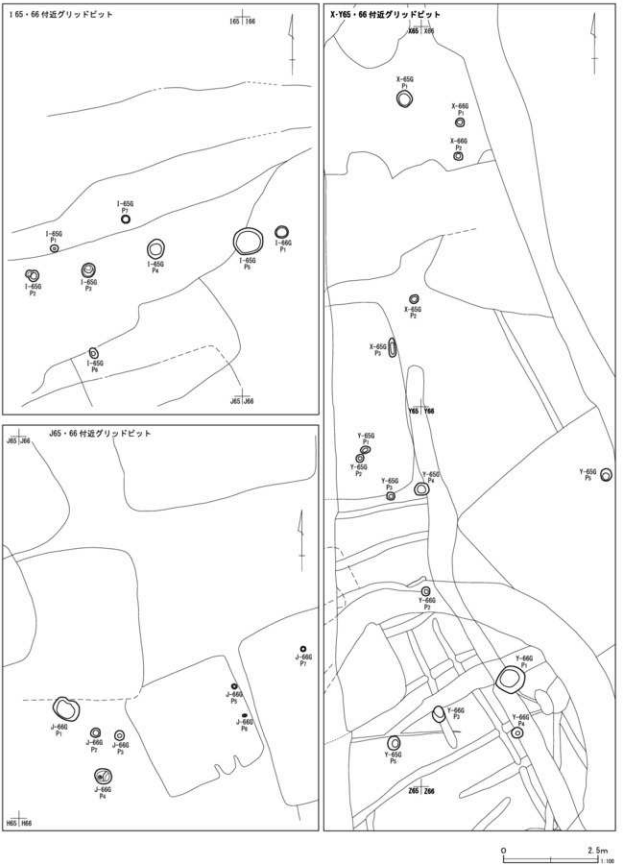
18は南比企産の須恵器甕の胴部下半である。18

第69表　ピット一覧表（B区）

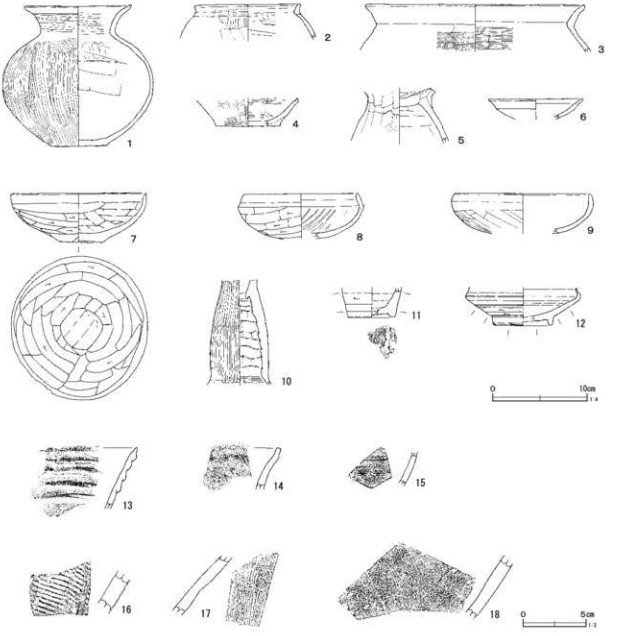
グリッド	番号	埋土	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
Y-66	1	－	0.76	0.68	0.45	－	
X-65	1	－	0.40	0.38	0.16	－	
	2	－	0.28	0.22	0.76	－	
	3	－	0.50	0.18	0.13	－	
X-66	1	－	0.22	0.20	0.13	－	
	2	－	0.24	0.22	0.15	－	
Y-65	1	－	0.24	0.18	0.26	－	
	2	－	0.20	0.18	0.24	－	
	3	－	0.24	0.20	0.30	－	
	4	－	0.40	0.38	0.15	－	
	5	－	0.36	0.30	0.20	－	
Y-66	1	－	0.74	0.68	0.44	－	
	2	－	0.22	0.20	0.87	－	
	3	－	0.42	0.32	0.13	－	
	4	－	0.30	0.28	0.42	－	
	5	－	0.28	0.24	0.38	－	
Z-66	1	－	0.46	0.44	0.45	－	
	2	－	0.20	0.16	0.24	－	
	3	－	0.40	0.38	0.22	－	
	4	－	0.26	0.20	0.12	－	
I-65	1	－	0.20	0.19	0.65	－	
	2	－	0.34	0.30	0.74	－	
	3	－	0.38	0.34	0.34	－	
	4	－	0.52	0.42	0.20	－	
	5	－	0.78	0.68	0.15	－	
	6	－	0.30	0.20	0.10	－	
	7	－	0.20	0.20	0.14	－	
I-66	1	－	0.32	0.30	0.23	－	
J-66	1	－	0.70	0.53	0.10	－	
	2	－	0.24	0.24	0.07	－	
	3	－	0.26	0.25	0.12	－	
	4	－	0.46	0.40	0.24	－	
	5	－	0.12	0.12	0.07	－	
	6	－	0.10	0.08	0.07	－	
	7	－	0.12	0.12	0.12	－	



第256図　グリッドピット（1）



第257図　グリッドピット（2）



第258図　グリッド出土遺物

は内面に灰がかかる。白色針状物質を含む。

17は丹波焼の擂鉢である。

第70表　グリッド出土遺物観察表（第258図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	小型壺	11.2	14.8	6.0	ＡＣＥＨＩＫ	40	普通	にぶい橙	N66G	162-1
2	土師器	甕	(10.9)	3.9	－	ＡＢＥＧＨＩＫ	5	普通	橙	J66G　№14	
3	土師器	甕	(23.0)	5.0	－	ＡＣＤＥＨＩＫ	5	普通	灰黄褐	X66G	
4	土師器	壺	－	3.0	(6.8)	ＡＣＥＧＨＩＪＬ	25	普通	橙	I65G	
5	土師器	台付甕	－	6.0	－	ＡＣＤＥＨＩＪ	50	普通	灰黄褐	J66G　№14	
6	土師器	器台	9.9	2.2	－	ＡＣＤＥＨＩＫ	50	普通	にぶい黄橙	J66G　№5	162-2
7	土師器	坏	14.2	5.1	4.5	ＡＣＤＥＧＨＩＪ	95	普通	にぶい赤褐	赤彩　I66G　№1	162-3
8	土師器	坏	(12.0)	4.8	－	ＣＥＨＩＫ	30	良好	浅黄橙	赤彩　J66G	162-4
9	土師器	坏	(14.0)	4.2	－	ＣＨＩＫ	20	普通	橙	M65G　表採	162-5
10	土師器	高坏	－	11.1	－	ＣＤＥＨ	90	良好	にぶい黄橙	赤彩　J66G	162-6
11	陶器	徳利	－	3.2	(4.9)	ＡＣＥＨＩＫ	25	普通	灰白	K65G　瀬戸美濃	
12	陶器	香炉	－	4.0	6.0	ＡＣＥＨＩＫ	30	普通	灰黄	K65G　瀬戸美濃	
13	土師器	壺	－	4.8	－	ＡＣＥＨＩＫ	5	普通	橙	赤彩　J66G　№9	
14	土師器	甕	－	3.3	－	ＡＣＥＨＩＫ	5	普通	明赤褐	X66G　受口状模倣	
15	陶器	碗	－	2.8	－	Ｉ	5	良好	にぶい黄	J66G　瀬戸か　内外面に釉がかかる	
16	須恵器	甕	－	2.7	－	ＡＣＥＨＩＫ	5	普通	褐灰	K65G　南比企産	
17	陶器	擂鉢	－	4.7	－	ＡＣＥＨＩＫ	5	普通	灰褐	K65G　丹波	
18	須恵器	甕	－	4.5	－	ＡＣＥＨＩ	5	普通	灰	K65G　南比企産	

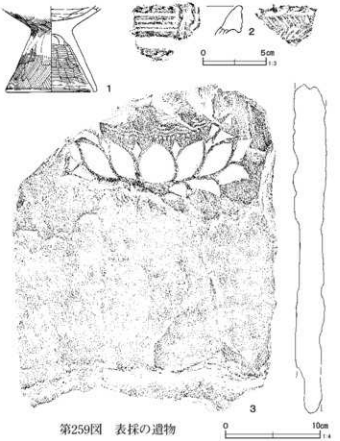
6．表採の遺物

B区からは、表土掘削時等にも遺物が採集されている。古墳時代前期の土器が多いが、ほとんどが小破片で実測不能のものである。ここでは、台付甕の破片と、板石塔婆を掲載する。

1の台付甕は、接合部から脚台部の破片である。やや大きめの脚台部である。ホゾ接合である。

2は所謂パレス壺の破片である。外面は4条の凹線状の沈線が施され、刻み目が施された棒状浮文が3本貼付されている。内面にはヘラ描きの綾杉文が施される。

3の板石塔婆は、上下が欠損、剥離し、種字下端と蓮座が見られるのみである。種字は阿弥陀（キリーク）、配置から一尊と考えられる。蓮座は蓮実が表現されている。残存長35.0cm、残存最大幅28.5cm、最大厚3.5cmである。緑泥片岩である。



第259図　表採の遺物

第71表　表採出土遺物観察表（第259図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	残存	焼成	色調	備　　考	図版
1	土師器	台付甕	－	9.2	9.6	ＡＣＥＨＩＪＫＬ	85	普通	にぶい褐	内外面煤付着	
2	土師器	壺	－	3.1	－	ＡＢＣＥＨＩＫ	5	普通	明褐	パレス	167-3

Ⅵ　科学分析

本調査では４箇所の大規模な河川跡を調査した。これらの河川跡はⅢで述べたように一つの蛇行する河川を直線的に横切って調査したものと考えられる。

これらの河川跡からは弥生時代から中世までの、本来なら腐朽してしまう、木製品、自然木、種実、獣骨といった多くの有機質の遺物が出土した。こうした遺物は、土器などとは異なり、当時の生活の環境や資源利用の様相を如実に伝えるものとして貴重なものである。また炭素同位体比を用いた年代測定によって絶対年代を測定することが可能で、考古学的な資料に年代の枠組みを与えることができる。

そこで、本事業では、出土木製品類の樹種同定、木製品類の年代測定、出土獣骨の同定、出土種実の同定を行うこととした。

しかし、こうした遺物は考古学的な手法によっては分析することができず、自然科学の研究者に分析を委ねなければならない。

平成19・20年度は、この内、出土木製品類の樹種同定、木製品類の年代測定、出土獣骨の同定を委託、依頼して行った。本書において報告する。

加えて、本遺跡からは、これまであまり例の知られていない平安時代の漆パレットや中世の漆器といった漆関係の遺物が出土していることから、それらについても分析を行った。また、調査によって外気に触れたことから木胎と漆塗膜の剥離が進行し、水漬け保存のみでは将来的に破壊されてしまうため、保存処理を実施した。これらについても本書で報告する。

１．反町遺跡出土木材の樹種

能城修一（森林総合研究所木材特性研究領域）
佐々木由香（早稲田大学文学学術院）
村上由美子（総合地球環境研究所）

（１）はじめに

埼玉県東松山市大字高坂に位置する反町遺跡から出土した古墳時代の木製品類285点と自然木79点の樹種を報告する。木製品類には、漆塗椀や曲物、槽を中心とした容器類をはじめとして、鋤鍬や竪杵、臼といった農工具類、下駄や小刀の鞘、箱、漁撈用の浮子といった道具類、柱や梯子をはじめとする建築材、板や割材といった加工材が含まれていた。

（２）試料と方法

樹種同定は、木取りを観察して大きさを計測後、遺物から直接、片刃カミソリをもちいて横断面、接線断面、放射断面の切片を切り取り、それをガムクロラール（抱水クロラール50ｇ、アラビアゴム粉末40ｇ、グリセリン20㎖、蒸留水50㎖の混合物）で封入しておこなった。各プレパラートにはST2-1～ST2-785の番号を付して標本番号とした。番号は連続ではなく城敷遺跡等の試料番号が途中に含まれている。標本は森林総合研究所に保管されている。

（３）結果

試料364点中には、カヤ、モミ属、アカマツ、スギ、ヒノキ、サワラ、アスナロの針葉樹7分類群と、ヤナギ属、アサダ、クマシデ属イヌシデ節、クリ、スダジイ、ツブラジイ、コナラ属クヌギ節、コナラ属コナラ節、イチイガシ、コナラ属アカガ

第72表　反町遺跡出土木材の樹種

分類群	漆塗椀	容器	櫂	桶	曲物	箆	鍬鋤	農具	臼	竪杵	織具	柄	下駄	椅子	小刀鞘	丸木弓	浮子	物製品	樹皮	竹製品	編組製品	棒	棰	建築材	柱	格子	板	割材	杭	加工木	木片	不明	計	自然木	樹皮	総計
カヤ																								1			1						2			2
モミ属			1		2			1									1	7	1			2	1	7		1	18	1		5	2		50	3		53
アカマツ																												1	2				3	5		8
スギ				2	6	3					1	1	2		3			4	4								14	1			1		42			42
ヒノキ					8	1								1				2	3			1					8	1		1	1		27			27
サワラ					3	1													1								2						7			7
アスナロ																	1										4						5			5
針葉樹樹皮																				4													4			4
ヤナギ属																														1			1			1
アサダ																								1				1					2			2
クマシデ属イヌシデ節																												1					1	2		3
クリ	1																		1						1			3	3	1			10	3		13
スダジイ																								1				1					2	2		4
ツブラジイ																									1		1	4	1				7	3		10
コナラ属クヌギ節								1											1								1	3	2				8	3		11
コナラ属コナラ節																												5					5	1		6
イチイガシ								5	1										6				1				3	3					19			19
コナラ属アカガシ亜属								1			2		1										1		1	2	1		3	3	2		1	18	14		32
ムクノキ																			1														1	2		3
エノキ属																									1			2		1			4	10		14
ニレ属																												1					1			1
ケヤキ	4	1							1				1											1			1	2					11	1		12
ヒメコウゾ																																		3		3
クワ属																								2				1	3				6	7		13
モクレン属			1																1														2			2
クスノキ			1																								1						2			2
クスノキ科																												1		1			2	1		3
サカキ												1													1			2					4			4
サクラ属			1																				1										2	1		3
カマツカ																																		1		1
ネムノキ																																		1		1
フジ																																		1		1
キハダ								1						1															1				3	1		4
ヌルデ																												1	1				2			2
ウルシ																																		1		1
カエデ属																							1					3					4	1		5
ムクロジ												1															1	1					3	6		9
トチノキ	1	1																										1					3		3	6
ケンポナシ属																														1			1	1		2
ウコギ属																														1	1		2	1		3
エゴノキ属												1																					1			1
ハイイヌツゲ属																			1											1	1		3			3
トネリコ属シオジ節	1																																1			1
トネリコ属トネリコ節																																		2		2
イボタノキ属																																		1		1
ムラサキシキブ属																							1										1			1
ニワトコ																																		1		1
竹稈類																					1	2											3			3
草本A																							3										3			3
草本B																							3										3			3
広葉樹樹皮																																			1	1
計	7	2	4	2	19	5	7	3	1	2	1	5	3	2	3	2	13	20	4	1	3	13	1	14	6	2	55	43	16	15	6	1	285	79	4	364

シ亜属、ムクノキ、エノキ属、ニレ属、ケヤキ、ヒメコウゾ、クワ属、モクレン属、クスノキ、クスノキ科、サカキ、サクラ属、カマツカ、ネムノキ、フジ、キハダ、ヌルデ、ウルシ、カエデ属、ムクロジ、トチノキ、ケンポナシ属、ウコギ属、エゴノキ属、ハイノキ属、トネリコ属シオジ節、トネリコ属トネリコ節、イボタノキ属、ムラサキシキブ属、ニワトコの広葉樹39分類群、竹笹類の単子葉1分類群、双子葉草本2分類群の計49分類群と、針葉樹と広葉樹、トチノキの樹皮が認められた（表1）。以下には各分類群の木材解剖学的な記載をおこない、代表的な標本の光学顕微鏡写真を載せて同定の根拠を示す。

1．カヤ　Torreya nucifera (L.) Siebold et Zucc. イチイ科　図1：1a-1c（枝・幹材、ST2-555）

樹脂道と樹脂細胞を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材は少ない。仮道管の内壁には2～3本ずつ走るらせん肥厚がある。

2．モミ属　Abies　マツ科　図1：2a-2c（枝・幹材、ST2-22）

樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材は多い。放射組織は柔細胞のみからなり、放射柔細胞には単壁孔が著しく、垂直壁は結節状。

3．アカマツ　Pinus densiflora Siebold et Zucc. マツ科　図1：3a-3c（枝・幹材、ST2-31）

垂直・水平樹脂道をもつ針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材はごく多い。放射仮道管の上下壁は著しい鋸歯状。分野壁孔は大型の窓状で、1分野に普通1個。

4．スギ　Cryptomeria japonica (L.f.) D.Don　スギ科　図1：4a-4c（枝・幹材、ST2-15）

樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材は多い。樹脂細胞が年輪の後半に散在する。分野壁孔は孔口が水平に開く大型のスギ型で普通1分野に2個。

5．ヒノキ　Chamaecyparis obtusa (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　図1：5a-5c（枝・幹材、ST2-304）

樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材は少ない。樹脂細胞が年輪の後半に散在する。分野壁孔は孔口が垂直にちかく開く中型のトウヒ型で、普通1分野に2個。

6．サワラ　Chamaecyparis pisifera (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　図1、2：6a-6c（枝・幹材、ST2-334）

樹脂道を持たない針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材は少ない。樹脂細胞が年輪の後半に散在する。分野壁孔は孔口が斜めに開く中型のヒノキ型で、普通1分野に2個。

7．アスナロ　Thujopsis dolabrata (L.f.) Siebold et Zucc.　ヒノキ科　図2：7a-7c（枝・幹材、ST2-133）

樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで晩材は少ない。樹脂細胞が年輪の後半に散在する。放射柔細胞は普通樹脂が詰まっており、分野壁孔は小型のスギ型で、普通1分野に2～4個。

8．針葉樹樹皮　Conifer bark　図2：8a-8c（ST2-312）

仮道管にこの繊維を主体として構成される樹皮組織。

9．ヤナギ属　Salix　ヤナギ科　図2：9a-9c（枝・幹材、ST2-38）

小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に2～3個複合して密に散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性で、道管との壁孔は密で大きい。

10．アサダ　Ostrya japonica Sarg.　カバノキ科　図2：10a-10c（枝・幹材、ST2-506）

小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に2～3個複合してやや疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は短接線状。放射組織は

異性で２細胞幅くらい。

11．クマシデ属イヌシデ節　Carpinus sect. Eucarpinus　カバノキ科　図２、３：11a-11c（枝・幹材、ST2-18）

小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合して放射方向に並ぶ傾向をみせる放射孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は短接線状。放射組織は異性で、３細胞幅くらいの小型のものと、大型の集合状のものとを持つ。

12．クリ　Castanea crenata Siebold et Zucc.　ブナ科　図２：12a-12c（枝・幹材、ST2-19）

大型で丸い孤立道管が年輪のはじめに３列ほど集合し、晩材では小型で薄壁の孤立道管が火炎状に配列する環孔材。木部柔組織は晩材でいびつな接線状。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性。

13．スダジイ　Castanopsis sieboldii (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba　ブナ科　図３：13a-13c（枝・幹材、ST2-123）

中型で丸い孤立道管が年輪のはじめに数個ずつ塊をなし、晩材では小型で薄壁の孤立道管が早材道管の塊から火炎状に配列する半環孔材。木部柔組織はいびつな接線状。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性。

14．ツブラジイ　Castanopsis cuspidata (Thunb.) Schottky　ブナ科　図３：14a-14c（枝・幹材、ST2-76）

スダジイによく似た半環孔材。一般に早材道管はスダジイより大きく、年輪界は集合状の広放射組織を境にしてずれる。

15．コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科　図３：15a-15c（枝・幹材、ST2-42）

大型で丸い孤立道管が年輪のはじめに１～２列ほど集合し、晩材では小型で厚壁の孤立道管が放射状に配列する環孔材。木部柔組織は晩材でいびつな接線状。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で、単列のものと複合状のものを持つ。

16．コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科　図３：16a-16c（枝・幹材、ST2-148）

大型で丸い孤立道管が年輪のはじめに１～２列ほど集合し、晩材では小型で薄壁の孤立道管が火炎状に配列する環孔材。木部柔組織は晩材でいびつな接線状。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で、単列のものと複合状のものを持つ。

17．イチイガシ　Quercus gilva Blume　ブナ科　図４：17a-17c（枝・幹材、ST2-776）

大型（径200μm以上）で厚壁の丸い孤立道管が放射方向の帯をなす放射孔材。木部柔組織はいびつな接線状。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で、単列のものと大型の複合状のものをもつ。

18．コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科　図４：18a-18c（枝・幹材、ST2-108）

中型で厚壁の丸い孤立道管が放射方向に１～２列に配列する放射孔材。木部柔組織はいびつで幅の狭い帯状。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で、単列の小型のものと大型の複合状のものとからなる。アカガシ亜属はイチイガシ以外の種をすべてアカガシ亜属と同定した。

19．ムクノキ　Aphananthe aspera (Thunb.) Planch.　ニレ科　図４：19a-19c（枝・幹材、ST2-257）

厚壁の道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合して疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は晩材で翼状～連合翼状。放射組織は異性で４細胞幅くらい、直立部に結晶をもつ。

20．エノキ属　Celtis　ニレ科　図４：20a-20c（枝・幹材、ST2-50）

大型で丸い道管が年輪のはじめに３列ほど集合し、晩材では小型で丸い道管が数個ずつかたまって斜めに連なる環孔材。道管の穿孔は単一、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で８～10細胞幅くらいで鞘細胞をもつ。

21．ニレ属　Ulmus　ニレ科　図４：21a-21c（枝・幹材、ST2-58）

大型で丸い道管が年輪のはじめに３列ほど集合し、晩材では小型の道管が接線方向の帯をなす環孔材。道管の穿孔は単一、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は同性で７細胞幅くらい。

22．ケヤキ　Zelkova serrata (Thunb.) Makino　ニレ科　図４、５：22a-22c（枝・幹材、ST2-139）

大型で丸い道管が年輪のはじめに１（～２）列に配列し、晩材では小型の道管が接線方向の帯をなす環孔材。道管の穿孔は単一、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で８細胞幅くらい、上下端には大型の結晶をもつ。

23．ヒメコウゾ　Broussonetia kazinoki Siebold　クワ科　図５：23a-23c（枝・幹材、ST2-138）

大型で丸い道管が年輪のはじめに３列ほど集合し、晩材では小型の道管が放射方向に伸びる塊をなして散在する環孔材。道管の穿孔は単一、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で７細胞幅くらい。

24．クワ属　Morus　クワ科　図５：24a-24c（枝・幹材、ST2-26）

やや大型で丸い道管が年輪のはじめに４列ほど集合し、晩材では小型で丸い道管が数個ずつ丸い塊をなして散在する環孔材。道管の穿孔は単一、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で７細胞幅くらい。

25．モクレン属　Magnolia　モクレン科　図５：25a-25c（枝・幹材、ST2-382）

小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合してやや疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は単一、道管相互壁孔は階段状。放射組織は同性で２～３細胞幅。

26．クスノキ　Cinnamomum camphora (L.) J.Presl　クスノキ科　図５：26a-26c（枝・幹材、ST2-329）

大型で丸い道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合して、年輪内で小型化しながら疎らに散在する半環孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は周囲状で、大型の油細胞をもつ。放射組織は異性で２～３細胞幅、ときに層階状に配列する。

27．クスノキ科　Lauraceae　クスノキ科　図５、６：27a-27c（枝・幹材、ST2-16）

中型～小型でやや厚壁の道管が単独あるいは２個放射方向に複合して疎らに散在する散孔材。周囲状木部柔組織と放射組織にはしばしばやや大型の油細胞をもつ。道管の穿孔は単一、ときに階段状。放射組織は異性で２～３細胞幅。

28．サカキ　Cleyera japonica Thunb.　ツバキ科　図６：28a-28c（枝・幹材、ST2-491）

ごく小型で角張った孤立道管が密に均一に散在する散孔材。道管の穿孔は30本ほどの横棒からなる階段状。放射組織は単列異性、ときに２細胞幅となる。

29．サクラ属（広義）　Prunus s.l.　バラ科　図６：29a-29c（枝・幹材、ST2-365）

やや小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合して斜めに連なる傾向を見せて散在する散孔材。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で５細胞幅くらい。

30．カマツカ　Pourthiaea villosa (Thunb.) Decne. var. villosa　バラ科　図６：30a-30c（枝・幹材、ST2-69）

小型で丸い孤立道管が密に均一に散在する散孔材。木部柔組織は短接線状。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で４細胞幅くらい。

31．ネムノキ　Albizia julibrissin Durazz.　マメ科　図６：31a-31c（枝・幹材、ST2-105）

やや大型で丸い道管が単独ときに２個複合して年輪のはじめに数列集合し、晩材では小型化した同様の道管が疎らに散在する環孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は晩材で周囲状～翼状。放射組織は同性で２～３細胞幅、外形はいびつ。

32．フジ　Wisteria floribunda (Willd.) DC.　マメ科　図６：32a-32c（枝・幹材、ST2-98）

大型で丸い孤立道管が年輪のはじめに１列に並

び、晩材ではやや小型で疎らな孤立道管の間をごく小型の道管の帯が埋める環孔材。道管の穿孔は単一、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は同性で8細胞幅くらい。道管要素と木繊維、小型の放射組織は層階状に配列する。

33. キハダ　Phellodendron amurense Rupr.　ミカン科　図7：33a-33c（枝・幹材、ST2-49）

大型で丸い道管が単独ときに2個複合して年輪のはじめに3列ほど集合し、晩材では小型で薄壁の道管が接線方向の帯をなす環孔材。道管の穿孔は単一、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は同性で4細胞幅くらい。

34. ヌルデ　Rhus javanica L. var. chinensis (Mill.) T.Yamaz.　ウルシ科　図7：34a-34c（枝・幹材、ST2-11）

やや大型で丸い道管が単独ときに2個複合して年輪のはじめに数列配列し、晩材では小型で薄壁の道管が接線方向の帯をなす半環孔材。道管の穿孔は単一、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で3細胞幅くらい。

35. ウルシ　Toxicodendron vernicifluum (Stokes) F.A.Barkley　ウルシ科　図7：35a-35c（枝・幹材、ST2-59）

やや大型で丸い道管が単独ときに2個複合して年輪のはじめに数列配列し、晩材では小型で丸い道管が接線方向に2～4個複合して散在する半環孔材。道管の穿孔は単一、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で3細胞幅くらい。

36. カエデ属　Acer　カエデ科　図7：36a-36c（枝・幹材、ST2-282）

やや小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に2～4個複合して疎らに散在する散孔材。木繊維は横断面で雲紋状を呈する。道管の穿孔は単一、内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は同性で5細胞幅くらい。

37. ムクロジ　Sapindus mukorossi Gaertn.　ムクロジ科　図7：37a-37c（枝・幹材、ST2-54）

大型で丸い道管が単独あるいは2個複合して年輪のはじめに1～3列ほど配列し、晩材では小型で薄壁の道管が接線方向に伸びる塊をなして散在する環孔材。道管の穿孔は単一、小道管の内壁にはらせん肥厚がある。木部柔組織は晩材で帯状。放射組織は同性で3細胞幅くらい。

38. トチノキ　Aesculus turbinata Blume　トチノキ科　図7、8：38a-38c（枝・幹材、ST2-478）、図8：39a-39c（樹皮、ST2-28）

枝・幹材は小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に2個複合して密に散在する散孔材。道管の穿孔は単一、内壁にはらせん肥厚がある。放射組織は単列同性で、層階状に配列する。

樹皮は単列の放射組織が層階状に配列する。

39. ケンポナシ属　Hovenia　クロウメモドキ科　図8：40a-40c（枝・幹材、ST2-84）

やや大型で丸い道管が単独ときに2個複合して年輪のはじめに3列ほど配列し、晩材では小型で丸い厚壁の道管が接線方向に2～3個複合して散在する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で4細胞幅くらい。

40. ウコギ属　Acanthopanax　ウコギ科　図8：41a-41c（枝・幹材、ST2-118）

小型で薄壁の道管が斜め～接線方向の帯をなして散在する紋様孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は上下端が直立細胞からなる異性で8細胞幅くらい。

41. エゴノキ属　Styrax　エゴノキ科　図8：42a-42c（枝・幹材、ST2-363）

やや小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に2～3個複合して、年輪内で小型化しながら散在する散孔材。道管の穿孔は10本ほどの横棒からなる階段状。木部柔組織は晩材で接線状。放射組織は異性で3細胞幅くらい。

42. ハイノキ属　Symplocos　ハイノキ科　図8、9：43a-43c（枝・幹材、ST2-141）

小型で丸い道管がほぼ単独でやや疎らに均一に

散在する散孔材。道管の穿孔は20本ほどの横棒からなる階段状。放射組織は異性で３細胞幅くらい。

43．トネリコ属シオジ節　Fraxinus sect. Fraxinaster　モクセイ科　図９：44a-44c（枝・幹材、ST2-298）

大型で丸い道管が単独ときに２個複合して年輪のはじめに１～２列配列し、晩材では小型で厚壁の道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合して疎らに散在する環孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は晩材で翼状～連合翼状。放射組織は同性で２～３細胞幅。

44．トネリコ属トネリコ節　Fraxinus sect. Ornus　モクセイ科　図９：45a-45c（枝・幹材、ST2-68）

やや大型で丸い道管が単独のときに２個複合して年輪のはじめに断続的に配列し、晩材では小型で厚壁の道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合して疎らに散在する環孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は晩材で翼状～連合翼状。放射組織は同性で２細胞幅。

45．イボタノキ属　Ligustrum　モクセイ科　図９：46a-46c（枝・幹材、ST2-112）

小型で丸い孤立道管が年輪のはじめに断続的に配列し、晩材ではさらに小型化した道管が単独あるいは放射方向に２個複合して密に散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で２細胞幅。

46．ムラサキシキブ属　Callicarpa　クマツヅラ科　図９：47a-47c（枝・幹材、ST2-502）

小型で丸い厚壁の道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合して均一に散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で３細胞幅。

47．ニワトコ　Sambucus racemosa L. subsp. sieboldiana (Miq.) H.Hara　スイカズラ科　図９：48a-48c（枝・幹材、ST2-62）

小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合して斜めに連なる傾向を見せる散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で５細胞幅、鞘細胞を持つ。

48．竹笹類　Subfam. Bambusoideae　イネ科　図10：49a（稈、ST2-514）

中心にある一対の道管と、それと直交する原生木部間隙と篩部を囲んで厚膜組織が雑管束鞘を形成し、それが散在する。

49．草本Ａ　Herbaceous plant A　科不明　図10：50a-50c（茎、ST2-513）

小型で丸い道管が単独あるいは放射方向２～３個複合して帯をなして散在する散孔材。年輪界はない。道管の穿孔は単一。放射組織は直立細胞からなり３細胞幅くらいから10数細胞幅まで、不規則に変化する。

50．草本Ｂ　Herbaceous plant B　科不明　図10：51a-51c（茎、ST2-517）

小型で丸い道管が単独あるいは放射方向２～４個複合して均一に散在する散孔材。年輪界はない。道管の穿孔は単一。放射組織は直立細胞からなり２細胞幅くらいから10数細胞幅まで、不規則に変化する。

（４）考察

反町遺跡から出土した木製品類全体では、モミ属とスギ、ヒノキ、イチイガシを含むコナラ属アカガシ亜属が多く、これらの樹種は道具類から建築材・加工木等まで幅広く用いられていた（表１）。このうちモミ属は浮子を除くと、建築材や加工木等といった比較的大型の材に用いられていることが多く、これらの材の長距離の運搬は難しいことから遺跡の近傍にモミ属を供給する森林資源があったことが想定される。これに対し、スギとヒノキは曲物や桶、下駄、小刀鞘、浮子といった比較的小型の道具類に利用されており、それ以外としては板にほぼ限定される。モミ属の材質はヒノキやスギに比べて耐久性が低いのにこれだけ大型の建築材等に使われていることは、モミ属の木材が

ヒノキやスギに比べて得やすかったことを示している。これに対し、ヒノキやスギの道具類には、関東山地といった遠方の地域からの搬入品が含まれている可能性がある。

日本産のアカガシ亜属には、アカガシ、シラカシ、イチイガシ、ウラジロガシ、シラカシ、ツクバネガシ、オキナワウラジロガシ、ハナガガシの8種があるが、普通はアカガシ亜属として同定されていた。反町遺跡では、近接する城敷遺跡と同様に、横断面で直径200μm以上の道管が接線方向に数列並んで放射状に配列する個体が認められ、これらを他のアカガシ亜属と区別してイチイガシとして同定した。イチイガシは鋤鍬と楯、紡錘車のほか、それらの原材と思われる板に多く用いられているのに対し、それ以外のアカガシ亜属は、竪杵を除いて、建築材や加工木等に広く利用されており、用途が対照的である。イチイガシはそれ以外のアカガシ亜属とは異なり自然木は出土していないが、板や割材が出土しており、当遺跡のごく周辺には生育してなかったとしても、それほど離れていない場所に生育していたと考えられる。

その他の樹種では、ケヤキの漆塗椀や臼、トチノキの漆塗椀と容器が目立つ程度で、あまり明瞭な樹種選択は見られない。割材は、近傍の自然木をとりあえず持ってきて割ったもののようで、自然木と同じような多様な樹種が使われている。

自然木は、出土点数を直径階の分布と対照すると、エノキ属やムクロジ、クワ属、カエデ属、キハダ、ムクノキといった、陽当たりの良いところに生育する、二次林の構成樹種が優占していたことが分かる（表２）。これは天然の森林というよりも、人為的に伐採が繰りかえされた結果、陽樹の多い二次林が形成されていたものと考えられる。このうち直径が30cmを越えるものはエノキ属とクワ属、カエデ属、ムクロジであった。アカガシ亜属やアカマツは、出土点数は多いものの、自然木には小径のものしかなく、遺跡のごく近傍には大径の木は少なかったと想定される。同様に、木製品や加工木等で多用されているモミ属やスギ、ヒノキといった針葉樹やイチイガシやトチノキといった広葉樹は自然木ではほとんど出ておらず、遺跡のごく周辺より遠方で伐採され製材されてから当遺跡にもたらされたものや、製品として他地域から搬入されたと想定される。しかし前述のイチイガシと同様に、板や割材が多数出土しているモミ属やスギ、ヒノキは、それほど遠方から運んできたとは考えられず、関東山地などに生育していたと考えられる。このように木製品に使用している樹種と自然木の樹種を比較することによって、素材の獲得から利用方法に明瞭な差が見られた。また直径６cm程のウルシの自然木が出土しており、ウルシは日本には自生しないことから、当遺跡の近傍で漆掻きのために栽培されていたことを示している。

当遺跡で出土した樹種の中で、スダジイとツブラジイ、イチイガシ、クスノキ、ハイノキ属は照葉樹林の主要な構成要素で、現在の関東地方では房総半島などの南岸にしか生育していない。アカガシ亜属は狭山丘陵には縄文時代後・晩期から古代にかけて生育していたことが所沢市のお伊勢山遺跡の調査（辻ほか、1989、1990）で分かっており、東京都東村山市の下宅部遺跡では縄文時代後期のツクバネガシの葉が出土している（米倉ほか、2006）。しかし、それ以外の樹種は周辺では見いだされていない（吉川、1999）。こうした樹種が東松山市のような関東平野の内陸部に生育していた場所は、近傍の城敷遺跡や埼玉県比企郡吉見町の西吉見条里遺跡（未公表）を除くと見いだされておらず、非常に特異である。西吉見条里遺跡の結果とあわせて考えると、この地域にのみこうした樹種が生育できるような生態的あるいは人為的な要因が古墳時代から古代にかけて存在していたと考えざるをえない。今後、花粉分析や種実分析など、他の手法での解析結果と対照して解明して

いくべき問題である。

引用文献

辻　誠一郎ほか．1989．縄文時代の古地理と古環境．早稲田大学所沢校地文化財調査室編「お伊勢山遺跡の調査：第３部　縄文時代」，3-58．早稲田大学．

辻　誠一郎ほか．1990．弥生時代から平安時代の古地理と古環境．早稲田大学所沢校地文化財調査室編「お伊勢山遺跡の調査：第４部　弥生時代から平安時代」，3-75．早稲田大学．

吉川昌伸．1999．関東平野における過去10,000年間の環境変遷．国立歴史民俗博物館研究報告81: 67-87．

米倉浩司・鈴木三男・佐々木由香．2006．下宅部遺跡から出土した縄文時代後期の葉化石の同定．下宅部遺跡調査団編「下宅部遺跡Ⅰ（１）」，340-345．東村山市遺跡調査会．

（５）編組製品の技法と素材

はじめに

埼玉県東松山市高坂に位置する反町遺跡1次調査の第36号溝跡では編組製品４点が出土した。ここでは、編組製品の技法と素材について報告する。なお、大型のかごは保存処理されているため、保存処理後に観察を行った。

資　料

資料は４点で、いずれも第36号溝跡堆積物中から出土した（出土状況の詳細はp.183参照）。編組製品72はQ65グリッドから出土した大型のかごである。２本縒りの縄が伴っており、製品内部には敷物状の２つの別の編組製品が組合わさる。かごのひご材の一部分を用いて放射性炭素年代測定が行われており、２σ（95.4%の確率）の暦年較正年代で1262-1313 calAD（75.3%）、1357-1388 calAD（24.7%）の年代範囲が得られている（放射性炭素年代測定の項参照）。編組製品73はＰ66グリッド下層から出土した板材にほぼ接して検出された敷物あるいはスダレ状の編組製品、編組製品74はＰ66グリッドから出土した２個体が重なって出土している製品で、仮に上部のかごを74-1、下部の敷物あるいはスダレ状の製品を74-2とする。73と74の時期は周辺の出土遺物から古墳時代前期と考えられている。なお、編組製品の各部の呼称や技法は野田（2005）、佐々木（2006）に従った。

素材と技法

編組製品72（第216図）

72は底部が円形で大きく、体部が低いかごである。口径159㎝、高さ17㎝。編組技法は六つ目編みで、口縁が一部残存する。六つ目編みは薄く削ったひご材を、強度を出すために三角形に編んだもので、隙間が六角形に見える編組技法である。同方向のひご材の間隔は12～14㎝。ひご材は底面において継ぎ足しされた部分は観察できない。ひごの長さは計測可能な部分で75～80㎝。割り裂いた内部をかごの内面に使用している。底部から体部への立ち上がり部には、幅１㎝程度のひご材1本をタテ材とヨコ材とは別に足して円形に巻きつけている。縁仕舞は不明瞭だが、残存している幅約84㎝の状態から矢筈巻縁か巻縁と思われる。ひご材の素材はマダケの割り裂き材である。木材解剖学的にはタケ亜科としか同定できないが（Ⅵ－２、樹種同定の項参照）、肉眼観察の結果、稈（地上の茎にみえる部分）には二重の節があり、節の間は長いことから、マダケPhyllostachys bambusoides Sieb. et Zucc.と同定した。マダケの稈は通直で、内側は空洞、地下茎が発達する。また稈は肉厚で弾力性があり、曲げや圧力に対する抵抗性が強い材質をもつ。ひご材の幅は2.0～2.2㎝であった。底部の内面には、中央から植物の茎部を多数放射状に広げ、その中央部分に一辺83㎝の方形の網代編みの製品が重なる。網代編みの超え

潜りの数は保存処理後ではほとんど観察できなかったが、現場の所見では１本１単位の４本超え４本潜り１本送りであった。ひご材の幅は約1.4㎝で、縁仕舞は残存していない。網代編みの製品の端部は、縁に沿うように幅1.6㎝のマダケの割り裂き材で留められており（３方向のみ残るが、本来は４方向とも端部を留めたと考えられる）、さらに中央部はマダケの割り裂き材をX字にして留めている。放射状に広がる植物の茎部と網代編みの製品の素材は未同定であるが、それぞれ別素材と思われ、網代編みの製品は単子葉植物と想定される。なお、放射状に広がる植物はわずかに残る残存部から底部縁辺部まで広がることが推定されるが、体部には及んでいない。

編組製品73（第217図）

73は板目の板状の製品の一部に接して出土した敷物あるいはスダレ状の製品である。タテ材方向を長さとした場合、長さ約12㎝、幅約25㎝の範囲が残る。端部は残存していない。編組技法および素材は後述する74-2に類似するため、ここでは記載を省略する。なお、この板状製品と編組製品の方向は揃っていないが、本来何らかの関係があったことが想定される。編組製品と接していない板状製品の反対の面には２次的な刃物痕が多数みられる。

編組製品74-1（第218図）

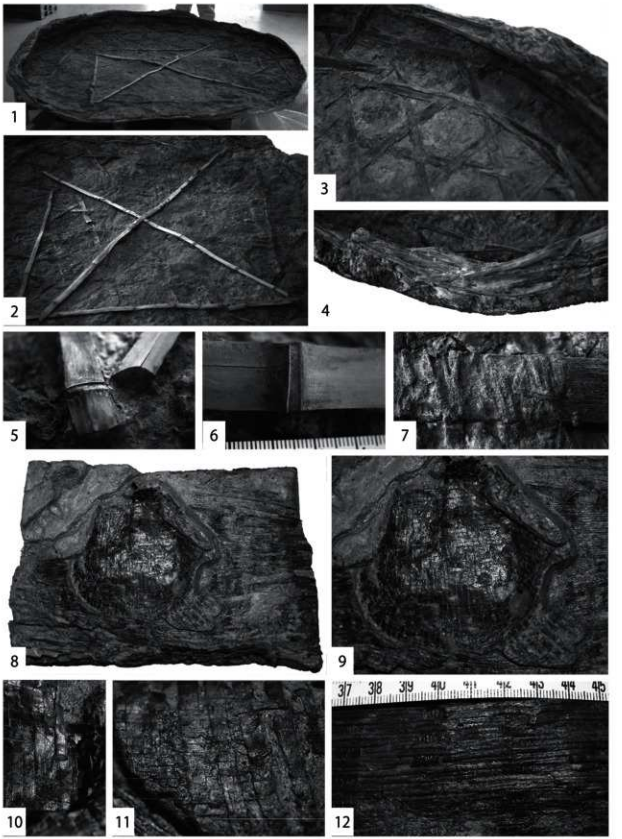
74-1はかごで74-2のほぼ直上から出土した。大きさは底径が１辺約12㎝の方形で、残存高約９㎝、口縁部は残存しない。底部は網代編みで方形につくり、体部は円形で上に向かってひらく形状と考えられる。編組技法は底部タテ・ヨコ材２本１単位の網代編み（２本超え２本潜り１本送り）、体部下部はタテ・ヨコ材１本１単位の網代編み（２本超え２本潜り１本送り）、体部上部はタテ・ヨコ材１本１単位のござ目編み（１本超え１本潜り１本送り）である。ひご材はタテ・ヨコ材共に同一素材の割り裂き材で、ひご材の幅は底部が3.5～5.0㎝、体部のヨコ材は上部になると細くなり1.5～2.0㎜で、密になる。割り裂いた外側をかごの内部に用いていた。部分的に１重の節がみえる。素材は同定できなかった（ST2-641・642）。アズマネザサなど比較的径が細い笹類が使用されたと思われるが、肉眼では判断できなかった。

編組製品74-2（第218図）

74-2は敷物あるいはスダレ状の製品で、74-1のほぼ直下から出土した。長さ約27㎝、幅約43㎝、端部は残存しない。タテ材は１本１単位、ヨコ材は２本１単位のござ目編み（１本超え１本潜り１本送り）である。タテ材は幅広の樹皮（ST2-643）で、幅約1.0㎝。ヨコ材は広葉樹の当年枝（ST2-644・645）で、幅約1.5～2.0㎜の芯持丸木であった。タテ材間隔は約2.5～3.0㎝、ヨコ材間隔は密。

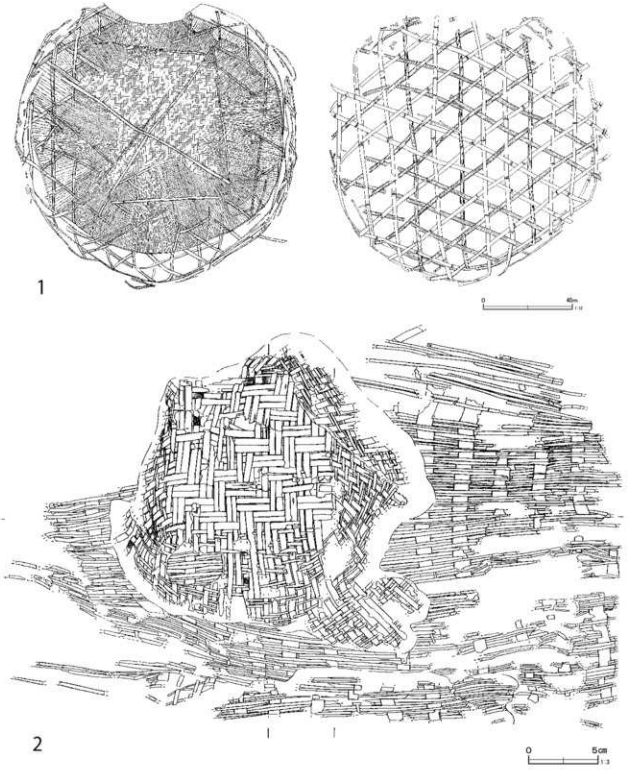
考　察

編組製品72は六つ目編みの製品に網代編みの製品と放射状に植物の茎部を広げた組み合わせた製品である。日本列島において六つ目編みの製品は佐賀県東名遺跡の縄文時代早期末葉から出土していることが確認されているが（佐賀市教育委員会文化財課編 2006）、本製品より大きい製品はこれまで確認されていない。またマダケは植物学的には中世に日本列島に渡来してきたといわれているが、遺跡出土の編組製品でマダケの植物学的な同定が行われたことはこれまでにほとんどなかった。同製品はひご材を用いて年代測定が行われており、本製品は、少なくとも13世紀中頃から14世紀代にはマダケのかごが使用されていたことを示す例であるといえる。六つ目編みは少ない本数で広範囲を編むことができるため、大型のかごを作製するのに適した技法である。その反面、隙間が大きいため、ほとんどのものはその隙間から落ちてしまうことが想定される。内部に敷かれた網代編み製品と放射状の植物の用途は不明であるが、これらが敷かれたことにより、底面はほとんどものを透



第 260 図　第 36 号溝跡出土の編組製品

1–7：編組製品 72（1：全形，2：中央部，3：底部縁辺部，4：口縁部，5-6：中央部マダケの節拡大，7：植物の茎部拡大），8–12：編組製品 74（8：全形，9：74–1 全形，10：74–1 底部竹笹類の節拡大，11：74–1 側面拡大，12：74–2 拡大）.



第 261 図　第 36 号溝跡出土の編組製品
1：編組製品 72（左：内面，右：外面），2：編組製品 74（上が 74 － 1・下が 74 － 2）

過させない機能を持ったと考えられる。

編組製品73と74-2は別々に出土したが、編組技法や素材幅等は同じで、形状から本来は同一個体であった可能性がある。74-2の直上に74-1のかごが乗るように出土したことから、何らかの遺構の一部であった可能性もあろう。74-2と同様な形状と編組技法をもつかごは岡山県津島遺跡なでで出土しており、津島遺跡のかごの時期は弥生時代後期から古墳時代初頭と考えられている（岡山県教育委員会2000）。網代編みは東日本が２本超え１本潜り１本送り、西日本では２本越え２本潜り１本送りが基本的な編み方とされ、その境界は静岡県浜松市蜆塚遺跡付近が想定されているが（平尾遺跡調査会1971）、74-1の底部から体部下部には２本越え２本潜り１本送りの網代編みが用いられていることから、本例はそれより東で出土した例と位置づけることができよう。

（佐々木由香）

引用文献

佐々木由香　2006「65 編組製品」下宅部遺跡調査団編『下宅部遺跡Ⅰ（１）』東京都東村山市遺跡調査会

佐賀市教育委員会文化財課編　2006『東名遺跡』国土交通省佐賀河川総合開発光寺事務所・佐賀市教育委員会

野田真弓　2005「第５章　青谷上寺地遺跡出土のかご」『青谷上寺地遺跡出土品調査報告書１　木製容器・かご』島根県埋蔵文化財センター

平尾遺跡調査会　1971『平尾遺跡調査報告Ⅰ』